

みのかも文化の森
年報

Vol.26
2025年度

みのかも文化の森 年報

Vol.26

2025 年度

登録博物館として地域に向き合う

2022 年 4 月に博物館法が改正され、2023 年度から施行されました。改正に際して、文化審議会の中に初めて「博物館部会」ができ、これからの時代にふさわしい博物館の在り方が 3 年間にわたり議論されました。美濃加茂市民ミュージアムの設置者である美濃加茂市長も全国の「地域博物館」を代表する立場で、委員の一人として参加しました。その部会をとおり「守り、受け継ぐ」「わかち合う」「育む」「つなぐ、向き合う」「営む」という 5 つの視点が提示されました。この方向性は、まさにみのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアムにもあてはまることです。また、今回の法改正で初めて「地域」という文言が条文にはいりました。

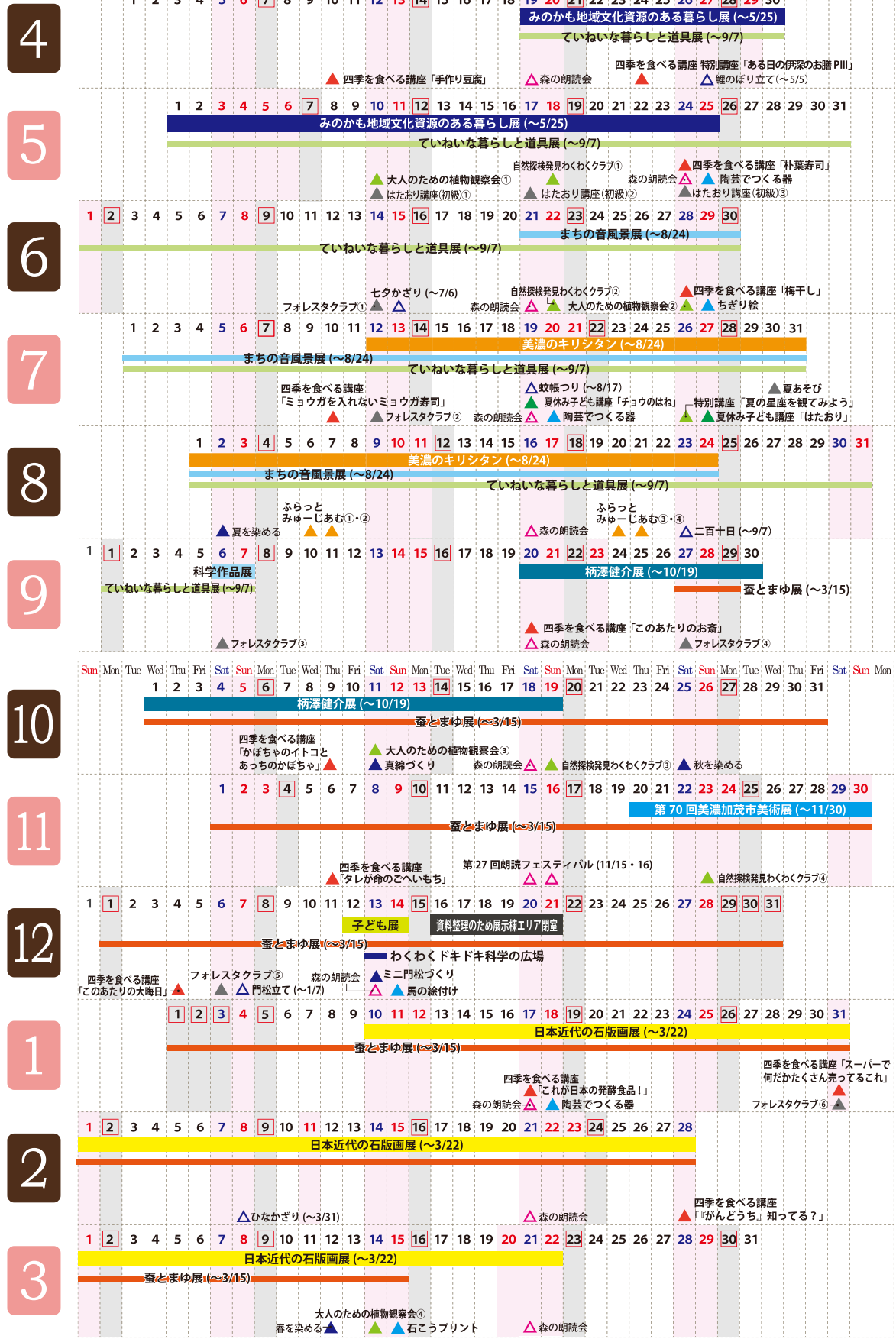
みのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアムは、2026 年 3 月 16 日付で新博物館法による登録博物館として承認されました。今回の登録を機に、地域文化の蓄積と継承を大事にすること、地域的課題に向き合うことなど「社会的役割」を意識し、時代に応じた新たな観点を取り入れて次に進んでいきたいと考えます。

目次

□はじめに	
□ミュージアム カレンダー	1
□理念と基本方針	2
□展示事業	
・常設展示室の方向性と考え方	6
・企画展	
みのかも地域文化資源のある暮らし	
―「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まる―	7
早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業共催展	
美濃のキリシタン―秘められた祈りの証し―	16
現代美術レジデンスプログラム 橋を渡す 柄澤健介	25
明治之花 石版画百景 半原版画館コレクションから	29
・収蔵品展とそのほか	
美術工芸展示室	
特集展示 まちの音風景展	47
民具展示館・生活体験館	
ていねいな暮らしと道具展 伝えたい地域の食と豊かさ	48
蚕とまゆ展 美濃加茂 養蚕の舞台裏	48
エントランスホール	
特別展「秀吉に会える日」	48
そのほかの展示活動	
第70回美濃加茂市美術展	48
□各種講座・ミュージアムイベント	
・年中行事	49
・各種講座	49
・森の朗読会	53
・博学連携フォーラム	53
□学校活用	
・みのかも文化の森 学校活用の考え方と目指すこと	54
・学校利用状況	55
・全学習内容	56
□収集・保存・整理・調査・その他	
・資料収集	60
・資料燻蒸	68
・整理調査及び研究	69
・外部でおこなった発表・報告など	69
・連携	71
・ミュージアムレファレンスの結果	72
・夏休み中学生ボランティア	72
・博物館実習	73
・刊行物等	74
・収蔵資料の公開と活用	74
・報道関係に掲載・紹介された状況	74
・ミュージアムニュースによる情報提供	75
□施設の利用状況	76
□組織・構成・その他	77
□森のアンケート 集計	79
□施設概要・利用案内	81
□みのかも文化の森のこれまで	83

2025.4 ▶ 2026.3 CALENDAR

土日祝 休館日
 ▲四季を食べる講座 ▲アートな1日講座 ▲ていねいな暮らし講座 ▲まゆの家年中行事
 ▲自然観察会 ▲朗読 ▲夏休み子ども講座 ▲ふらっとみゆーじあむ ▲その他



理念と基本方針【みのかも文化の森ビジョン策定】

□ビジョン策定の趣旨

みのかも文化の森・市民ミュージアムは開館してから20年が経ち、これを機に今までの取り組みを振り返るとともに、「この博物館がこのまちにあってよかった」、「ちょっと誇りに感じる」と思ってもらえるような地域博物館になるにはどうしたらよいか、市民の皆さんと「協働」していかに活動をしていくか、森や施設を活用した事業をどのように展開していくかなど、博物館運営をしていく上での方向性をここで示す必要があると考えました。博物館としての機能や役割を整理し、理念や方針に基づいた今後のあり方や将来像を明らかにし、現代的課題もみすえたこれからの取り組みなどを提示して、新たなビジョンとします。

□理念

「さまざまな地域資源が活かされ、ここで自由で深まりのある文化活動と多様な交流が行われるよう願っています。人々の「くらしの一部」として利用され続けるとともに、まちや社会にとって必要とされる場になることをめざします。」が、みのかも文化の森の理念・使命（ミッション）です。

□活動の方針

理念に基づき、次の4つを基本的な方針として活動を展開しています。

①自然との共存

豊かな里山や森のたたずまいをたっぷり「体感」できる場でありたいと思います。身近な自然や生態系から学ぶことの大切さを知り、くらしの豊かさを考える場とします。

②学校教育との連携

ミュージアムの様々なモノやコトをいかした、感動と深まりのある学びができる場とします。さらに子どもが将来にわたり幅広く知的好奇心を持ち続けられるよう支援します。

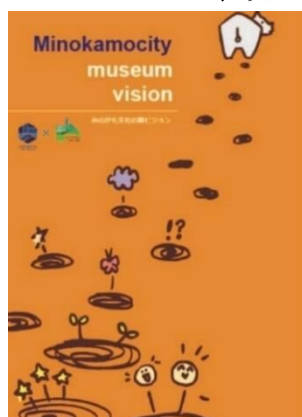
③市民のちから

市民の自由な発想と自発的な動きを活かした取り組みや企画は、新しい力や可能性となって次へつながっていきます。協働する市民の力を大切にします。

④地域の交流拠点

「博物館」や「教育・文化」という枠にとらわれることなく、地域の資源を活かした人々の交流がさかんになり、地域のハブやよりどころとして必要とされる場としての活動を進めます。

策定したビジョンは、次のような小冊子としてまとめました。



目次	・ビジョン策定の趣旨
	・文化の森の使命・将来像
	・文化の森設立当時の思い・願い
	・これまでの取り組み
	・枠にとらわれない取り組み
	・文化の森の機能と役割
	・これからの視点
	・課題をみすえた取り組み
	・機能と役割に関する検証とふりかえり

主な内容について次のように紹介します。

○ビジョンの位置づけ

このビジョンは、第6次総合計画に沿った内容であり、本市の博物館運営を推進していくためのものと位置づけ、本市のまちづくりの基本理念である「みのかも市民憲章」を尊重するものとします。

また、ビジョンに掲げた使命・将来像の実現に向け、長寿命化計画に基づき施設の計画的な更新も行っていきます。

○ビジョン期間

文化の振興は、その成果が現れるまでに比較的長い期間を要し中長期的視点に立って取り組みを進めることが重要になります。

ビジョンの期間は、令和3年度を初年度とし、令和12年度までの10年間とします。

なお、社会情勢の変化によって適時修正等を行うとともに、毎年、各種施策等の進捗状況を把握し、ビジョンの評価・検証作業を行います。

○文化の森が目指す将来像

ひとにとって「心のよりどころ」

一つ目は、ひとにとって「心のよりどころ」となる森です。

- 暮らしに刺激や潤い、「心の健康」をもたらす学びの場
- 日常生活にゆったりと溶け込み、次への行動のきっかけとなっていく場
- 地域の良さを知り愛着（シビックプライド）をさらに高めていく場

まちにとって「地域のよりどころ」

二つ目は、まちにとって「地域のよりどころ」となる森です。

- 地域資源を調べ、整える場
- 地域の課題を共有し、さらに良くするために考える場
- 人と地域社会をつなぐ、「ハブ」としての場

○課題をみすえた取り組み

皆さんの「くらしの一部」として利用され続けるとともに、まちや社会にとって必要とされる場として、今後、留意して取り組むべきことは次のとおりです。

短期的取り組み—

- 収集調査など基盤的活動及び地域資源データベースの充実
- 「気づき」と「築き」が起きる常設展示室の充実
- まちの特性や「いいところ」を共有し、深めていくさまざまなプログラムの充実
- 乳幼児や中高生、在住外国人など関わりが少ない年代層への取り組み
- 回想法などを用いた高齢者の元気につながるプログラムの展開
- ボランティアを中心とした市民団体との協働プログラムの充実と組織の強化
- 学校活用における子どもたちの心の変容につながるプログラムの改良

- ホームページや SNS を通した広報活動の積極的な展開、地域のよさを知り実際に現地へ行ってもらうためのスタートの場としての展開
- 防災教育としての場の展開

中長期的取り組みー

- 知的な心地よさを感じられるための施設整備
- 地域課題解決に向けた地域との連携・協働
- 地域の情報を集約し発信するための施設整備
- エコミュージアム（市全体が博物館）の概念に基づいた事業展開
- 立地の良さを活かした博物館の有効活用
- 「NEW NORMAL 新たな日常」の中での博物館の在り方
- 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）にもとづいた事業展開

※社会的包摂…「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念

- SDGs の実現に向けた博物館の取り組みの推進
- 第6次総合計画及び「健康プラス（＋）ライン」に基づく事業展開
- 持続的な博物館運営を支える財政基盤の確立や人材の確保
- 公共施設等総合管理計画及び長寿命化計画に基づく施設整備

○指標

毎年度、理念と方針をベースにした役割と取り組みについて検証するとともに、中項目、具体的評価指標を設け、ふりかえりを行うこととします。

【大項目】

- 資料・作品の収集・保存、活用
- 資料・作品の整理調査研究
- 展示活動
- 学習機会の提供、団体の支援
- 市民参画
- 学校との連携
- 人物を活かした活動
- 情報の公開と発信
- 利用しやすく魅力ある施設
- 課題をみずえた取り組み

※中項目・具体的評価指標等については省略します。

□美濃加茂市という「まち」の今後に関する役割

合併後、美濃加茂市は70年が経過し、より成熟したまちになっていくには、まち特有のオリジナルなものをどれだけ活用し、アイデンティティとして表現できるのか、そして一つ一つのことがらをどれだけ深まりをもったものにするのかが問われています。文化の森は、「より深まりのあるまち」になるための重要な役割があると考えます。そのために、将来を見据えてたえず検証を重ねながら地道に活動をすすめていきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○目指す森のイメージ

ビジョンの策定と同時に、みのかも文化の森の「森」により親しんでいただけるよう、そのイメージを言葉にしました。

森の中の散策路「逍遙こみち」はこの考え方をもとに令和３年度以降から整えていきます。

「想いをめぐらし、はじまる森」

文化の森は、この地を作り上げている自然、歴史や文化、そしてアートなどいろいろなものを提供しています。しかし、何も一つの答えを用意しているわけではありません。五感を駆使して好奇心をふくらませ、気分を楽にして自由に思いを描ける場です。「博物館」といった枠にとらわれず、日々の暮らしに潤いをもたらし、地域のよさを発見する、ひろがりや繋がりやの出発点として、人々に身近な森であり続けることを目指します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「森と ともに ゆるやかに」

時間がせわしくなく過ぎるこの時代に
さわやかな森の空気を感じながら
学ぶこと 遊ぶこと 何かを表現すること。
日常にちょっぴりの豊かさをえられる場所。
みのかも文化の森は そんな場所として
ゆるやかにあり続けたいと願っています。

【文化の森正面玄関にある看板から】



▲文化の森ビジョン小冊子裏表紙

【２０２０年度策定】

展示事業 常設展示室の方向性と考え方

みのかも文化の森・市民ミュージアムは、開館 20 年目を迎えて、館としての今後の方針を踏まえ、常設展示室をより存在感のあるものにするために、展示の改善を行いました。全面的に展示品を入れ替えたり、大型のジオラマを変えたりするなど、いわゆる「リニューアル」という形ではありません。

ここで改めて原点に立ち返り、展示されているリアルな資料・標本・記録に来場者がじっくり向き合い、それらが語ることを感じたり考えたりする場にしたいと考えます。多面的な観点を提示しながら来場者にとっての、新たな「気づき」と「築き」が起きる展示室を目指します。

美濃加茂市内には歴史や文化を物語る数多くの文化財や地域資源が残されています。そして市民ミュージアムには、様々な分野の膨大な資料が収蔵されています。展示・紹介される資料は、そのほんの一部ですが、より身近なこととして伝わるよう工夫し、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく展示室を目指します。

留意点は次の 3 点です。

①モノから、さらなる好奇心へ繋げる

展示資料は様々な情報を持っています。それらを知識として「教える」のではなく、その人なりに感じたり、気づいたりしてもらえよう自由な学びの場となるよう工夫をします。「きっかけ」と「ふかまり」そして「ゆらぎ」の空間です。

②モノから、人の思いへ繋げる

展示資料には、必ず人が何らかの形で関わっています。資料から、それを見つけ出した人、作った人、使っていたひと、考え関わった人などを感じさせる、その状況に思いを馳せるような展示を考えます。

③モノから、現地やフィールドに繋げる

展示資料は、最初から展示室にあったわけではありません。もともとは、ある場所にあったものやその場所で起きたことを、ここに移動し展示しているに過ぎないのです。実際に森の中や現地を訪れ、その空間とともに事柄を感じてもらえる、いざないの場となるよう試みます。

< 展示室入口に来館者に向けて作成したパネル (2020 年 10 月 1 日作成) >

ようこそ「常設展示室」へ

「常設展示室」って、なんか難しそうな名前ですが、ここはこの地域の良さや奥深さをみなさんと共有する場です。気持ちを楽にして室内を自由に巡ってください。

ならべてあるもののほとんどが本物・実物です。存在感のあるリアルな展示品から「何か」をそれぞれで感じていただきたいと思います。バーチャルなものからは得られない世界をお楽しみください。

展示品のそばには関連する説明文などが添えてありますが、それらは何かを覚えてもらうために置いてあるわけではありません。みなさんの興味関心を深めてもらうためのちょっとしたお手伝いにしか過ぎません。まずは、展示をじっくりと見ていただき、何か一つでも「なぜかな」「この次の展開は？」とか「これを作った人はどんな人だろう」などと、好奇心をふくらませ、展示品の「向こうの世界」に思いを巡らせてもらえたらうれしく思います。さらに、展示をご覧になったあとに「今度こうしてみよう」「現地を訪れてみたい」などと、みなさんの日々の暮らしの発想やこの地に住む楽しさに繋げていただければ最高です。次へのスタートの展示室です。

展示室はコミュニケーションの場でもあります。つぶやいてください。大声でなければ、会話をしてもらっても構いません。また、お聞きになりたいことがあれば、総合案内をとおして遠慮なく学芸員に声をかけてください。

また、「常設」といっても、展示品などの内容は機会のあるごとに変化、充実させていく予定です。

この展示室が、みなさんの心に響き、記憶に残る場となることを心から願っています。

常設展示室 20 年目の「模様替え」にあたり

2020 年 10 月 美濃加茂市民ミュージアム

みのかも地域文化資源のある暮らし —「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まる—

会 期：2025 年 4 月 19 日（土）～5 月 25 日（日）〈37 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室

観 覧 料：無料

展示点数：97 点

入場者数：1,358 人

美濃加茂市民ミュージアム企画展
みのかも
地域文化資源のある
暮らし
2025 4 19 5 25



【内容】

近年、人口減少や少子高齢化、価値観の多様化・分断などが、「社会の課題」として広く認識されるようになりました。しかし、こうした課題は、私たちの身近な暮らしの中で起きてきた一つひとつの出来事が積み重なった結果ともいえます。

令和 6（2024）年 12 月 20 日、美濃加茂市が策定した「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が文化庁長官の認定を受けました。この計画の認定は、岐阜県内で 3 例目、全国では 194 自治体目となります。計画には、歴史文化を生かした魅力ある地域づくりを進めるための基本的な考え方や取組が示されています。

この計画では、「想いがつながり、深まりつづけるまち」を基本理念に掲げています。その出発点となるのは、法律上の「文化財」だけではありません。国・県・市の指定文化財に加え、この土地の自然とともに生まれ、人々の暮らしの中で大切に受け継がれてきたもの、すなわち私たちの営みを物語る証を広く捉え、「みのかも地域文化資源」と位置付けています。

美濃加茂市民ミュージアムでは、「社会の課題」という大きな言葉に埋もれることなく、「毎日の積み重ねがあること」「人と人とのつながりがあること」「現在の暮らしには成り立ちがあること」に目を向けることを大切にしています。そして、私たちの身近な暮らしの中にこそ、守り伝えるべき価値があると考えています。

本展では、この地域計画を手引きとして、本物の「みのかも地域文化資源」と出会い、その魅力や関わり方を考える機会としました。このような地道な取組の積み重ねが、私たちの暮らしや地域をより豊かで深まりのあるものへと育んでいく契機となることを願っています。

【関連事業】

□四季を食べる講座 特別講座 ある日の伊深のお膳 PartⅢ

伊深町での暮らしを日記に綴った民俗学者：佐野一彦氏の記録から、伊深の山里の昭和 30～40 年代の「ある日の食事」を再現した。

4 月 24 日（木）10:30～13:30 参加者：12 人

会場：生活体験館、参加料：500 円

□ミュージアムトーク

担当学芸員、「みのかも地域文化資源」関係者（伊深まちづくり協議会、みのかもえほんのわ、ほか）が展示品等を解説し、活動を紹介した。

4 月 27 日（日）①11:00～12:00 参加者：13 人

②13:30～14:30 参加者：14 人

5月14日（水）①11:00～12:00 参加者：3人

②13:30～14:30 参加者：11人

会場：いずれも企画展示室、美術工芸展示室 参加無料

□ミュージアムツアー

水彩画家のりづきとしお氏とともに美濃加茂市内をバスで巡り、作品に描かれた場所を実際に訪れることで、地域の風景の魅力や作品に込められた思いに触れる機会となった。

講師：のりづきとしお氏（水彩画家）

5月11日（日）13:00～16:00 参加者：12人 参加無料

□ミュージアムフォーラム「歴史資料の保存とこれから」

地域に所在する文化財、特に歴史資料や公文書が抱える現状や課題について理解を深めるとともに、これらの保存・活用を担う文化財行政の役割や、地域で文化財に関わる人々の活動について考えた。また、「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」に基づく取組について学ぶ機会となった。

講師：秋山晶則氏（岐阜聖徳学園大学教授、美濃加茂市文化財保存活用地域計画協議会長）

5月17日（土）13:30～15:00 参加者：25人

会場：研修室、参加無料

□「美濃伊深村の歴史と民俗」を読む会

民俗学者・佐野一彦が昭和30～40年代に著した『美濃伊深村の歴史と民俗』などの著作を実際に読み、佐野のまなざしを通して、伊深の里山の姿や人々の営み、暮らしの風景に触れる機会となった。

5月18日（日）13:30～15:30 参加者：7人

会場：研修室、参加無料

□サイエンスカフェ 人と自然のかかわり

暮らしの中で「人と自然はどのように関わってきたのか」をテーマに意見交換を実施した。

講師：村瀬正成氏（NPO法人犬山里山学研究所理事長）

5月24日（土）14:00～15:30 参加者：15人

会場：café ツナグ、参加料：600円

【刊行物】

「みのかも地域文化資源のある暮らし「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まる！」

A4判 44ページ 2025年6月30日発行 販売価格1000円

伊深まちづくり協議会+みのかも文化の森

会期中、伊深交流センター内「ギャラリー伊深」では、伊深まちづくり協議会と文化の森との協働事業として「佐野一彦がみつめた伊深―昭和 30～40 年代―」展を開催しました。写真に記録された当時の暮らしや風景を通して地域の記憶を共有し、身近な暮らしの中に息づく地域文化資源の価値を見つめ直す機会となりました。



「ギャラリー伊深」での展示

「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」の詳細(全 114 ページ)は、美濃加茂市公式ホームページをご覧ください。

<https://www.city.minokamo.lg.jp/soshiki/5/14525.html>

[トップページ](#) > [組織でさがす](#) > [市民協働部](#) > [文化振興課（文化の森）](#) > 「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が認定されました

【展示品】

No.	資料名	材質など	大きさ(cm)	年	所蔵	備考
I 美濃加茂市文化財保存活用地域計画とは						
1	集められた「みのかも地域文化資源」	紙、写真	—	—	館蔵	9点一括。「指定文化財写真(分野別)」、歴史資料・写真
2	明らかになった「みのかも地域文化資源」	図書	—	—	館蔵	市内8地区、21 点一括。『なつかしの古里太田の巻』『まか
3	全国の『文化財保存活用地域計画』	紙	—	—	館蔵	国リーフレット「美濃加茂市」「本庄市」「富士市」「岐阜市」
II 身近にある、「みのかも地域文化資源」—いろいろな視点や切り口から						
II-1 市内の校歌を読み解く						
4	太田小学校 創立 150 周年記念クリアファイル	プラスチック	31.0×22.0	2023(令和 5)年	館蔵	
5	古井小学校 創立 130 周年記念下敷き	プラスチック	21.0×29.5	2003(平成 15)年	個人蔵	
6	山手小学校 創立 40 周年記念下敷き	プラスチック	21.0×29.5	2014(平成 26)年	個人蔵	
7	『みのかも市報』第 113 号	紙	25.6×18.3	1968(昭和 43)年 11 月 1 日	館蔵	
8	『山手の子』第 2 号	図書	15.2×21.2	1977(昭和 52)年 2 月 1 日	館蔵	山手小学校文集委員会編
9	官製はがき	紙	14.8×10.0	不明	館蔵	
10	山之上小学校 PTA 会報	紙	29.7×21.0	1991(平成 3)年	館蔵	原本:山之上小学校蔵
11	『堀部校長 その日その時』	図書	21.2×15.0	1983(昭和 58)年 3 月	館蔵	
12	手ぬぐい	布	35.3×88.4	1987(昭和 62)年 3 月	館蔵	山之上小学校新築記念事業委員会作成
13	「学校日誌」	冊子	22.5×16.0	1947(昭和 22)年 度	個人蔵	「加茂郡山之上小学校」作成
14	『わかさ』第 8 号	冊子	22.0×15.4	1954(昭和 29)年 度	館蔵	山之上中学校生徒会編
15	『加農七十周年記念誌』	図書	21.3×15.0	1983(昭和 58)年	館蔵	
II-2 「鯉つかめ」と美濃加茂伝承料理の会						

16	『おばあちゃんちのおかって No.1』	冊子	21.0×14.8	2002(平成 14)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会
17	『おばあちゃんちのおかって No.2』	冊子	21.0×14.8	2003(平成 15)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会
18	『おばあちゃんちのおかって No.3』	冊子	21.0×14.8	2006(平成 18)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会
19	『おばあちゃんちのおかって No.4』	冊子	21.0×14.8	2019(令和元)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会
20	『おばあちゃんちのおかって 〔番外編〕漬物特集』	冊子	21.0×14.8	2013(平成 25)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会
21	『四季を食べる講座 鯉つかめ』	冊子	30.7×22.2	2016(平成 28)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会
22	蚕のさなぎ		2.3×1.0×0.8		館蔵	
23	コモ	ワラ	89×59.5		館蔵	

Ⅱ-3 のりづきとしおが描く地域の風景

24	のりづきとしお 《伊深町 美濃加茂》	黒色鉛筆、透 明水彩、紙	21.5×26.0	2005(平成 17)年 12 月 25 日	個人蔵	
25	のりづきとしお 《ふれ愛バス金谷 山之上町》	ボールペン、 透明水彩、紙	18.5×13.0	2012(平成 24)年 12 月 21 日	個人蔵	
26	のりづきとしお 《山之上町／美濃加茂市》	黒色鉛筆、透 明水彩、紙	21.5×27.0	2019(令和元)年 7 月 6 日	個人蔵	
27	のりづきとしお 《金谷地区／山之上 みのかも》	黒色鉛筆、透 明水彩、紙	73.0×104.0	2017(平成 29)年 11 月 18 日	個人蔵	

Ⅱ-4 ライン焼／蘇峽焼

28	加藤友平 蘇峽焼 菓子鉢	陶器	高 9.0×径 14.0	不明	館蔵	銘印 友平
29	ライン焼 湯呑	陶器	高 11.5×径 7.5	不明	館蔵	銘印 友平
30	ライン焼 鉢	陶器	高 11.0×径 17.0	不明	館蔵	銘印 友平
31	ライン焼 徳利	陶器	高 12.0×径 6.5	不明	館蔵	銘印 ライン
32	ライン焼 鉢	陶器	高 7.5×径 14.5	不明	館蔵	銘印 ライン焼
33	ライン焼 湯呑	陶器	高 9.0×径 8.5	不明	館蔵	銘印 なし
34	ライン焼 拳骨花瓶	陶器	高 20.0×径 17.0	不明	館蔵	銘印 なし

Ⅱ-5 このあたりは植物分布の「交差点」

35	ヤブツバキ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2000(平成 12)年 4 月 1 日採集	館蔵	
36	シキミ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2000(平成 12)年 4 月 1 日採集	館蔵	
37	ソヨゴ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	1999(平成 11)年 11 月 14 日採集	館蔵	
38	オオタチツボスミレ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2000(平成 12)年 4 月 21 日採集	館蔵	
39	ショウジョウバカマ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2000(平成 12)年 4 月 1 日採集	館蔵	
40	モチツツジ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2000(平成 12)年 5 月 14 日採集	館蔵	
41	マルバノキ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2002(平成 14)年 5 月 12 日採集	館蔵	
42	ササユリ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	1999(平成 11)年 5 月 31 日採集	館蔵	
43	ミツバツツジ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	1999(平成 11)年 11 月 14 日採集	館蔵	

44	ヤマユリ	さく葉標本	A3(42.0×29.7)	2020(令和 2)年 8 月 1 日採集	館蔵	
45	写真(ヤブツバキ)	写真	A5(14.8×21.0)	撮影年月日不明	館蔵	撮影者:安藤志郎
46	写真(シギミ)	写真	A5(14.8×21.0)	4 月 8 日撮影 (年不明)	館蔵	撮影者:安藤志郎
47	写真(ソヨゴ)	写真	A5(14.8×21.0)	2017(平成 19)年 12 月 28 日撮影	館蔵	撮影者:西尾円 撮影場所:美濃加茂市蜂屋町
48	写真(オオタチツボスミレ)	写真	A5(14.8×21.0)	2001(平成 13)年 4 月 15 日撮影	館蔵	撮影者:安藤志郎 撮影場所:美濃加茂市三和町
49	写真(オオタチツボスミレ)拡大	写真		2001(平成 13)年 4 月 22 日撮影	館蔵	撮影者:安藤志郎 撮影場所:美濃加茂市三和町
50	写真(ショウジョウバカマ)	写真	A5(14.8×21.0)	2020(令和 2)年 3 月 21 日撮影	館蔵	撮影者:西尾円 撮影場所:美濃加茂市伊深町
51	写真(モチツツジ)	写真	A5(14.8×21.0)	2000(平成 12)年 5 月 21 日撮影	館蔵	撮影者:安藤志郎 撮影場所:不明
52	写真(マルバノキ)	写真	A5(14.8×21.0)	2016(平成 28)年 5 月 15 日撮影	館蔵	撮影者:西尾円 撮影場所:加茂郡七宗町
53	写真(ササユリ)	写真	A5(14.8×21.0)	2024(令和 6)年 5 月 29 日撮影	館蔵	撮影者:西尾円 撮影場所:美濃加茂市蜂屋町
54	写真(ミツバツツジ)	写真	A5(14.8×21.0)	2001(平成 13)年 4 月 13 日撮影	館蔵	撮影者:安藤志郎 撮影場所:三和町御殿山
55	写真(ヤマユリ)	写真	A5(14.8×21.0)		館蔵	撮影者:安藤志郎 撮影場所:美濃加茂市山之上
—	美濃加茂市航空写真		235.0×235.0	2023(令和 5)年 8 月撮影	館蔵	中日本航空株式会社撮影
Ⅱ-6 一人ひとりが見つけた「出土品」						
56	夏休み社会科作品「拾えたよ！土器」	紙箱(土器片) 地図、表	—	—	館蔵	小学校4・6年生児童による 為岡遺跡を中心にした研究
57	石器類(日比野修一コレクション)	石	—	縄文、弥生時代	館蔵	亀淵遺跡(古井地区)出土か
58	石器類(安藤正義コレクション)	石	—	縄文、弥生時代	館蔵	『紀要 第 12 集』に記載
Ⅱ-7 これまでにも紹介してきた「みのかも地域文化資源」						
59	まちのいいもの よいところ—山之上—展 ポスター	紙、パネル	51.5×72.8		館蔵	
60	バス停からの小さな旅 掲載リスト					
61	バス停からの小さな旅 紹介パネル					
62	MINOKAMO STORY 紹介パネル					
Ⅱ-8 佐野一彦が見た「みのかも地域文化資源」						
63	佐野一彦	スライド写真		1964(昭和 39) 年 12 月 19 日	館蔵	
64	「美濃伊深村の民俗 正編」		25.8×18.5	1948(昭和 23) 年	館蔵	
65	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」		26.2×18.5	1978(昭和 53) 年	館蔵	
66	佐野が使用したスライド映写機		7.5×14.0×11.5	年代不詳	館蔵	
67	佐野が使用したカメラ		5.0×11.5×6.5	年代不詳	館蔵	
68	「旧大洞道宝生寺西の石佛」	原稿		1974(昭和 49) 年	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民 俗と歴史 続篇 卷十九」
69	「行者さま」	スライド写真		1962(昭和 37) 年	館蔵	撮影者:佐野一彦
70	旧大洞街道宝生寺西の石仏	スライド写真		1966(昭和 41) 年	館蔵	撮影者:佐野一彦

71	「真関の地蔵」	原稿		年代不詳	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷式拾五」
72	「関也の道しるべ石」	原稿		1974(昭和 49)年	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」
73	関也の揭示場	スライド写真		1963(昭和 38)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
74	「別所の石地蔵」	原稿		1974(昭和 49)年	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」
75	地蔵祭り	スライド写真		1963(昭和 38)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
76	「河原田の古き道」	原稿		1972(昭和 47)年	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷拾参」
77	まるやぶ	スライド写真		1964(昭和 39)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
78	「大正中期中における伊深の家並図」	資料(現物)	174.5×91.5	1975(昭和 50)～1985(昭和	館蔵	
79	「正眼寺大門の石碑 昭和四十九年十二月調べ」	原稿		1974(昭和 49)年	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」
80	「正眼寺大門記念碑」	スライド写真		1966(昭和 41)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
81	「庚申堂の鐘」	原稿		1981(昭和 56)年以前	館蔵	佐野一彦「伊深村の民俗と歴史 二十九」
82	庚申堂	スライド写真		1963(昭和 38)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
83	チコンチコン	スライド写真		1963(昭和 38)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
84	「道幅をひろぐ」	原稿		1963(昭和 38)～1965(昭和	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷拾」
85	「上切バス道のブピロメ」	スライド写真		1964(昭和 39)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
86	「岩井洞より甘屋へこゆる道」	原稿		1963(昭和 38)～1965(昭和	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷拾」
87	「岩井洞より甘屋を望む」	スライド写真		1964(昭和 39)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
88	「龍安寺」	原稿		年代不詳	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷ノ二十四」
89	「寺洞口の道のつけかへ」	原稿		年代不詳	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷式拾五」
90	ドンド	スライド写真		1963(昭和 38)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
91	寺洞口のブピロメ	スライド写真		1964(昭和 39)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
92	高倉神社の石灯籠と寺標	原稿		年代不詳	館蔵	佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 式拾七」
93	高倉神社	スライド写真		1963(昭和 38)年	館蔵	撮影者:佐野一彦
94	高倉里から送られた荷札(複製)		22.0×1.8		館蔵	原資料 奈良国立文化研究所
95	佐野一彦撮影 写真スライドショー					

Ⅲ 活かされている「みのかも地域文化資源」—楽しみ・広がり・可能性—

96	「みのかも地域文化資源」を活かす(つなぐ・みんなで支える)－学校教育－	図書、紙、パンフレット	—	—	館蔵	市 FROM-0歳プラン絵本、『津田左右吉物語』
97	「みのかも地域文化資源」を活かす(つなぐ・みんなで支える)－個人・団体－	紙、パンフレット	—	—	館蔵	市第六次総合計画、『市観光ガイド教本』

Ⅳ 「みのかも地域文化資源」への思い

—	「みのかも地域資源」に対する市民意識と協議会でのコメント	—	—	—	—	—
---	------------------------------	---	---	---	---	---

【所感】

2018 年に施行された新文化財保護法で新たに提示された、市町村が策定する「文化財保存活用大綱」（法第 183 条）等に関する指針を文化庁は次のように定めています。

「…このような文化財に加え、生活文化や国民娯楽など、必ずしも文化財に該当しないものであっても、各地域にとって重要であり、守り伝えていくべきと考える文化的所産を幅広く捉える視点も有効」
「本指針で規定する大綱や地域計画は、異なる種類の文化財を総合的に保存・活用する方策を講じるための仕組みであり、そのためには指定・未指定にかかわらず、各地域の多様な文化財を包括的に捉えることが重要。さらに、文化財はそれ単体で形成されたものではなく、自然環境や周囲の景観、そこで行われる人々の伝統的な活動などと密接に関連しているため、文化財そのものだけでなく、それをとりまく周囲の環境を一体的に捉え、保存・活用していく視点も重要」と、地域で保存すべき文化的所産の必要性を説き、周辺の環境も包括的に捉え活用していく視点を重要視しています。

この地域へのまなざしは、2023 年に施行された博物館法第 3 条（事業）に新しく追加された「地域における有形又は無形の文化的所産その他の文化に関する資源（文化資源）」を地域活力のために生かしていく考え方と通ずるものです。博物館は館内の収蔵品（コレクション）にとどまらず地域に存在する多様な文化資源にも視野を広げ総合的な保存・活用をめざす拠点としての役割が今後求められます。

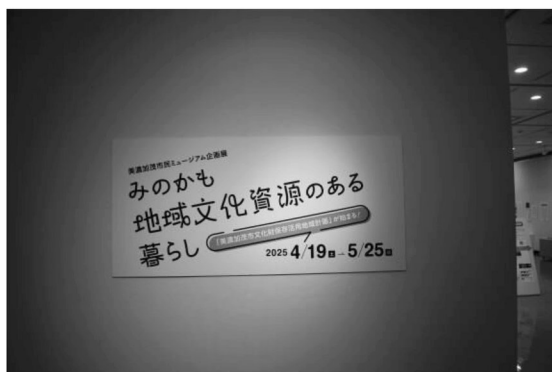
2024 年度に定められた美濃加茂市文化財保存活用計画では、新しく定義した「みのかも地域文化資源」の調査研究、記録化、蓄積、発信・活用のための拠点施設としてみのかも文化の森・市民ミュージアムを位置付けています。その関連性を広く伝えることが今回の展示の主眼でした。

今回の展示では、身近にある「みのかも地域文化資源」をいろいろな視点や切り口を提示しながら紹介していきました。これまであまり着目されてこなかった事象を改めて見つめ直す機会をつくりました。8 つのテーマと担当した学芸員は次の通りです。

- Ⅱ―1 市内の校歌を読み解く〔岩屋〕
- Ⅱ―2 「鯉つかめ」と美濃加茂伝承料理の会〔藤島〕
- Ⅱ―3 のりづきとしおが描く地域の風景〔和歌〕
- Ⅱ―4 ライン焼／蘇峽焼〔和歌〕
- Ⅱ―5 このあたりは植物分布の「交差点」〔高木〕
- Ⅱ―6 一人ひとりが見つけた出土品〔藤村〕
- Ⅱ―7 これまでにも紹介してきた「みのかも地域文化資源」〔渡邊、可児〕
- Ⅱ―8 佐野一彦が見た「みのかも地域文化資源」〔藤島〕

（可児光生）

【展示風景】



〔写真1 入口看板〕



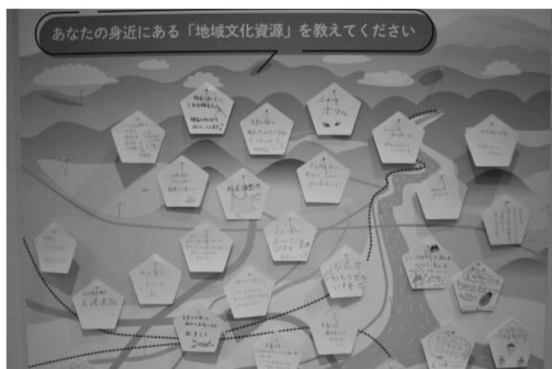
〔写真2 企画展示室〕



〔写真3 企画展示室〕



〔写真4 美術工芸展示室〕



〔写真5 あなたの身近にある「地域文化資源」を教えてください〕



〔写真6 映像展示〕



〔写真7 ミュージアムトーク〕



〔写真8 ミュージアムフォーラム「歴史資料の保存とこれから」〕

【アンケート結果】(全 43 枚)

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？（人）

・満足	17
・ほぼ満足	15
・ふつう	9
・やや不満	1
・不満	0
計	42

② 展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？（人）

・満足	16
・ほぼ満足	15
・ふつう	9
・やや不満	2
・不満	0
計	42

③ 展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？（人）

・満足	16
・ほぼ満足	14
・ふつう	11
・やや不満	1
・不満	0
計	42

④ この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？（人）

・大いに	21
・少し	12
・どちらともいえない	8
・あまりすすめたくない	1
・すすめたくない	0
計	42

自由記述から

- ・独自のまとめ方がよい。校歌は大変興味持てた。(60代)
- ・自身が住んでいる場所が多く取り上げられていて身近に感じることができた。(20代)
- ・佐野一彦が印象的でした。日記もあるとのことで、民俗・歴史等で研究できると面白いと思いました。(40代)
- ・昔と今の写真で比較して見られるのがよかった。(50代)
- ・佐野さんのところ 細かくて人となりわかる。文化財保存、活用他・・・わかりにくかった。(50代)
- ・校歌を取り上げた点、伝承料理の紹介が印象に残った。今後もこのような取りくみを続けてくださればうれしいです。(60代)
- ・美濃加茂市の歴史を詳しく丁寧にご説明頂き大変勉強になりました。ありがとうございました。(60代)
- ・展示はおもしろいものいっぱいあったけど、音と光が欲しかった。(60代)
- ・地域文化資源として、よくある文化財の紹介ではなくもっと身近物を紹介する展示のあり方がすばらしいと思いました。こんな計画をつくりたいです。(30代)
- ・みなさん話し方が上手で人の内容もとても面白かったです。土器を作っていたことやこいつかめという文化、校歌から読みとける特徴など、新しい知識を見につけることが出来、とても有意義な時間でした。(20代)
- ・近隣の町村の関係があればもっと良いと思う。(70代以上)
- ・県外から来たので、地域地区のことは分からない。行ってみたいと思える情報がもっとあっても良いと思う。(40代)
- ・佐野一彦さんの記録は、趣味で郷土史研究をしている者にとって、大変参考になり、刺激を受けました。このような地道なものが地域の歴史を伝えるものになることがわかりました。美濃加茂の歴史探訪ウォーキングなどの企画があると嬉しいです。(40代)
- ・興味深い内容ではあったが、文字情報が主なので、万人受けはしないでしょう、ようやく・解説付で、地元の子供に見せるというのが主目的なのだろうか！富加の資料館でも感じたが、関高校の生徒さん、すごい！(40代)

美濃のキリシタン―秘められた祈りの証し―

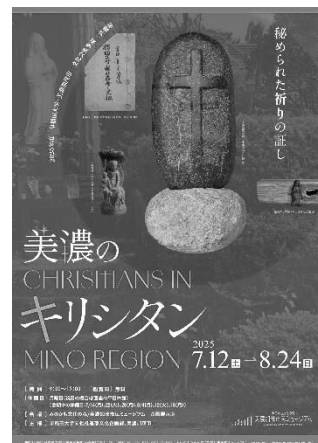
会 期：2025 年 7 月 12 日（土）～8 月 24 日（日） 〈38 日間〉

会 場：企画展示室

観 覧 料：無料

展示点数：76 点

入場者数：2,901 人



【内容】

日本のキリスト教史は、宣教師フランシスコ・ザビエルによって信仰の種が蒔かれたことを端緒とします。美濃地方においては織田信長や子・信忠など為政者の庇護下に広くさかえ、各地に多くの信者―キリシタン―が生まれました。まもなく入った禁教の時代からは、五人組制度の導入や宗門改帳の作成などによって徹底的な監視・摘発が行われるようになり、特に寛文年間(1661-1673)の「濃尾崩れ」と呼ばれる一連の大検挙は、一帯の地域を大きく揺るがすものでした。しかし、こうした状況下でも可児・加茂地域をはじめとした美濃には少なからず信者が存在し、確かな祈りの灯を守り伝えていたことは、現在も各地に伝わるさまざまな遺物や文書、また伝承によってうかがい知ることができます。

元治 2（1865）年、長崎の浦上村の潜伏キリシタンが大浦天主堂の神父に信仰を表明したという「信徒発見」から今年で 160 年。日本キリスト教史上で奇跡とされるこの出来事を契機とした浦上キリシタンの国際的な問題には、早稲田大学の創設者・大隈重信（1838－1922）が強く関わったことでも知られています。

この展覧会ではキリスト教伝来から明治期までの展開をたどりながら、残されたさまざまな“証し”を手がかりとして、美濃に息づく多様な信仰のかたちを紐解いていきます。地域のキリシタンの歴史を深く見つめ、祈りを捧げた人々の姿とその思いについて考えるきっかけになれば幸いです。

【関連事業】

□特別講演「濃尾崩れから考える江戸時代のキリシタン禁制」

江戸時代、キリシタンが厳しく禁止されていたことはよく知られている。にもかかわらず、少なくない信徒が潜伏してその信仰を継続したことも事実である。そして、17 世紀中期と 19 世紀に、複数の地域で、潜伏キリシタンが大量露顕する事件が起きた。この講演では、17 世紀中期の濃尾崩れと呼ばれる事件を手がかりに、キリシタン禁制がもたらした江戸時代の秩序について、考えてみる機会とした。

8 月 3 日（日）13：30～15：00 参加者：116 人

講 師：大橋幸泰氏（早稲田大学教授）

参加料：無料

会 場：みのかも文化の森 緑のホール ※事前申し込み不要

□現地ツアー「キリシタンの里を歩く」

可児郡御嵩町の中山道沿いの山あいにあるキリシタン関連とされる遺物や発見地などゆかりの場所をめぐるツアーを行った。

8月9日（土） 9:30～12:00 参加者：19人

参加料：無料

会場：可児郡御嵩町内 ※事前申込（抽選制）

□森のコンサート

美濃加茂市を拠点に広く活動する「美濃加茂ハンドベルクワイアマザーズ」による、イングリッシュハンドベルのコンサートを行った。

8月24日（日） 10:30～12:30 参加者：80人

参加料：無料

会場：みのかも文化の森 エントランスホール ※事前申し込み不要

□ミュージアムトーク

担当学芸員が今回の展示について解説をした。

7月19日（土）、8月13日（水） ①10:00～11:00 ②13:30～14:30 参加者：計119人

参加料：無料

会場：みのかも文化の森 企画展示室 ※事前申し込み不要

【刊行物・ミュージアムグッズ】

展示図録 A4判 22ページ 販売価格 600円

【展示品】

・「画像」列に○があるものは、パネル写真としての展示資料である。

・「所蔵」列について、資料については所蔵者を、現地写真については所在地を示している。

No	画像	資料名	年代	サイズ(cm)	所蔵
第1章 美濃における初期の布教とキリシタンの誕生					
1	○	イエズス会日本関係書簡集アルカラ版	1575年	—	岐阜市歴史博物館蔵
2	○	花鳥蒔絵螺鈿聖龕	桃山時代	—	岐阜市歴史博物館蔵
3	○	IHS 紋蒔絵螺鈿書見台	桃山時代	—	岐阜市歴史博物館蔵
第2章 キリシタン禁制へー幕府や藩の対応からー					
4		『耶蘇征罰私記』	寛永15（1635）年	27.0×19.5	岐阜県歴史資料館蔵
5		切支丹禁制触書	寛文4（1664）年	31.5×21.9	個人蔵
6	○	耶蘇宗門取締条々覚	寛文11（1671）年	—	上之保生涯学習センター蔵
7		御領分国中在々ニ罷有一所不住之者共之覚（「廿四か条物」）	寛文7（1667）年3月	30.1×142.5	岐阜県歴史資料館蔵
8		覚（「五か条物」）	寛文8（1668）年5月	30.0×84.0	岐阜県歴史資料館蔵
9		覚（「七か条物」）		30.0×84.0	岐阜県歴史資料館蔵
10		「濃州加茂郡為岡村宗門御改帳」	安政3（1856）年3月	22.0×32.0	館蔵
11		宗門送り一札	万延2（1861）年	45.0×32.0	館蔵
12		五人組添書	—	39.0×27.0	館蔵
13		「滝田村五人組仕置帳」	宝暦11（1761）年8月	31.2×21.9	個人蔵

14	切支丹制札	正徳元（1711）年	41.5×103.5×3.5	中山道みたけ館蔵
15	切支丹制札	正徳元（1711）年	71.2×43.3×3.3	個人蔵
第3章 「濃尾崩れ」の大弾圧と可児・加茂地域				
16	『尾濃葉栗見聞録 天上』	享和元（1801）年（※序）	23.7×16.0	岐阜県図書館蔵
17	○ 『正事記 智』	嘉永3（1850）年（写）	—	徳川林政史研究所蔵
18	○ 『殿中日記』	寛永元（1661）年	—	国立公文書館蔵
19	○ 「寛文五年尾州ニテ吉利支丹出候村之覚帳」	寛文5（1665）年4月24日（写）	—	徳川林政史研究所蔵
20	中切村庄屋手控帳		14.0×72.5	個人蔵
21	「中切村吉利支丹所縁者帳」	正徳3（1773）年3月	29.8×21.0	個人蔵
22	「濃州可児郡坂戸村五人組御仕置帳」	宝暦3（1753）年3月		個人蔵
23	「転切支丹類族存命覚帳」	寛保3（1743）年8月（改）	21.7×13.9	可児郷土歴史館蔵
24	塩村新田村入りにつき請書	嘉永6（1853）年2月	32.1×44.0	可児郷土歴史館蔵
25	○ 磯谷家系図	天保6（1835）年（※原本）	—	個人蔵
26	○ 甘露寺		—	個人蔵
27	○ さすり地藏		—	甘露寺（可児市塩）
28	○ キリシタン硯石		—	甘露寺（可児市塩）
29	○ 向田河原と切支丹塚		—	可児市坂戸
30	○ 十字架不動尊		—	所在不明
第4章 キリシタンの里の発見—秘められた祈りの証し—				
31	十字架陽刻碑		30.3×14.2×16.0	中山道みたけ館蔵
32	○ 十字架陰刻碑		—	中山道みたけ館蔵
33	○ 十字架陰刻碑		—	中山道みたけ館蔵
34	十字架陰刻碑		36.0×19.0×8.2	中山道みたけ館蔵
35	○ 子育て観音像		—	中山道みたけ館蔵
36	○ 子育て観音像		—	中山道みたけ館蔵
37	子育て観音像		9.2×9.5×4.5	中山道みたけ館蔵
38	○ 水神碑		—	可児郡御嵩町内
39	水神碑 拓本		28.0×22.0	館蔵
40	○ 「南無阿弥絶仏」碑		—	中山道みたけ館蔵
41	マリア像		8.4×2.2×2.2	中山道みたけ館蔵
42	木材に隠されていたマリア像		像:4.6×1.8×1.0 木:29.3×5.2×3.2	中山道みたけ館蔵
43	観音堂厨子の部材（「天主之拝」墨書）		7.0×40.0×0.5	中山道みたけ館蔵
第5章 キリシタンたちの行く末—禁教の終焉へ—				
44	「長崎山里村浦上切支丹召捕一条書拔」		26.3×18.0	早稲田大学図書館蔵
45	太政官諸局会議議事録		25.1×17.2	早稲田大学図書館蔵
46	「切支丹禁制の心得告諭」		29.8×45.2	早稲田大学図書館蔵
47	岩倉具視 書簡	慶応4（1868）年	21.0×105.0	早稲田大学図書館蔵
48	切支丹制札	慶応4（1868）年3月	34.8×65.2×7.0	個人蔵
49	切支丹扱い方に関する書簡	明治元（1868）年11月29日	24.0×6.0	早稲田大学図書館蔵
50	對英外交文書	明治2（1869）年3月20日	20×9.0-38×9.0	早稲田大学図書館蔵

51	耶蘇教課者各地探索報告書		25.1×17.2	早稲田大学図書館蔵
52	「神道ヲ興シ耶蘇教ヲ防止スルノ議」	明治5（1872）年11月	29.0×21.2	早稲田大学図書館蔵
53	「西教蔓延防止困難ニ付取扱掛及課者一同免職願書」	明治6（1873）年10月	24.5×17.0	早稲田大学図書館蔵
54	「太政官布告」第68号	明治6（1873）年2月 24日	23.0×16.0×11.0	館蔵
第6章 さまざまなキリシタン関連資料				
55	龍図	江戸時代中期	181.3×30.0	早稲田大学図書館蔵
56	基督絵伝		141.1×47.9	早稲田大学図書館蔵
57	踏絵拓本 三種		143.5×32.3	早稲田大学図書館蔵
58	『吉利支丹物語』上・下	寛永16（1639）年	27.0×18.5	早稲田大学図書館蔵
59	『吉利支丹宗門来朝実記』		25.0×17.5	早稲田大学図書館蔵
60	『破切支丹』	寛文2（1662）年	27.0×17.3	早稲田大学図書館蔵
61	切支丹制札	正徳元（1711）年	34×88×4.4	早稲田大学図書館蔵
62	「吉利支丹宗門之事累年公儀度々御条目写」	承応2（1653）年～延宝4（1676）年	27.6×19.5	早稲田大学図書館蔵
63	「古切支丹并類族僉儀可仕覚」	貞享4（1687）年	28.0×19.5	早稲田大学図書館蔵
64	切支丹禁制御触書	貞享4（1687）年	34.0×188.0	早稲田大学図書館蔵
別章1 キリシタンの伝承と遺物ー多様な信仰のかたちー				
65	マリア像		17.3×5.2×4.3	臨川寺（加茂郡川辺町）蔵
66	○ キリシタン墓碑		—	臨川寺（加茂郡川辺町）蔵
67	『新撰美濃誌』	明治33（1900）年	22.5×15.0×3.3	館蔵
68	○ 『大円宝鑑国師年譜』	宝暦10（1760）年（写）	—	大仙寺（加茂郡八百津町）蔵
69	○ 治郎田洞の石碑群		—	加茂郡七宗町神渕
70	○ キリシタン石仏		—	美濃加茂市太田町
71	子安観音像		28.6×12.2×10.0	お亀庵（美濃加茂市三和町）蔵
72	宮殿再建棟札	寛保3（1743）年	32.5×10.2×2.5	お亀庵（美濃加茂市三和町）蔵
別章2 美濃・尾張の殉教史ーその研究と顕彰活動ー				
73	森徳一郎「尾濃切支丹後記」	名古屋新聞 昭和11（1936）年9月18日付	19.0×12.0	岐阜県歴史資料館蔵
74	森徳一郎書簡	昭和10（1935）年8月15日	36.4×25.7	岐阜県歴史資料館蔵
75	「史料備忘録 第二冊」		19.0×15.9	岐阜県歴史資料館蔵
76	「春里村切支丹関係書類」一括		25.8×18.0	個人蔵

【所感】

本展は2025年度の早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業の一環として開催したものであるが、今回の企画開催の発端および共催展としての開催に至った経緯については、以下のいくつかの事由があげられる。①過去的美濃加茂市域の文化財調査の中でキリシタンに関連するとの伝承をもつ遺物が発見されており、また市史などにもキリシタンに関わる記載もみられ、断片的ながらも地域のキリシタンの情報が把握されていたこと、②この地域は江戸時代の中ごろに、全国のなかでも有数の大弾圧「濃尾崩れ」が発生しているという歴史的な裏付けがあり、現在でも市域をはじめ近隣の可見地域、御嵩地域などにキリシタン伝承地や伝承遺物、また古文書類が伝わっていること。なおこうした美濃・尾張地域のキリシタン史については、大正時代から昭和初期を中心に、現在に至るまで郷土史家や宗教

家によって資料の発掘が行われ、すでに研究の蓄積があった。③早稲田大学との文化交流事業としての開催にあたり、早稲田大学所蔵の資料をアーカイヴ上で調査したところ、特に幕末から明治期にかけたキリスト教禁教の終焉に関わる行政内部の資料が多数所蔵されていたこと、④早稲田大学には日本のキリシタン史研究の第一線で活躍されている大橋幸泰教授が在籍されて、今回の展示について指導を賜ることができたこと、⑤元治2(1865)年に長崎の大浦天主堂で起きた「信徒発見」から当年(2025年)が160周年にあたる節目の年であったこと、などである。

昭和初期より郷土史家たちに発掘されていたが所在不明となっていた資料についても、このたび関係各位のご協力を得て再調査、再検討がかない、美濃のキリシタン像に再び光を当てることができたのは大きな成果であったように感じる。展示を通しては当初の想定以上の方々の来場や多くの反響をいただき、「キリシタン」というテーマが惹きつける力の大きさや、禁教の歴史や当時の人々の意識が宗教的な分断といった現代問題ともつながる可能性について再認識することとなった。

(岩屋 孝志)

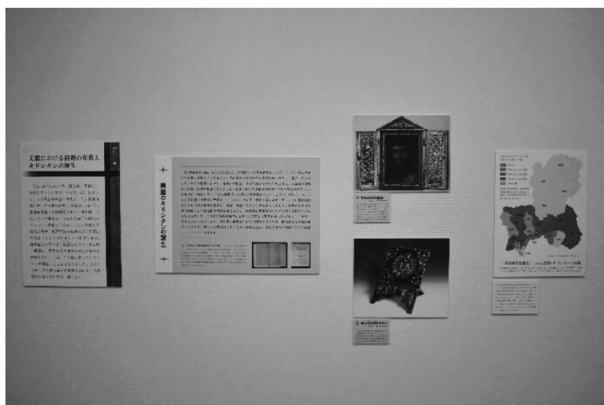
【展示風景】



玄関看板



入口看板



第1章「美濃における初期の布教とキリシタンの誕生」



第2章「キリシタンの禁制へー幕府や藩の対応からー」



第3章「濃尾崩れ」の大弾圧と可児・加茂地域



第4章「キリシタンの里の発見ー秘められた祈りの証しー」



第5章「キリシタンたちの行く末ー禁教の終焉へー」



第6章「さまざまなキリシタン関連資料」



別章1「キリシタンの伝承と遺物ー多様な信仰のかたちー」



別章2「美濃・尾張の殉教史ーその研究と顕彰ー」



ミュージアムカフェ コラボメニュー



特別講演「「濃尾崩れから考える江戸時代のキリシタン禁制」



現地ツアー「キリシタンの里を歩く」



森のコンサート

【アンケート結果】(全 432 枚)

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？(人)

・満足	233
・ほぼ満足	149
・ふつう	39
・やや不満	6
・不満	1
計	428

② 展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？(人)

・満足	209
・ほぼ満足	151
・ふつう	59
・やや不満	7
・不満	0
計	426

③ 展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？(人)

・満足	220
・ほぼ満足	160
・ふつう	44
・やや不満	3
・不満	0
計	427

④ この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？(人)

・大いに	251
・少し	118
・どちらともいえない	53
・あまりすすめたくない	2
・すすめたくない	1
計	425

自由記述から

- ・実家周辺もキリシタンが有名で幼いころから聞きなれてことばだったため今回、来館させていただきました。今の様な SNS など伝達方法が発達していない時代に全国へ広まったキリシタンの信仰の深さを感じました。ありがとうございました。(50 代)
- ・とても詳しくかつ見やすくまとまっていて、実物の石造や古い写真など資料も豊富で非常に良かったです。貴重な資料が拝見できて感謝です。解説が比較的淡々としていることも、このきわめてはげしくきびしい歴史を受け止める上での助けになったと思います。(あつ

く語られると、なかなかうまくうけとれないので) (50 代)

- ・御嵩のキリシタンについてはしっていましたが、可見市、美濃加茂市、川辺町のことは知りませんでした。以前広重の描いた御嵩宿の浮世絵をみて謡坂の方向に「†」の影があつて不思議に思ったことがあるのですが、調べてる人いないかなあ。(60 代)
- ・隠れキリシタンの長い受難が分かりました。よく細かく調べられたものです。人間の宗教に対する強い強い執念を感じます。恐ろしく美しいのでしょうね。根底にあったものは何だったのだろう。自分の命と引き換えの信仰は、そういう事があつた（或るいは、「ある」）ことは知っていてもこんな身近にあることがおどろきです。(無信心なものにはよくわからない)。信仰って何なんでしょうね。(60 代)
- ・とても見やすい、わかりやすい。細かなところまで知り得て、とても良かった。よく調べられている。構成もすばらしい。学芸員の説明で、さらに深まった。(50 代)
- ・子安観音像を横から眺めたときの優しく包みこむような丸みがとても印象的です。生きる人全てがこのように安心して暮らせますように。また来ます。(50 代)
- ・美濃キリシタンの展示を見て、純粋な信仰と、平凡な日々の中に静かな祈りを感じました。逆に、これに対して、無理矢理統治しようとする、お上（かみ）のやり方に、ゲンナリしました。今も変わらない権力者のやり方に注意したい！！(40 代)
- ・信徒でもご本尊を拝ませて頂き感謝します。キリスト教の信者であった人が居たとは聞いていませんが、そんな歴史が有ったと思う展示、ありがとうございました。(70 歳以上)
- ・今回、濃尾崩れに興味を持って来館しました。この地区で江戸時代に厳しいキリシタンの弾圧があつたのは知っていましたが、もっと詳しく知りたかったので来ました。自分自身はキリシタンではありませんが、これだけの人が、きびしい江戸時代を生きてきたんだなと感じました。機会があれば、ゆかりの地をもっと勉強してみたいと思います。(50 代)
- ・切支丹の弾圧は、身近な地域でもあつたことを知ることができました。長崎など中国～九州地方のことだと思っていたのでびっくりしました。むごい処刑などがされていたことを知り、胸が痛いです。宗教の自由が認められている現代の有り難さを感じました。ありがとうございました。紫をベースとした展示がとてもオシャレです素晴らしいです。Café ツナグさんとのタイアップいつもすごいですね
- ・神様を信じた方達が苦しみの中にあつても尚、ゆるがない信仰を持たれていた事を知り、弾圧の中を生きた

れたクリスチャンの方の為に祈ります。私たちの身近にこのようなクリスチャンの方たちの生きざまを自分の眼で確認できた事は今後のクリスチャン生活のはげみとなります。今回の展示に心を打たれました。有がとうございます。(70歳以上)

- ・今、なお発見があり、人の想いをこうして表現していくことの重要さを感じました。ミュージアムとして、大切なアプローチだと思います。今後も楽しみにしています。クリスチャンに対してある意味、マリア像や十字架など物質的な対照がなくても信仰できるのではないかとギモンをもちます。マリア像の形状は長細く立像のようなものであったり凸凹がマリア像の顔に見えるような石が印象的でした。(60代)
- ・実物もさながら、写真での拡大展示がよい。古文書も解説がわかりやすい。邪義について初めて知りました。興味深いです。川辺や七宗のことも初めて知りました。早稲田大学の史料も興味深い。(40代)
- ・実物もさながら、写真での拡大展示がよい。古文書も開設がわかりやすい。邪義について初めて知りました。興味深いです。川辺や七宗のことも初めて知りました。早稲田大学の史料も興味深い。(40代)
- ・火刑・処刑・追放・検挙などキリスト教を信じているだけなのに信じたことでおそろしいばつを受けなければいけない。それでも信仰を捨てない。多くのキリスト教信者のゆるがない神を信じる信者の信仰に、心が洗われます。私は可児市の帷子の出身です。塩に記念塔があることが知っていますが、弾圧発端の地であることは全く知らず、多くの殉教者に心を寄せる想いです。(50代)
- ・「美濃のクリスチャン」の展示について。この展示で、「キリスト教」にゆかりのある事が初めて知れて良かった。とてもパネルの図や文字が分かりやすく、色分けしてよかった。図の下の子備情報は、パネルが小さいのでいらないと思う。クリスチャンの豆知識などパネルであれば良いと思った。書記の展示が多く目立った展示だと思った。制札展示してあったがもっと、書記以外の展示物を見たいと思った。美濃のクリスチャンに関わったマップを作り、どこで、何をしたのか。大きいパネルをつくって展示したら分かりやすいと思った。クリスチャンの展示された石はとても良かった。こういう、地方にまつわる展示も良いと思ったのでまた、地元でゆかりのある展示をしてほしいと思った。(30代)
- ・自身がクリスチャンであり、御嵩にうつり住んだ時、町の史料館で隠れクリスチャンの里としり、ずっと気になっていた。可児にある教会に集っていて、塩が、じゅんきょうの地だと知り、深く知るチャンスがあればと願っていた。多くの資料から守り抜いた信仰とその生き様や心を見ることができ、又その当時信仰を守り

抜く厳しさも同時に知れて、心が動かされ感動しました。(40代)

- ・難しい漢字が多く、小学生はよく読めなかった。当時の十字架を隠すための工夫(水神とか)を知って驚きました。宗教の自由が認められている現代に感謝しました。(小学生)
- ・今日の展示。万人受けするテーマではないが、極めて質の高い企画であった。一般に知られていない当地域の歴史を立ちあがらせている。おそらく見学者は少ないだろうが、地域の文化活動としてとても有意義であり、公費を使う価値があった。(50代)
- ・キリスト教弾圧の長い歴史があり、現代までその歴史が続いている。明治に信仰の自由が獲得されたが、今もなおキリスト教への偏見などは存在している。しかし250年もの間、名もない庶民たちが信仰を守り続けたことは、深い感銘を受ける。そして、これらを研究し続けている人々と、その足跡に敬意を表したい。スポットの当たらない歴史にこそ価値があり、その存在は消すことができない。(50代)
- ・知らなかったことが一杯でとても学びが多く得られました。郷土史家の活躍も展示していただいて、横山先生他みなさんの活動の様子をうかがえて参考になりました。先に図録があるのを知っていたら買ってみながら回れてよりゆっくり見られたと思います。ショップ(カフェ)のコラボはすばらしかったです。(50代)
- ・ゆっくり見ることができました。配置と来場者とベンチ等の休憩スペースのバランスがよく、休みながら、一度展示室から出て戻ったりしながら、興味深く見せていただきました。ありがとうございます。(40代)
- ・この地にどうしてキリスト教が広まったのか地理・歴史についてよく理解できた。自分たちの地域を知る事ができよかった。どうしてこの時代に、人々が苦しい思いをしてでもキリスト教を求めたのかさらに考えていきたい。(60代)
- ・このような機会がなければ、知ることも考えることもなかったと思います。私が住む地域に多くの殉教者がいる事。不当な扱いを受けながらも改宗せず、むしろ喜んで殉教する、信仰の強さも知ることができました。企画して下さい、ありがとうございます。これからも覚えて、伝えていきたいと思います。(20代)
- ・私は基本仏教ですが、特にどこの国の宗教でも敬っています。一部の方が自分の団体だけ、宗教がどこだからとかだけで人のことを悪くいたり、人のさんげを見て、勝手にうらんだり、ねたむのは違うと思います。むしろすべてに感謝し、どう生きるか？が重要で、何でもですが、ひとをあやつったり、コントロールするのではなく、仲良くしたり、話合う、分かりあうことが必要だと思いました。いつも勉強させていただきありがとうございます。(30代)

【早稲田会場】

会 期：2025 年 11 月 21 日（金）～12 月 21 日（日）（27 日間）
 会 場：早稲田大学歴史館（早稲田キャンパス 1 号館 1 階） 企画展示室
 観 覧 料：無料
 展示点数：25 点（画像を除く）
 入場者数：3,856 人

□展示風景



□展示資料

・現物資料の展示品のみ列記する（パネル写真としての展示資料はのぞく）。

No	資料名	年代	サイズ(cm)	所蔵
1	切支丹禁制触書	寛文 4（1664）年	31.5×21.9	個人蔵
2	「濃州加茂郡為岡村宗門御改帳」	安政 3（1856）年 3 月	22.0×32.0	館蔵
3	「滝田村五人組仕置帳」	宝暦 11（1761）年 8 月	31.2×21.9	個人蔵
4	切支丹制札	正徳元（1711）年	41.5×103.5×3.5	中山道みたけ館蔵
5	中切村庄屋手控帳		14.0×72.5	個人蔵
6	「中切村吉利支丹所縁者帳」	正徳 3（1773）年 3 月	29.8×21.0	個人蔵
7	「転切支丹類族存命覚帳」	寛保 3（1743）年 8 月（改）	21.7×13.9	可児郷土歴史館蔵
8	十字架陰刻碑		36.0×19.0×8.2	中山道みたけ館蔵
9	木材に隠されていたマリア像		像：4.6×1.8×1.0 木：29.3×5.2×3.2	中山道みたけ館蔵
10	マリア像		8.4×2.2×2.2	中山道みたけ館蔵
11	十字架陽刻碑		30.3×14.2×16.0	中山道みたけ館蔵
12	水神碑 拓本		28.0×22.0	館蔵
13	「長崎山里村浦上切支丹召捕一条書拔」		26.3×18.0	早稲田大学図書館蔵
14	岩倉具視 書簡	慶応 4（1868）年	21.0×105.0	早稲田大学図書館蔵
15	對英外交文書	明治 2（1869）年 3 月 20 日	20×9.0-38×9.0	早稲田大学図書館蔵
16	『吉利支丹物語』上・下	寛永 16（1639）年	27.0×18.5	早稲田大学図書館蔵
17	『破切支丹』	寛文 2（1662）年	27.0×17.3	早稲田大学図書館蔵
18	基督絵伝		141.1×47.9	早稲田大学図書館蔵
19	龍図	江戸時代中期	181.3×30.0	早稲田大学図書館蔵
20	子安観音像		28.6×12.2×10.0	お亀庵（美濃加茂市三和町）蔵
21	『新撰美濃誌』	明治 33（1900）年	22.5×15.0×3.3	館蔵
22	マリア像		17.3×5.2×4.3	臨川寺（加茂郡川辺町）蔵
23	「切支丹関係写真集」		30.0×22.8	個人蔵
24	『切支丹の迫害史』	昭和 31（1956）年	29.8×21.0	個人蔵
25	「春里切支丹関係書類」		25.8×18.0	個人蔵

会 期：2025 年 9 月 20 日（土）～10 月 19 日（日）〈32 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室、展示ホール

展示点数：彫刻作品 計 11 点

観 覧 料：無料

入場者数：1,221 人



【内容】

「芸術と自然」をテーマに開館以来、継続している現代美術レジデンスプログラムでは、作家による滞在制作とその成果発表として展覧会を行う他、作家と市民の交流の場としてワークショップなどを毎年開催しています。今年度は愛知県在住の作家・柄澤健介（1987 年～）を紹介しました。

作家は登山をはじめ、自然に身を置く体験から山河のイメージを木彫で表現します。素材にはクスノキの丸太を用い、チェーンソーを使って彫り込みます。一塊の木から出現させた線と面、表裏の関係性、複雑な造形を様々な角度から眺める時、眼の前の風景はめくるめく展開していきます。連なる山の稜線、切り立つ崖、深い谷間。窪みの部分に流し込まれた乳白色のワックスは、氷河の冷氣や水の深度を連想させます。柄澤健介の作品は、大地と地底を一時に見るような不思議な体感を観る者に抱かせます。

近年、作家はこうした木彫にフレーム状の鉄を組み合わせた空間構成を模索しています。そして自然との関係性の中で人が生み出す造形について思いを巡らせ、自然の中で生きるために人が作る建築物を「自然」と言わないのは何故か、と問いかけます。

今回の展覧会に向けて作家は夏の約 1 か月半の間、当館のアトリエ棟に宿泊滞在しながら新作を制作しました。彫刻と鉄の構造物で成り立つ自身の作品を谷間に架かる橋のイメージに重ね、人と自然と芸術の関係性について考察します。山と山の間に一本の橋を渡すような、人間の建築的な営みを自然と捉え直す柄澤健介の新しい試みは、「芸術と自然」の定義を広げるものとなったことと思います。

【関連事業】

□オープンスタジオ

8 月 23 日（土） 9:00～17:00 10:00～11:00 アーティストトーク 参加者：24 人

講 師：柄澤健介氏 会 場：別棟収蔵庫 工房、宿泊アトリエ棟

□アーティストトーク

9 月 20 日（土） 13:00～14:00 参加者：38 人

講 師：柄澤健介氏 会 場：企画展示室・美術工芸展示室・展示ホール

□ワークショップ「景色の発掘」

10 月 5 日（日） 13:00～16:00 参加者：11 人

講 師：柄澤健介氏 会 場：陶芸室

【刊行物】

記録集「柄澤健介 橋を渡す」A5 判 16 ページ 2026 年 2 月 26 日発行 販売価格 400 円

【展示品】

*所蔵は全て作家蔵

1	Vessel	木、パラフィン、胡粉	2023-24 年	H160×W1125×D610mm
2	橋を渡す〔建築―鉱物〕	木、鉄、箔	2025 年	H1270×W740×D4495mm
3	肌理と稜線	木、鉄	2024 年	H2095×W1070×D905mm
4	稜線と肌理	木、鉄	2024 年	H1230×W1360×D3070mm
5	橋を渡す〔しつらえ〕	木、鉄、パラフィン、胡粉	2025 年	H2190×W4500×D1230mm
6	淡洗	木、パラフィン、胡粉	2023 年	H1160×W700×D645mm
7	落下と共振	木、パラフィン	2022 年	H655×W445×D220mm
8	分水嶺	木、パラフィン	2021 年	H1245×W300 ×D300mm
9	道	木、パラフィン、鉄	2023 年	サイズ可変
10	変わらぬ地平	木、パラフィン、胡粉	2025 年	H220×W430×D305mm
11	氷洞	木、パラフィン	2025 年	H100×W450×D255mm

【所感】

展覧会場には柄澤健介が近年取り組んできた大作と、当館での滞在制作による新作を展示した。

滞在制作は 8 月 5 日から始まった。その前日、作家が普段使っている作業台や工具と共に材料のクスノキの丸太と展示作品の一部がスタジオ（別棟収蔵庫 1 階）に搬入された。倉庫部分に棚を設え、工具を並べ、作業場となる中央部分に板を敷き、小型のチェーンソーを使った小品の制作に着手した。8 月 12 日からは大きな丸太を使った作品に着手した。構想段階で詳細な図面を描くことはなく、彫りながら細部の形を考えるという作家は木の前に立ち、刃に見立てた手のひらを幾度も返ししながら考え、木の深部を幾何学的にえぐり出していった。作家はその手応えを「地底の鉱物を形作るような感覚に近い」と語った。スタジオでは彫刻を支える鉄の構造体も自ら設計して切断し、溶接して組み立てる工程も並行して行われ、夜間にはアトリエで細部を仕上げる作業などが続けられた。こうした制作は展示作業と並行して 9 月 6 日―18 日まで続けられ、新作《橋を渡す〔建築―鉱物〕》《橋を渡す〔しつらえ〕》、《変わらぬ地平》《氷洞》の計 4 作品が完成した。

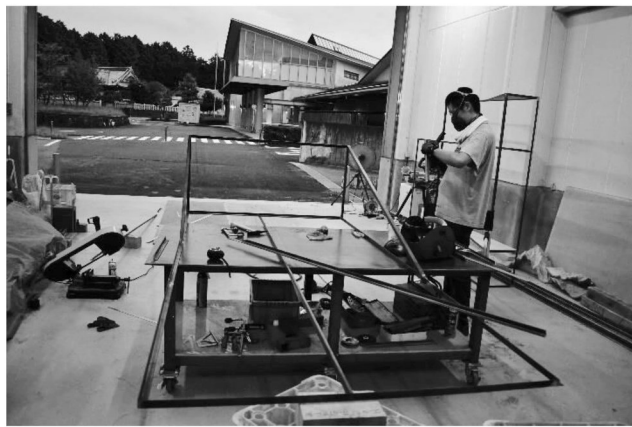
《橋を渡す〔建築―鉱物〕》は、当館の屋根の形を模して作り始めた新作で、2 点の木彫を両端に配した鉄の構造体は橋を想起させる。建築と鉱物、人と自然の造形を掛け合わせることで、人と自然と芸術との「橋渡し」を試みたもの。《橋を渡す〔しつらえ〕》は鉄のアングルを溶接して作った二つの棚の形状の構造物の上に、今までに制作してきた小品を再構成したものである。

美術工芸展示室では、愛知県の矢作川から着想を得て制作した愛知県西尾市での現代美術展への出品作《道》を展示。企画展示室に配置された、複雑に削り出された地肌と稜線を描く木彫が幾何学的な構造体によって中空に浮かび、仰ぎ見る視点と俯瞰の視点から体験する対作品《稜線と肌理》《肌理と稜線》とともに、鉄の構造体と木彫を組み合わせる空間を凌駕する近年の柄澤健介の試みを一堂に眺められる機会ともなった。全体の展示構成は土方大氏の協力により、空間の広さを生かすよう点数を最小限に絞り、全体照明を使わずスポットライトのみで作品の表情を引き出す手法を採った。森の木立が見えるガラスに面した展示ホールには新作の小品《変わらぬ地平》《氷洞》を展示した。

関連企画として、会期に先立ち作家の制作現場を見学するオープnstudioを開催した。宿泊滞在したアトリエとスタジオの二会場で制作の経過を知る機会となった。最後にスタジオに戻り、チェーンソーで木を彫る様子も実演、参加者は展覧会に向けて制作する作家の姿を目の当たりにした。また会期中に行ったワークショップでは、作家が準備した蠟を流し込んだキューブ型のクスノキを素材として、鑿やのこぎりで削り出す彫刻に参加者が取り組み、作家の制作を追体験した。（和歌由花）



〔滞在制作 8月12日〕



〔滞在制作 9月11日〕



〔企画展示室〕手前は滞在制作による《橋を渡す〔建築一鈎物〕》



〔企画展示室〕右は滞在制作による《橋を渡す〔しつらえ〕》



〔美術工芸展示室〕《道》



〔展示ホール〕9月20日 柄澤氏によるアーティストトーク



〔関連企画〕8月23日 オープンスタジオ



〔関連企画〕10月5日 ワークショップ「景色の発掘」

【アンケート結果】（全 40 枚・複数回答あり）

選択設問から

①展示を見て今の気分は(人)

- ・心が安らいだ
- ・心がざわざわした
- ・心が躍った
- ・力強さを感じた
- ・美しいと感じた
- ・驚いた
- ・怖いと感じた
- ・不思議な世界だ
- ・悲しくなった
- ・わけがわからなかった
- ・ずっと見ていたい
- ・見なくても良かった
- ・その他

25
5
9
5
26
6
0
7
0
3
11
1
2
計 100

②展示を見て思ったこと (人)

- ・こういう表現があるんだ
- ・作家の発想は豊かだ
- ・とても気になる作品があった
- ・作家のことを知りたくなった
- ・作家の意図するものがほとんどわからない
- ・素材や作り方に興味を持った
- ・展示空間全体を楽しめた
- ・自分の考え方には合わないと感じた
- ・自分の固定概念が崩れた
- ・疑問が湧いた
- ・その他

18
21
11
11
2
20
27
0
1
3
2
計 116

③発想・発展 (人)

- ・日ごろの色々な事を忘れることができた
- ・形から何かを想像した
- ・誰かに話したくなった
- ・思い出すような体の感覚があった
- ・自分の日常について思いをはせた
- ・作品から何かを連想した
- ・思い出す風景や事柄があった
- ・美術への関心が高まった
- ・時事的なことに思いをはせた
- ・何かを作ったり、表現したくなった
- ・もう一度見たいと思った
- ・作家の他の作品も見たいと思った
- ・世界の平和について考えた
- ・制作現場を見てみたいと思った
- ・その他

11
5
12
10
7
9
14
13
3
12
11
16
1
7
3
計 134

自由記述から

- ・CC ネットのフォレストチャンネルで見ました。これからいろいろな彫刻を色々な物で作ってくださいね。
- ・作品についての名前を、展示品の前に入れておいてほしい。
- ・すばらしい作品ばかりだった。
- ・作品を鑑賞でき、いやされました。
- ・ここ 2、3 年みのかもに来ていますが一番いい展示でした。
- ・鉄のフレームが欲しいと思った。クスノキを使った理由は？
- ・空間に木を感じることで、いやされました。
- ・作っているところがみてみたい。VTR があればよかった。
- ・進化し続けている表現 これからも楽しみにしています。
- ・豊田市もみたい。
- ・素敵な場所でした。
- ・見に来てよかったです。木彫りをしたくなりました。
- ・とてもよい展覧会で感動した。いつも案内ありがとうございます。
- ・作家の想像力がすばらしいと感じました。
- ・大きな作品をみるのが初めてだったので、とても迫力を感じたし、新鮮だと思った。
- ・木と鉄の融合 今後の作品を見てみたいと思いました。
- ・8/23 (土) PM のオープンスタジオに偶然通りがかり、作者の方に説明いただいた夫婦です。作品展も見たくなりお邪魔しました。じっくり見て色々考えたい作品でした。ありがとうございました。
- ・お洒落な素敵空間で良い匂いがしていやされました。大胆であり繊細な作品で格好良かったです。
- ・チラシで気になっていて、& 近くの用事で時間ができて寄りました。無料で入れてびっくりです。(こんなに環境のいい展示室！) 矢作川の作品、上流の方へ寄ると自分が地層の中に入った感覚でした！！よかった。
- ・制作意図が伝わってきて、制作意欲がわいてきました。ありがとうございました。
- ・とにかくすごい！美しい！非日常かと思いきや私たちの身近にある美を感じさせてくれる素敵な空間、時間でした。
- ・先生独特の表現方法がとても興味を惹いた。木材（クスノキ）を異素材が上手く調和して一つの作品となっている。観に来てよかったと思う。ダイナミックで大胆でオリジナリティもあり面白い！
- ・6 (淡路) は何度みてもその時々で違う印象を感じる。力強く思えたり、優しく包み込んでくるようだったり、安心感をあたえられたりと。
- ・木、鉄、パラフィン等の素材を無理なく使っていると感じた。有限性からの出発。素材を作家の行為とその結果としての造形との関係性が気持ちよく心に届いてきた。素晴らしい展覧会でした。
- ・チェンソー作品はもっと荒々しいと想像していた。見事に裏切られた。
- ・稜線が何と美しいことか。繊細で心休まる作品。大好きになった。
- ・家の玄関にほしい。素敵な作品をありがとうございました。

明治之花 石版画百景 半原版画館コレクションから

会 期：2026 年 1 月 10 日（土）～3 月 22 日（日）〈62 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室

展示点数：315 点

観 覧 料：無料

入場者数：2,367 人



【内容】

美濃加茂市民ミュージアムでは開館以来、地域ゆかりの作家を中心とする日本近現代の版画を収蔵しています。当館では令和 5 年度、明治時代の砂目石版画を中心とする 3500 点を超える日本近現代版画の寄贈を受けました。この作品群は 1984 年、瑞浪市に半原版画館を設立した館長の糸魚川淳二氏（1929～2021 年）が生涯をかけて集めたものです。

江戸時代に日本に流入した石版画は、近代化を目指す明治期に新しい印刷技術として発達しました。1 枚の絵として眺める「額絵」が作られ、発行は明治 20 年代に最盛期を迎えます。文明開化を反映する都会の人や風景、各地の名所、貴顕の肖像、時事問題など多様な題材に富む刷り物は、手頃な値段で庶民が手に取ることのできる絵画でした。流行や美意識、社会的な通念や規範、理想とする人間像が映し出された絵を読み解く時、明治の時代を生きた人々の暮らしや思考の歴史を知る資料とも捉えられるものです。

現代の私達の眼から見ると、モチーフの組み合わせや描き方はどこか奇妙で荒唐無稽です。絵画のような写真のような、リアルなようで浮世離れした空気感を併せ持つ石版画は当時の美意識をまざまざと映し出し、時代を超えて観る者の好奇心をくすぐります。

明治時代に花開いた石版画の世界は、見れば見るほど驚きと発見を観る者に与えてくれます。描かれた理由に思いを巡らせながら、当時を生きた人々のまなざしを追体験できるような展示を目指しました。

【関連事業】

□ミュージアムフォーラム「明治のタイムカプセルー糸魚川コレクションから見る明治の文化と社会ー」

3 月 1 日（日） 14:00～15:30 参加者：48 人

講 師：増野恵子氏（早稲田大学・跡見学園女子大学非常勤講師） 会 場：緑のホール

□ミュージアムトーク

1 月 10 日（土） ①10:30～11:30 参加者：12 人 ②13:30～14:30 参加者：8 人

2 月 8 日（日） ①10:30～11:30 参加者：8 人 ②13:30～14:30 参加者：8 人

講 師：当館学芸員 会 場：企画展示室・美術工芸展示室

□体験！キッチンリトグラフ

1 月 25 日（日） 10:00～12:00 13:00～15:30 参加者：4 人

2 月 21 日（土） 10:00～12:00 13:00～15:30 参加者：9 人

講 師：当館学芸員 アートボランティア 会 場：工芸室

「明治之花 石版画百景ー半原版画館コレクションからー」展示リスト

会期：2026年1月10日（土）～3月22日（日） 会場：美濃加茂市民ミュージアム 企画展示室・美術工芸展示室

前章：石版画事始

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号 枝番
1	婦女勉業之図	1888（明治21）年7月1日	石版筆彩	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	36.7×47.6	869

第一章 石版画之躍進

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号 枝番
1	楠公櫻井驛訣子図	1874（明治7）年	石版筆彩	石版 青野桑州 発行 陸軍参謀局	44.9×56.4	434
2	観古図説 陶器之部 一	1876（明治9）年3月8日	石版筆彩	出版・著述 蛭川親王 画作 亀井至一	27.2×39.2	2183 1
3	魯西亜帝ビートル之像	1878（明治11）年3月	単色石版	紙幣局彫刻部 技生 大山助市 写	51.6×36.8	1478
4	楠公訣子之図	1880（明治13）年6月	石版筆彩	出版 廣瀬鎌太郎	31.5 x 42.6	414
5	従薩埵山望富獄之図	1881（明治14）年12月8日	単色石版	出版・画工 金阪繁蔵 印刷 大画堂	35.2×45.8	430
6	田子浦真景	1881（明治14）年9月28日	石版筆彩	石印 楠山秀太郎	28.4×39.5	431
7	東京今春歌妓 小鈴	1882（明治15）年4月6日	石版筆彩	画工 奥村捨四朗 石印 楠山秀太郎	38.4×27.3	425
8	短角佗羅無種牡牛	1885（明治18）年4月28日	多色石版	画工 後藤貞行 出版 木村善次郎	39.1×53.4	426
9	小児犬戯図	1886（明治19）年10月5日	石版筆彩	画作・出版人 藪崎芳次郎	31.0×40.6	34
10	國華餘芳 正倉院御物	1880（明治13）年1月	多色石版	発行 大蔵省印刷局	34.3×24.3	2267
11	國華餘芳 古書之部	1880（明治13）年1月	多色石版	発行 大蔵省印刷局	34.3×24.3	2268
12	國華餘芳 古書之部	1880（明治13）年1月	多色石版	発行 大蔵省印刷局	34.3×24.3	2269
13	なみまの錦	1883（明治16）年12月	多色石版	発行 大蔵省印刷局	26.3×39.5	2271
14	なみまの錦 刷見本	不明	多色石版	製造 日本東京印刷局 （大蔵省印刷局）	32.3×49.9	2387
15	国華余芳 伊勢内外神寶部刷見本	不明	多色石版	大蔵省印刷局	41.5×56.2	2389
16	朝陽閣鑑賞 刷見本	不明	多色石版	大蔵省印刷局	41.5×56.2	2390
17	東京名妓競 神明子む免	1889（明治22）年10月3日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 美術着色会社製造	49.2×36.4	843
18	出世福神	1889（明治22）年6月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	37.9×48.8	1349
19	東京三絶景 上野山内之雪	1890（明治23）年6月18日	石版筆彩	製造 美術着色会社	30.3×39.5	522
20	童子愛犬之図	1888（明治21）年9月21日	石版筆彩	画作・発行人 香山秀吉 印刷人 矢島智三郎	33.0×43.8	35
21	同胞愛情之図	1888（明治21）年11月7日	石版筆彩	印刷・発行・画工 平沢源八	37.0×49.3	1126
22	宮中和歌御詠之図	1888（明治21）年5月22日	石版筆彩	印刷・発行 塚本岩三郎 画工 塚本丈助	29.8×39.3	1840

23	貞婦常磐雪中伴三兒図	1881（明治14）年6月	石版筆彩	石印 楠山秀太郎	35.5×50.6	419	
24	富士川岩淵渡船場真景 軍人渡船演習之図	1886（明治19）年12月	単色石版	本原定次郎	38.0×50.3	397	
25	楠公鳳輦奉迎之図	1885（明治18）年12月3日	石版筆彩	画工 清水三壽 出版 福宮源治郎	36.6×48.7	389	
26	不明（美人）	1882（明治15）年1月	単色石版	製版 太田義二	43.8×32.3	409	
27	官女吹笙之図	1885（明治18）年6月20日	石版筆彩	出版 亀井至一 画工 森島房次郎	49.7×37.7	377	

【参考図版】					所蔵先		
参考 1	A picture-book store 絵草紙屋	1890（明治23）年頃	写真		長崎大学附属図書館 所蔵		
参考 2	石版技手人名鏡	1885（明治18）年 1 月	単色石版	編集・出版 青山立也	TOPPANホールディングス株式会社 印刷博物館所蔵		

第二章 美人小児百人之図

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収藏品登録 番号	枝番
1	西京之銘妓古満	1882（明治15）年2月9日	単色石版	石印 楠山秀太郎	38.0×25.8	400	
2	金春芸妓 須磨子 角松	1887（明治20）年1月20日	石版筆彩	出版・画工 薮崎芳次郎	49.2×36.2	423	
3	島原清治	1885（明治18）年10月19日	石版筆彩	出版・画工 楠山秀太郎 石印	48.4×36.6	427	
4	今春芸妓	1881（明治14）年11月3日	単色石版	石印 楠山秀太郎	40.3×29.0	401	
5	東京銘妓 妓子 和哥吉	1882（明治15）年5月23日	単色石版	石印 楠山秀太郎	47.3×34.4	415	
6	東京銘妓 奴子 和哥吉	1882（明治15）年5月23日	石版筆彩	石印 楠山秀太郎	41.1×30.0	402	
7	金春銘妓婦美	1886（明治19）年5月17日	石版筆彩	出版・画工 福宮源治郎	51.0×36.5	378	
8	東京美人 姫松 梅女	1889（明治22）年1月16日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	44.7×34.6	823	
9	美人園 其二 雛妓の歌舞	1898（明治31）年7月20日	単色石版	画作・印刷・発行 浅沼宗吉 画作 まち田	51.5×39.2	927	
10	雨後之美人	1889（明治22）年5月3日	単色石版	発行 岡村竹四郎 画作 岡村政子 画者 酒井鈴子 印刷人 信陽堂生徒 中村甚三	48.5×36.9	795	
11	美人遊園之図	1889（明治22）年10月14日	石版筆彩	画作・印刷・発行 清水市郎	39.1×30.5	822	
12	雪中美人	1891（明治24）年8月18日	石版筆彩	画作・印刷・発行 渡邊忠久 製造 誠協堂	42.5×31.2	733	
13	東京廓之美人 タギリタがお	1889（明治22）年3月21日	単色石版	画作・印刷・発行 清水市郎	49.0×36.4	1046	
14	美人納涼之図	1888（明治21）年8月18日	単色石版	印刷・画工 田代由三郎 発行 徳島末治	49.4×36.9	880	
15	東都美人 小路久小園	1888（明治21）年4月5日	石版筆彩	印刷・発行 矢島智三郎 画作 福宮源次郎	49.3×36.7	860	
16	洋装之美人	1890（明治23）年10月15日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	47.1×36.2	750	
17	開化美人	1889（明治22）年4月27日	石版筆彩	画作・発行 薮崎芳次郎 印刷 小島幸作	48.9×36.4	874	
18	都遊妓ノ図	1888（明治21）年10月11日	単色石版	印刷・発行 小谷義一 著作・画者 小山三作	49.7×34.5	1040	
19	美人園 其八 盛春の艷容	1888（明治31）年7月20日	単色石版	画作・印刷・発行 浅沼宗吉	51.6×39.0	926	
20	佳人詠歌之図	1888（明治21）年8月27日	単色石版	発行 辻本九兵衛 画作・印刷 伊藤源吉	49.2×36.4	1057	

21	美人花見之図	1888（明治21）年9月4日	石版筆彩	画作・発行 渡邊忠久	41.4×31.7	871	
22	おかる	1889（明治22）年4月2日	単色石版	画作 岡村政子 印刷 信陽堂技工 小野康太郎 発行 岡村竹四郎 画者 酒井鈴子	46.7×35.8	1050	
23	美人競合之図	1889（明治22）年5月22日	単色石版	画作・印刷・発行 平井逸三	49.3×37.3	1025	
24	望月美人 吹玉笛	1890（明治23）年11月5日	石版筆彩	印刷・発行・画工 吉原秀雄	53.9×39.7	807	
25	月夜之美人	1889（明治22）年10月10日	石版筆彩	印刷・発行 鈴鹿保家	43.7×31.7	962	
26	当世美人	1888（明治21）年3月14日	単色石版	発行・画工 清水市郎 印刷 清水麟太郎	48.5×36.5	1069	
27	美人納涼之図	1889（明治22）年3月25日	単色石版	印刷・発行・画工 青野勇三郎	48.7×37.7	1038	
28	西京美人舞子	1889（明治22）年7月25日	石版筆彩	発行・画工 薮崎芳次郎 印刷 小島幸作	53.8×39.8	812	
29	西京美人舞子	1889（明治22）年7月25日	石版筆彩	発行・画工 薮崎芳次郎 印刷 小島幸作	41.4×30.5	817	
30	新吉原品川樓内金龍	1888（明治21）年7月10日	単色石版	印刷 村山一介 発行 綱島亀吉	51.0×38.0	998	
31	小紫	1889（明治22）年3月20日	石版筆彩	発行 岡村竹四郎 画作 岡村政子 画者 酒井鈴子 印刷人 信陽堂生徒 浦野芳次郎	44.7×35.4	794	
32	南地藝妓市子之図	1888（明治21）年8月15日	単色石版	印刷・発行 水口龍之助 著画 米津泉之助	48.5×36.0	1074	
33	東京美人 吉原 金五	1891（明治24）年	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	47.3×33.2	724	
34	新町藝妓宮吉肖像	1888（明治21）年8月15日	単色石版	印刷・発行 水口龍之助	48.5×36.0	1044	
35	十二階選挙美人 柳橋小高	1891（明治24）年8月13日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	47.2×36.4	761	
36	吉原之名婦吉次	1887（明治20）年11月1日	単色石版	出版・画工 清水市郎	49.9×36.8	1034	
37	東京根岸之初音	1891（明治24）年4月9日	石版筆彩	発行・画工 薮崎芳次郎 印刷 小島幸作	45.6×31.3	723	
38	葭町藝妓やつこ	1888（明治21）年4月9日	単色石版	画作・発行 渡邊忠久	49.0×38.1	1065	
39	東都美人競	1892（明治25）年2月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 薮崎芳次郎	40.4×30.2	951	
40	楽器之令嬢	1889（明治22）年10月1日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	43.8×32.6	868	
41	美人楽櫻之図	1889（明治22）年3月7日	石版筆彩	印刷・発行・画工 富田貞作	40.9×30.3	847	
42	美人裁縫之図	1889（明治22）年3月18日	石版筆彩	発行・画工 荒川藤兵衛 田中吉五郎	40.5×30.1	863	
43	美人点茶之図	1888（明治21）年10月19日	石版筆彩	画作・印刷・発行 小林鉄次郎	45.7×34.9	850	
44	婦女子の嗜	1889（明治22）年5月26日	石版筆彩	画作・発行 勝山繁太郎 画作・発行 夫島徳三郎 印刷 島田清	48.8×36.6	965	
45	婦人活花之図	1888（明治21）年12月15日	単色石版	印刷・発行・画工 平沢源八	51.0×37.9	1067	
46	貴嬢編物之図	1889（明治22）年9月14日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	48.5×36.2	790	
47	家庭教育 美人詠歌	1891（明治24）年3月28日	石版筆彩	印刷・発行 矢島智三郎	47.0×36.0	966	
48	吉原之名婦於幸	1887（明治20）年8月22日	石版筆彩	出版 矢島録 画工 福宮源治郎	49.4×36.7	424	
49	婦女子之嗜	1889（明治22）年10月24日	石版筆彩	印刷・発行 矢島智三郎	45.5 x 35.7	815	
50	東京名所 両国橋之夜景 美人納涼之図	1891（明治24）年5月28日	石版筆彩	印刷・発行・画工 江森熊太郎	48.5×36.2	762	
51	東京美人	1889（明治22）年7月13日	単色石版	画作・印刷・発行 水口龍之介	49.6×36.2	1027	

52	東京名所 浅草公園 吉原芸妓 富次	1891（明治24）年3月25日	石版筆彩	印刷 間野駒吉 画作・発行 有山定次郎	40.9×30.7	715	
53	不忍弁天遠景之図	1888（明治21）年9月12日	石版筆彩	発行・画工 荒川藤兵衛 田中吉五郎	40.9×31.5	856	
54	倭櫻	1890（明治23）年6月4日	石版筆彩	印刷・出版・発行 星野茂三郎	48.3×36.9	755	
55	三井銀行遠望之図	1889（明治22）年7月19日	単色石版	印刷・発行・画工 荒川藤兵衛	48.2×39.0	1024	
56	都之花	1889（明治22）年8月2日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	40.5×30.4	870	
57	東京美人ノ内 大黒屋由子	1892（明治25）年1月15日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	45.7×35.3	952	
58	東京婦人風俗之内 墨堤花見	1889（明治22）年	石版筆彩	印刷・発行 矢島智三郎	46.9×35.0	865	
59	東京名所 兩國百本杭	1893（明治26）年6月24日	多色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	17.5×23.13	1904-7	
60	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 吾妻橋月夜	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-39	
61	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 浅草公園凌雲閣	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-15	
62	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 不忍辨天	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-14	
63	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 上野公園	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-30	
64	東京名所 駿河町三井銀行	1893（明治26）年6月24日	多色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	17.5×23.13	1904-10	
65	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 九段靖國神社	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-43	
66	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 歌舞伎座	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-13	
67	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 向嶋	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891-29	
68	東都墨堤之花競	1889（明治22）年11月7日	石版筆彩	印刷・発行・画工 吉原秀雄	40.1×29.0	819	
69	校書髪ヲ洗図	1889（明治22）年5月14日	石版筆彩	画作・印刷・発行 辻井彌三郎	44.8×32.7	848	
70	胡蝶友花戯少女図	1888（明治21）年11月8日	単色石版	発行・画工 吉原英雄 印刷 小泉市太郎	49.1×38.0	1063	
71	不忍ノ令嬢	1892（明治25）年8月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 藪崎芳次郎	41.0×30.5	949	
72	ほととぎす	1906（明治39）年4月28日	二色石版	画作・印刷・発行 廣正堂 勝田 徳次郎	54.6×39.4	885	
73	令嬢化粧之図	1889（明治22）年10月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	40.8×31.7	816	
74	美人化粧之図	1890（明治23）年3月22日	石版筆彩	印刷・発行 小林鐵次郎	42.0×32.3	749	
75	兩國の花火	1889（明治22）年7月27日	石版筆彩	印刷・発行・画工 荒川藤兵衛	53.7×39.8	964	
76	婦女花愛ス之図	1889（明治22）年4月8日	単色石版	発行・画工 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	48.0×38.2	1059	
77	当世風俗花と美人 洋装之美	1906（明治39）年6月2日	二色石版	発行所 尚美堂	50.8×37.9	910	
78	当世風俗花と美人 通学	1908（明治41）年1月6日	二色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行所 尚美堂	54.5×39.4	912	
79	御代之春	1906（明治39）年6月2日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 美術着色会社製造 画作・印刷・発行 矢島徳三郎	47.9×35.6	845	
80	東京美人開運詣	1890（明治23）年1月23日	石版筆彩	画作・印刷・発行 藪崎芳次郎	47.7×35.4	754	
81	美人観梅之図	1889（明治22）年12月28日	単色石版	画作・印刷・発行 清水市太郎	48.9×36.5	1066	
82	令嬢汐干狩	1892（明治25）年3月30日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	46.2×37.0	959	

83	神田祭 東名妓	1891（明治24）年6月27日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	45.1×34.9	729	
84	蜚狩ノ図	1892（明治25）年7月	石版筆彩	画作・印刷・発行 深瀬亀次郎	39.5×30.2	975	
85	鴨漕床下之図	1889（明治22）年7月14日	単色石版	印刷・発行 小谷義一 著作・画者 小山三造	49.3×34.4	1062	
86	海濱納涼之図	1889（明治22）年6月	石版筆彩	画作・印刷・発行 清水市郎	38.6×28.7	787	
87	美人菊観	1892（明治25）年8月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 薮崎芳次郎	41.1×31.3	981	
88	東京名妓競 日本橋千代子	1890（明治23）年1月28日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繫太郎 画 作・発行 夫島徳三郎	40.0×29.0	768	
89	愛思影	1889（明治22）年2月10日	石版筆彩	画作・発行 勝山繫太郎 画作・発行 夫島徳三郎 印刷 島田清	48.8×36.7	1149	
90	婦人之情	1890（明治23）年3月25日	石版筆彩	発行・画工 薮崎芳次郎 印刷 小島幸作	48.2×36.3	814	
91	美人庭園愛小児図	1889（明治22）年9月26日	石版筆彩	画作・印刷・発行 深瀬亀次郎	48.3×36.8	838	
92	美人小児ヲ愛スル図	1888（明治21）年5月29日	単色石版	画工・出版 富田貞作 印刷 佐藤千代松	49.7×38.3	1049	
93	姉弟之愛情	1889（明治22）年4月4日	石版筆彩	画作・発行 勝山繫太郎 印刷 島田清	38.7×29.3	783	
94	菊婦人	1889（明治22）年9月17日	単色石版	画工・印刷・発行 潮瀬茂一	47.4×35.9	1039	
95	紳士之令嬢	1890（明治23）年3月2日	石版筆彩	画作・印刷・発行 鈴鹿保家	47.9×36.2	751	
96	美人愛樹之図	1889（明治22）年4月19日	単色石版	画工・発行 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	48.0×38.0	1048	
97	美人観劇之図	1890（明治23）年6月16日	石版筆彩	画作・発行・発行 鳥海仙造	47.8×37.1	776	
98	美人小児ヲ愛スル図	1888（明治21）年11月30日	単色石版	画作・印刷・発行 富田貞作 製造 東京至誠堂	48.1×37.2	1006	
99	貴顕令嬢 春遊	1892（明治25）年1月7日	石版筆彩	画作・印刷・発行 田代由三郎	44.3×33.7	953	
100	美人愛猫之図	1889（明治22）年1月14日	単色石版	印刷・発行 小林鉄次郎	50.3×38.0	1010	
101	美女愛児之図	1888（明治21）年11月9日	単色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	49.5×36.8	1020	
102	鴿□く少女の使者	1889（明治22）年 5月31日	単色石版	印刷・発行 秋山武右衛門	49.9×38.1	1064	
103	美女矮狗抱之図	1888（明治21）年7月26日	石版筆彩	印刷・発行 渡邊忠久	49.4×36.9	875	
104	東ミかき小町娘	1888（明治21）年2月9日	石版筆彩	印刷・発行・画工 熊澤喜太郎	49.5×36.8	872	
105	愛犬之図	1888（明治21）年5月21日	単色石版	発行・画工 薮崎芳次郎 印刷 小島幸作	49.8×38.2	1072	

第三章 諸国名所百景

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	吉原大門之景	1887（明治20）年12月	単色石版	清水市郎	37.6×49.3	363	
2	東京九段坂靖国神社	1884（明治17）年4月10日	単色石版	画工 清水三壽 出版 福宮源治郎	28.9×40.7	406	
3	墨堤朝櫻ノ景	1883（明治16）年4月23日	単色石版	不明	31.2×42.3	487	
4	東京新橋停留場之景	1892（明治25）年8月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 栗生麟太郎	32.3×43.5	701	
5	東京日本橋之真景	1888（明治21）年8月6日	単色石版	印刷・発行 熊澤喜太郎	34.6×45.6	652	

6	東京名所 東京銀座之繁栄	1896（明治29）年4月9日	石版筆彩	画作・印刷・発行 太田節次	36.7×50.3	570	
7	帝国議会議事堂之図	1890（明治23）年3月20日	石版筆彩	画作・印刷・発行 清水市郎	37.0×42.2	525	
8	皇城御新宮之景	1890（明治23）年4月16日	石版筆彩	印刷・発行 中川昇	37.3×48.8	457	
9	東京名所 浅草観世音之真景	1892（明治25）年6月23日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	34.3×45.4	699	
10	東京待乳山雪夜景	1889（明治22）年2月16日	石版筆彩	印刷・発行・画工 潮瀬茂一	36.5×48.5	546	
11	亀井戸天満宮太鼓橋之図	1888（明治21）年10月30日	石版筆彩	発行・画工 藪崎芳次郎 印刷 小島幸作	32.4×41.5	499	
12	上野櫻ヶ岡真景	1890（明治23）年2月7日	単色石版	印刷・発行 矢島智三郎	32.6×46.2	558	
13	東京名所 芝増上寺山門之真景	1891（明治24）年3月4日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	36.0×47.2	449	
14	東京三絶景 上野山内之雪	1890（明治23）年6月18日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 美術着色会社製造 画作・印刷・発行 矢島徳三郎	37.0×49.2	676	
15	東京三絶景之内 両国夏之月	1891（明治24）年12月6日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	34.3×43.1	567	
16	大日本五港之内 神戸港	1891（明治24）年7月	石版筆彩	画作・印刷・発行 藪崎芳次郎	31.3×40.7	513	
17	大日本五港之内 長崎港	1891（明治24）年6月26日	石版筆彩	発行・画工 藪崎芳次郎 印刷 小島幸作	31.5×42.8	548	
18	大日本五港之内 横浜港	1891（明治24）年5月21日	石版筆彩	画作・印刷・発行 藪崎芳次郎	31.8×40.5	577	
19	日本三名城 熊本之巖城	1892（明治25）年3月14日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	36.4×47.5	704	
20	日本三名城 大阪之堅城	1892（明治25）年4月12日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 美術着色会社製造	31.7×41.2	563	
21	日本三名城 名古屋金城	1892（明治25）年	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	36.0×45.8	656	
22	周防国錦帯橋真景	1892（明治25）年2月25日	単色石版	印刷・発行・画工 藪崎芳次郎	33.2×41.6	653	
23	吾妻橋真景	1887（明治20）年12月27日	単色石版	印刷・発行 矢島智三郎	36.9×48.5	433	
24	天神橋之景	1891（明治24）年8月2日	単色石版	画作・印刷・発行 森口栄太	34.2×46.8	559	
25	大日本三景 丹後國 天之橋立	1889（明治22）年11月30日	石版筆彩	画作・発行 勝山繁太郎 画作・発行 夫島徳三郎 印刷 島田清 著作 平野雄画	37.1×48.8	520	
26	宮嶋之風景	1888（明治21）年6月11日	単色石版	印刷 林恒吉 発行 佐々木徳次郎	35.4×50.2	494	
27	大日本帝国三景 陸前国 松嶋	1890（明治23）年9月11日	石版筆彩	印刷・発行・画工 吉原秀雄	32.8×43.3	689	
28	日光陽明門真図	1888（明治21）年7月18日	石版筆彩	印刷 小泉市太郎 画工・発兌 野村銀次郎	36.8×49.5	461	
29	日光東照宮図	1888（明治21）年4月	石版筆彩	発行 清水市郎 印刷・画工 本原定次郎	29.8×40.3	481	
30	日光御神橋の真景	1891（明治24）年5月20日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	36.4×47.2	547	
31	信脇善光寺本堂真景	1888（明治21）年4月23日	単色石版	発行・画工 藪崎芳次郎 印刷 小島幸作	35.6×47.2	486	
32	京都金閣寺之景	1888（明治21）年9月7日	石版筆彩	印刷・発行 矢島智三郎	37.1×49.4	692	
33	成田山真景	1888（明治21）年4月11日	単色石版	発行・著作 石川甚兵衛 印刷 楠山正雄	33.0×44.9	526	
34	紀州和歌の浦景	1887（明治20）年代	石版筆彩	印刷 清水麟太郎	30.1×39.3	551	
35	嵐山渡月橋	1888（明治21）年7月23日	石版筆彩	画作・印刷・発行 清水市郎	36.4×48.1	560	
36	近江八景之内 石山寺	1888（明治21）年11月5日	石版筆彩	画作・印刷・発行 渡邊忠久	36.5×48.3	528	

37	勢州二見ヶ浦之昇旭	1893（明治26）年5月29日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	36.2×45.5	542	
38	肥後熊本出水神社之真景	1891（明治24）年12月23日	単色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	34.0×41.7	479	
39	近江八景之内 堅田ノ落雁	1888（明治21）年9月11日	石版筆彩	画作・発行 渡邊忠久	38.0×49.4	572	
40	駿州田子浦真景	1891（明治24）年10月12日	単色石版	画作・印刷・発行 田代由三郎	33.5×44.4	531	
41	駿州富士沼之景	不明	石版筆彩	発行・画工 清水市郎 印刷 清水麟太郎	30.5×44.5	533	
42	駿州戻橋真景	1883（明治16）年10月23日	石版筆彩	不明	36.7×49.4	530	
43	駿州三保松原真景	1889（明治22）年□月26日	石版筆彩	画作・印刷・発行 鈴鹿保家	35.2×46.5	535	
44	近江八景	不明	二色石版	画作・発行 相澤富蔵	38.0×53.7	608	
45	名古屋名所之図	1908（明治41）年7月1日	多色石版	画作・発行 玉扇堂 木村重恭 印刷 長栄社 中川泰太郎	39.5×55.0	612	
46	日本名勝八景	1910（明治43）年6月8日	多色石版	画作・印刷・発行 葛西虎次郎	39.2×54.1	610	
47	吾妻土産名所図画十九 鎌倉名所 江之島辨天夜之景	1896（明治29）年4月1日	多色石版	印刷・発行 古島竹次郎 画作 蘭斎春孝	18.8×25.7	2053-19	19
48	吾妻土産名所図画二十 鎌倉名所 鶴岡八幡宮之景	1896（明治29）年4月1日	多色石版	印刷・発行 古島竹次郎 画作 蘭斎春孝	18.8×25.7	2053-20	20
49	伊勢土産名所図画 三 太々神楽之図	1897（明治30）年2月10日	多色石版	印刷・発行 古島竹次郎	18.7×25.6	2025-3	3
50	伊勢土産名所図画 五 曲玉池之景	1897（明治30）年2月10日	多色石版	印刷・発行 古島竹次郎	18.7×25.6	2025-2	2
51	伊勢土産名所図画 四 宇治橋之景	1897（明治30）年2月10日	多色石版	印刷・発行 古島竹次郎	18.7×25.6	2025-4	4
52	大和名所 春日神社	1901（明治34）年6月20日	多色石版	発行・印刷 清水常蔵	18.1×24.5	2033-1	
53	大和名所 長谷寺	1901（明治34）年6月20日	多色石版	発行・印刷 清水常蔵	18.1×24.5	2033-9	
54	大和名所 大佛殿	1901（明治34）年6月20日	多色石版	発行・印刷 清水常蔵	18.1×24.5	2033-7	
55	加賀名所 山代温泉惣湯の図	明治30年9月10日	多色石版	編集 廣瀬與作 印刷・発行 廣瀬鍋次郎 発行所 近廣堂	26.1×18.3	2043-2	
56	金澤名所 尾山神社 神門の景	1897（明治30）年9月10日	多色石版	編集 廣瀬與作 印刷・発行 廣瀬鍋次郎 発行所 近廣堂	18.7×26.1	2042-3	
57	讃岐名所 博物館 栗林公園	明治34年11月30日	多色石版	印刷・発行 宮脇仲次郎	18.2×26.8	2024-1	
58	讃岐名所 金刀比羅宮 櫻御供	明治34年11月30日	多色石版	印刷・発行 宮脇仲次郎	18.2×26.8	2024-2	
59	大阪名所 天保山沖蛤取之景	1897（明治30）年3月29日	多色石版	編集・彫刻 大室音吉 印刷・発行 古島竹治郎	19.0 x 25.8	2030-2	
60	大阪名所 住吉反橋の景	1897（明治30）年3月29日	多色石版	編集・彫刻 大室音吉 印刷・発行 古島竹治郎	19.0 x 25.8	2030-3	
61	大阪名所 堂島米市場之光景	1897（明治30）年3月29日	多色石版	編集・彫刻 大室音吉 印刷・発行 古島竹治郎	19.0 x 25.8	2030-4	
62	大阪名所 天神橋之図	1897（明治30）年3月29日	多色石版	編集・彫刻 大室音吉 印刷・発行 古島竹治郎	19.0 x 25.8	2030-8	
63	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 支那萬里ノ長城之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	8
64	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 清國皇城内之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	5
65	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 露國聖彼得堡府皇居之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	2
66	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 印度土人荒象ヲ生捕馴シムル之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	12
67	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 合衆國ナイアガラ大瀑布之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	10

68	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 スエズ大運河之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	4
69	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 埃乃國ピラミッド塔之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	6
70	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 莫酸鼻國鰐魚土人ヲ餌図	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	11
71	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 佛蘭西パリス凱旋門之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	9
72	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 英國博物館水晶宮殿之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	7
73	萬国名所図画一名世界漫遊其貳 英國ロンドン橋之景	1898（明治31）年7月5日	二色石版	画作・印刷・発行 吉江治兵衛	16.0×23.5	1889	1
74	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 京橋	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891	7
75	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 上野公園ヨリ市中望	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891	33
76	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 新富座	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891	3
77	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 枕橋之渡場	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891	37
78	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 駿河臺ニコライ堂	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891	12
79	西洋画譜 東京諸國 名所図絵 皇居二重橋	1891（明治24）年9月22日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	18.5×24.5	1891	5

第四章 明治之風俗図絵

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収藏品登録	
						番号	枝番
1	亀戸天神初卯之図	1888（明治21）年9月5日	単色石版	発行・画工 荒川藤兵衛 田中吉五郎	42.3×31.1	858	
2	明治婦人風俗画 雛祭	1891（明治24）年3月4日	多色石版	画作・発行 有山定次郎	32.4×41.7	878	
3	明治婦人風俗画 堀切之雨	1892（明治25）年5月28日	二色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	32.4×41.6	892	
4	洲崎汐干之図	1888（明治21）年5月25日	石版筆彩	画作・印刷・発行 清水市郎	30.7×40.8	1744	
5	東京自慢 両国之花火	1890（明治23）年9月8日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 着色会社製造 画作・印刷・発行 矢島徳三郎	30.5×42.4	578	
6	京都四季咏 嵐山之紅葉	1890（明治23）年11月22日	石版筆彩	製造 美術着色会社	29.8×39.5	537	
7	明治婦人風俗画 雪見	1887（明治20）年3月23日	単色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	35.2×51.0	933	
8	入谷之朝顔	1889（明治22）年8月17日	石版筆彩	発行・画工 荒川藤兵衛 田中吉五郎	40.8×31.8	786	
9	寸陰漫稿	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	34.5×26.0	2180	
10	寸陰漫稿 VI	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	30.5×21.5	2181	2
11	寸陰漫稿 XIII	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	30.5×21.5	2181	8
12	寸陰漫稿 XXI	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	30.5×21.5	2181	13
13	寸陰漫稿 XXXIV	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	30.5×21.5	2181	12
14	寸陰漫稿 XXVII	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	30.5×21.5	2181	6
15	寸陰漫稿 XX	1886（明治19）年	多色石版	画作 渡辺幽香	30.5×21.5	2181	5
16	茶摘	1893（明治26）年8月11日	単色石版	画作・印刷・発行 太田節次	33.2×43.7	1422	

17	駿洲吉原ノ景	明治18年2月23日	石版筆彩	出版 亀井至一 画工 鈴木艦太郎	30.2×41.9	432	
18	不忍競馬場之図	1889（明治22）年11月1日	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	36.1×48.4	538	
19	東京歌舞伎座之真景	1890（明治23）年2月10日	石版筆彩	画作・印刷・発行 清水市郎	30.9×42.8	523	
20	隅田川遊船之図	1889（明治22）年6月27日	石版筆彩	印刷・発行 熊澤喜太郎	35.8×48.7	651	
21	明治美人風俗画 大磯海水	1892（明治25）年1月23日	石版筆彩	画作・印刷・発行 有山定次郎	32.2×40.6	1379	
22	氏子祭	1890（明治23）年6月3日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	48.8×36.4	1101	
23	婦女唱歌之図	1888（明治21）年7月18日	石版筆彩	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	36.8×46.0	1144	
24	小学生徒体操之図	1888（明治21）年7月19日	単色石版	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	36.8×46.1	1147	
25	小学校	1892（明治25）年12月9日	単色石版	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	32.0×42.3	1146	
26	生徒戻道戯之図	1889（明治22）年4月27日	石版筆彩	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	29.3×39.4	1141	
27	令嬢洋書ヲ弄スル図	1889（明治22）年8月29日	単色石版	印刷・発行 矢島智三郎	38.0×50.8	1070	
28	婦女勉業之図	1888（明治21）年7月1日	石版筆彩	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	36.3×45.3	963	
29	貴嬢愛育之図	1891（明治24）年5月12日	石版筆彩	画作・印刷・発行 太田節次	54.4×39.4	1163	
30	於野邊小兒見群鶏図	1889（明治22）年2月5日	石版筆彩	画作・印刷・発行 渡邊忠久	30.7×38.3	1155	
31	母子愛育之図	1889（明治22）年3月29日	石版筆彩	印刷・発行・画工 吉原秀雄	37.2×47.3	1142	
32	小兒遊戯図	1888（明治21）年7月3日	石版筆彩	印刷・発行・画工 大谷木季善	40.0×30.6	1156	
33	兒童遊戯之図	1888（明治21）8月11日	単色石版	画工・出版 富田貞作 印刷 佐藤千代松	46.8 x 34.3	1117	
34	開化遊	1892（明治25）年2月15日	石版筆彩	画作・印刷・発行 太田節次	32.8×43.8	1109	
35	童子集合遊戯之図	1888（明治21）年10月12日	石版筆彩	印刷・発行・画工 熊澤喜太郎	35.8×45.0	1154	
36	手習兒	1892（明治25）年7月12日	石版筆彩	画作・発行 有山定次郎 印刷 間野駒吉	32.6×42.8	1093	
37	童兒狐拳之図	1889（明治22）年12月3日	石版筆彩	画作・印刷・発行 加藤進太郎	35.2×45.6	1091	
38	兒童遊角力	1892（明治25）年1月	石版筆彩	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	35.9×44.9	1121	
39	子供金魚遊	1893（明治26）年8月11日	石版筆彩	画作・印刷・発行 太田節次	30.6×40.3	1134	
40	健兒	1907（明治40）年12月12日	二色石版	画作・印刷・発行 尚美堂 田中良三	55.2×40.0	1083	
41	天心爛漫	1899（明治32）年3月6日	二色石版	画作・印刷・発行 浅沼宗吉	44.3×34.3	1087	

第五章 明治之時事諸相

1 大日本帝国憲法及議會

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	大日本憲法発布式之図	1889（明治22）年2月15日	単色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	36.1×47.7	1433	
2	憲法発布式之図	1889（明治22）年3月2日	単色石版	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	38.2×51.1	1434	

3	東京市内銀座通 憲法発布祝祭之図	1889（明治22）年3月10日	石版筆彩	印刷・発行・画工 松本小太郎	45.6 x 34.4	1426	
4	憲法発布都下賑	1889（明治22）年3月18日	単色石版	画作・発行 熊澤喜太郎 印刷 田村米造	36.4 x 49.9	1440	
5	自由新聞附録 大日本帝国議會開院式場之図	1890（明治23）年11月29日	単色石版	印刷・発行 石原憲 編集 野條愛助	39.4 x 52.2	1403	
6	大日本帝国衆議院議場之図	1891（明治24）年	単色石版	画作・印刷・発行 熊澤喜太郎	36.3 x 47.9	1432	
7	樞密院會議之図	1888（明治21）年9月14日	単色石版	画作・印刷 伊藤源吉	27.6 x 41.9	1421	

2 貴顕之肖像

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録	
						番号	枝番
1	皇国高貴肖像	1882（明治15）年4月	単色石版	出版 原橋傳治郎 石印 章業社	42.1 x 31.8	405	
2	不明（明治天皇）	1885（明治18）年10月22日	石版筆彩	画工 鈴木艦太郎 出版 亀井至一 製造 写真石版社	45.0 x 34.8	404	
3	帝国貴顕肖像	1889（明治22）年7月3日	石版筆彩	画作・発行 夫島徳三郎 画作・発行 勝山繁太郎	40.7 x 30.2	1595	
4	大元帥陛下御尊影	1907（明治40）年10月5日	二色石版	画作・印刷・発行 上條與茂太郎	54.8 x 39.2	1823	
5	貴顕御肖像	1887（明治20）年7月1日	単色石版	製造 写真石版舎 出版・画工 永井平二郎	37.0 x 48.8	1846	
6	貴顕肖像	1888（明治21）年11月5日	石版筆彩	画作・印刷・発行 渡邊忠久	36.3 x 48.7	1830	
7	毎日新聞附録 第5671号	1889（明治22）年11月3日	単色石版	印刷発行 加瀬良忠 編集 小武内隆平 石印 泰錦堂 発行 毎日新聞社	52.4 x 38.1	140	
8	帝国貴顕御肖像	1891（明治24）年4月13日	二色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	36.5 x 48.3	1821	
9	中京新報 第2614号附録	1903（明治36）年1月1日	二色石版	石版彫印刷 中川利器作 公墨大平氏謹写	55.0 x 39.0	141	
10	各国高貴之肖像	1889（明治22）年2月10日	二色石版	画作 岡村政子 発行 岡村竹四郎 石画者 酒井鈴子 印刷 信陽堂生徒 増田徳二郎	36.9 x 48.6	1843	
11	帝国貴顕御肖像	1890（明治23）年4月2日	単色石版	画作・発行 平澤清三郎	36.6 x 48.6	1822	
12	日露戦祝記念律勲十三將軍御肖像	1906（明治39）年1月16日	多色石版	製版 青雲堂石版部	51.4 x 37.4	1581	

3 大震災災之実況

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録	
						番号	枝番
1	磐梯山噴火真図	1888（明治21）年8月1日	木版	発行 東京朝日新聞社 画作 山本芳翠 印刷 合田清	23.5 x 32.5	249	
2	新愛知特別号外	1891（明治24）年11月10日	単色石版	発行 新愛知社 印刷・発行 森貴之 編集 山口二郎 彫刻 中島大助	55.3 x 40.8	1538	
3	岐阜全市大震災大火之図	1891（明治24）年11月25日	多色石版	発行 吾妻健三郎 編集 菅原白龍 風俗画報発行所 東陽堂 画作 寺崎廣業	39.7 x 54.3	2203	
4	實地写生 濃尾震災図絵 岐阜長良川鉄橋	1891（明治24）年11月26日	多色石版	画作・印刷・発行 美術着色会社 勝山繁太郎	10.9 x 19.2	1971	1
5	實地写生 濃尾震災図絵 岐阜河戸橋落橋	1891（明治24）年11月26日	多色石版	画作・印刷・発行 美術着色会社 勝山繁太郎	10.9 x 19.2	1971	2
6	實地写生 濃尾震災図絵 岐阜西御堂大破	1891（明治24）年11月26日	多色石版	画作・印刷・発行 美術着色会社 勝山繁太郎	10.9 x 19.2	1971	4
7	實地写生 濃尾震災図絵 美濃稲葉山付近	1891（明治24）年11月26日	多色石版	画作・印刷・発行 美術着色会社 勝山繁太郎	10.9 x 19.2	1971	5
8	實地写生 濃尾震災図絵 尾張州之俣惨状	1891（明治24）年11月26日	多色石版	画作・印刷・発行 美術着色会社 勝山繁太郎	10.9 x 19.2	1971	3
9	大海嘯極惨状之図	1896（明治29）年6月28日	多色石版	発行・著作 貫井吉三 印刷 吾妻 健成 画作 尾形月耕	39.1 x 54.7	1399	

4 出来事

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	敵傍艦之図 改進黨新聞 第1396号附録	1887（明治20）年11月1日	単色石版	假持主兼印刷 水野昌幸 編集 岩井益之助 発行所 三益社	51.2 x 37.6	163	
2	博士ボードウィン氏兄弟 米國人軽気球乗	1890（明治23）年10月23日	石版筆彩	画作・印刷・発行 勝山繁太郎 製造 美術着色会社	47.3×36.1	1439	
3	新内閣員及枢密院議長 時事新報附録 第3445号	1892（明治25）年9月11日	単色石版	石印 信陽堂 発行 時事新報社	46.1×31.4	148	
4	動物園近着猛鳥獸	1902（明治35）年2月1日	多色石版	画作・印刷・発行 太田節次	39.6×54.7	33	

5 日清日露戦争之図

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	我軍清兵ト成歓驛ニ戦フ	1894（明治27）年8月12日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	30.5×40.5	1631	
2	平壤ニ於テ敵將左寶貴ヲ生擒図	1894（明治27）年10月4日	多色石版	画作・印刷・発行 太田節次	38.8×52.6	1651	
3	旅順口附近月下之進撃	1894（明治27）年11月22日	多色石版	印刷・発行・画工 藪崎芳次郎	46.1×62.6	2348	
4	太沽砲台占領服部中佐奮戦之図	1900（明治33）年7月1日	多色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久	47.1×63.7	2352	
5	日露戦闘画報第参 旅順港外大海戦真図 其三	1904（明治37）年2月13日	二色石版	画作・印刷・発行 葛西虎次郎 発行 青雲堂	45.5×60.0	2354	
6	日露戦闘画報甲之部第四十一号 遼陽大激戦左翼軍猛撃強襲首山堡占領之	1904（明治37）年9月25日	多色石版	画作・印刷・発行 葛西虎次郎 発行 青雲堂	46.9×63.8	2358	
7	日露戦争實況図 39 奉天之大戦奉天城占領	1905（明治38）年4月2日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 尚美堂	40.0×49.5	1858	
8	日露両国全権米國ボーツマスニ於ケル講 和談判之光景	1905（明治38）年11月5日	石版筆彩	画作 大平公墨 印刷・発行 三輪文次郎	39.3×54.7	1400	

第六章 博物図 及 博物館事始

1 博物図 及 標本画帖

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	新選 博物標本画帖 果実類	1906（明治39）年6月15日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.5×26.9	1990	
2	新選 博物標本画帖 農作物類 第一	1906（明治39）年7月15日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.5×26.6	1991	
3	新選 博物標本画帖 農作物類 第二	1907（明治40）年4月4日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.4×26.5	1992	
4	新選 博物標本画帖 動物類	1906（明治39）年7月15日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.4×26.5	1993	
5	新選 博物標本画帖 動物類 第二	1906（明治39）年7月15日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.6×26.5	1994	
6	新選 博物標本画帖 動物類 第三	1907（明治40）年2月4日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.8×26.9	1995	
7	新選 博物標本画帖 昆虫類	1907（明治40）年2月4日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.6×26.6	1996	
8	新選 博物標本画帖 魚類 第二	1906（明治39）年7月15日	多色石版	画作・印刷・発行 田中良三 発行 東京尚美堂画局	18.7×26.6	1998	
9	なみまの錦 刷見本	不明	多色石版	製造 日本東京印刷局 （大蔵省印刷局）	32.3×49.9	2387	
10	不明（動物図譜）張込帖	1898（明治31）年11月14日	多色石版	印刷・発行 金港堂書籍株式会社 印刷 三間石版部	36.1×46.7 本36.8×23.5	2270	
11	実物写生 柿実図譜	1911（明治44）年8月18日	多色石版	編集 松澤市之助 発行 日本種苗株式会社	15.0×22.5	1989	

12	再販 害蟲図解 第壹 エダシャクトリ	年号不明 12月10日	多色石版	画作 伊藤七郎 発行・著作 名和靖 印刷者 大熊松太郎 発行所 名和昆蟲研究所	26.1×39.8	275	
----	--------------------	----------------	------	---	-----------	-----	--

2 博覧会 及 博物館

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	東都名勝図絵 帝國博物館	1891（明治24）年9月22日	二色石版	画作・印刷・発行 藪崎芳次郎	18.0×23.5	1898	2
2	東京名所 博物館	1893（明治26）年9月11日	多色石版	画作・印刷・発行 有山定次郎	17.5×23.4	1903	6
3	第二回内國勸業博覧会 大覽眞図	1881（明治14）年3月28日	単色石版	画作・稿 錦雲尚如水 出版 須藤正作	40.8×28.0	2069	
4	第三回内國勸業博覧会場之図	1890（明治23）年4月30日	石版筆彩	印刷・発行・画工 潮瀬茂一	36.8×48.2	636	
5	第三回内國博覧会開場之図	1890（明治23）年4月9日	単色石版	画作・印刷・発行 渡邊忠久 製造 誠協堂	36.2×48.2	473	
6	第三回内國勸業博覧会獨案内明細図	1890（明治23）年3月30日	単色石版	編集 片桐悌三郎 発行 神谷齊 印刷 松田敦朝	46.5×60.1	1537	
7	第三回内國勸業博覧会獨案内明細図	1890（明治23）年3月30日	単色石版	編集 片桐悌三郎 発行 神谷齊 印刷 松田敦朝	45.0×56.6	1536	
8	国華余芳 伊勢内外神寶部	1880（明治13）年1月	多色石版	発行 大蔵省印刷局	34.3×24.3	2266	
9	第三回内國勸業博覧会會場陳列品図	1890（明治23）年4月25日	単色石版	印刷 林信 編集 彦坂大吉郎 発行 横川清造 精版開舎石印	47.9×66.3	1535	

3 半原版画館と糸魚川淳二氏

NO.	作品名	制作年月日	技法	画作・画工・印刷・発行・製造・出版 など	サイズ	収蔵品登録 番号	枝番
1	東京近傍地質編 第七版	不明	単色石版	不明	27.6×35.7	2202	

【資料】

NO.	資料名	制作・発行年月日
2	石版石	
3	「暮らしを彩る明治の刷り物展」半原版画館 紹介パネル	2008年
4	『毎日新聞』記事「版画の私設美術館 54歳糸魚川さん（名大教授）の情熱」	1984年1月1日
5	『名大新聞』記事「ひと ひかれる明治の心意気 私設博物館を開いた理学部教授 糸魚川淳二氏」	1984年4月1日
6	『中日新聞』記事「夢の版画館 きょうオープン」	1984年4月1日
7	半原版画館 パンフレット	1984年4月1日
8	半原版画館 開館 ごあいさつ	1984年3月1日
9	ごみし通信 1998-1	1998年3月28日
10	ごみし通信 2009-2	1998年7月23日
11	ごみしの写真	
12	『中日新聞』記事「夏、水、日本の石版画」	2015年8月22日
13	小野忠重『日本の石版画』 美術出版社	1976年
14	「半原版画館をつくって（1）」『岐阜の博物館』No.68	1985年2月15日
15	「半原版画館をつくって（2）」『岐阜の博物館』No.69	1985年3月20日

【所感／企画展示室】

3500 点を超える糸魚川氏の版画コレクションから特に質量ともに多くを占める明治時代の石版画の魅力を伝えることを目的に構成した。展示室に並ばなかった作品も多く、今後当館で継続的に紹介していくことも見越して、来館者に石版画をまずは知ってもらい、興味を持ってもらうため目指したことは下記の通りである。

- ・石版画とは何か、研究史を踏まえて基本的な情報を伝える。技法、歴史、絵の主題、社会的な位置付け等。
- ・明治の人々、コレクターの目線を追体験できるような鑑賞のポイントを作品の配置と言葉で示す。
- ・糸魚川コレクションの質量を視覚的に訴える展示構成を検討する。選定したテーマ毎の点数と収蔵点数が比例するよう、点数や壁面のボリュームを配分する。
- ・美術の分野に限らず、自然・民俗・歴史など他分野を網羅する博物資料としての見方を提起する。
- ・当館 HP に半原版画館コレクションの石版画の作品情報を掲載したデータベースを構築する。

企画展示室入口には代表的な作品 1 点を展示し、石版画に共通する基本的な特徴を示した。序章ではドイツで石版画の技法が生まれた歴史の紹介、日本に入ってきた幕末の状況を日本の石版画前史として紹介した。また企画展示室では、美術品として絵の鑑賞に集中できるよう、絵の外の余白に書かれた文字は隠す装丁にし、キャプションは同列 2〜3 点分を 1 枚にまとめ、解説パネルの面積を極力減らした。

第一章：石版画之躍進

維新後、石版画は西洋の新技术として紙幣の印刷を司る大蔵省、旧幕時代の献上品の印刷機を有する陸軍兵学寮、民間の印刷会社等で製造が始められ、優れた職工や洋画家により完成度の高い石版画が制作された。明治 10 年代の精巧な作品を主に選んだ。また、当時活躍した職工の番付表や販売店の写真を掲示し、併せて「石版画余話」として森鷗外など当時の文壇の人々が石版画を評した文章を紹介し、石版画の社会的地位や人々の認識を伝えた。



第二章：美人小児百人之図

明治 20〜25 年頃、鑑賞用の一枚物の「額絵」の発行が最盛期を迎える。当コレクションでも数が多い美人画を、壁面ウォールケース内に 3 段掛けで展示した。10 枚のガラスの継目を区切りに 1: 初期石版画／2・3: 明治の美人画／4: 芸妓の肖像／5: 美人の嗜み／6: 美人と名所／7: 美人の装い／8・9: 美人の暮らし／10: 美人と動物と、テーマを定めた。手前の台には同じ図柄で彩色が違うもの、同じ構図で細部が違うもの、背景に登場する名所絵などを並べることで、比較しやすいよう配置した。キャプションで絵のモチーフとなる流行物のエピソード等も紹介した。



第三章：諸国名所百景

美人画に並んで作例の多い名所絵の百景を展示した。1 枚物の額絵は西側の壁面に、対面の可動壁には土産物として販売された数枚組の小品の石版画や、琵琶湖八景のように 8 か所を組み合わせた大判の作品、富士の風景画を展示した。人々が季節の風物詩を楽しむ場面、神社仏閣など歴史ある旧跡、維新後に作られた洋風建築等の新名所の風景が西洋絵画の厳格な遠近法に則り描かれた図もあれば、浮世絵を想起させる描き方の多色石版もある。キャプションは風景の中の人々など細かな点景や石版画ならではの細密な描写や陰影法にも鑑賞者の注意が払われるよう工夫した。



第四章：明治之風俗図絵

洋画家の渡辺幽香が描いた風俗画を端緒として、庶民や貴族の暮らしを映す石版画の数々を紹介した。伝統的な祭事や季節の風物詩を楽しむ人々の姿や、明治時代に広まった新しい遊び、働く人々の様子などを主題にした石版画を選び、展示した。明治時代の絵に特徴的な子どもの図を対面の可動壁に集めた。



第五章 明治之時事諸相

美術工芸展示室では、自然史・歴史・民俗・博物学等、他分野を網羅する石版画の資料としての性格に焦点を当てた。版画の装丁も絵の外枠に書かれた文字情報も見える形に変え、時代背景や調査報告、解説に力点を置く展示手法を採った。石版画は明治時代、新聞や雑誌に並ぶ視覚メディアの役割も果たし、政治、災害、文化、戦争など多岐に渡る報道を題材にしたものが作られた。第五章と第六章では半原版画館コレクションに多く含まれる画題から当館学芸員が各々の専門性や関心事に近いテーマを受け持ち、作品の選定から時代背景の分析、作品調査、パネルやキャプションの執筆まで担当した。

- 1: 大日本帝国憲法及議會 大日本帝国憲法の発布と祝賀催事／大日本帝国議會開院式／担当：可児
- 2: 貴顕之肖像 明治天皇の肖像／飾り枠の中の明治天皇／ともに描かれる明治天皇／担当：藤島
- 3: 大震災災之実況 磐梯山噴火と災害報道／濃尾震災と石版画／担当：岩屋
- 4: 日清日露戦争之図 日清戦争（1894-1895年）日露戦争（1904 - 1905年）／担当：和歌
- 5: 明治の出来事 明治の話題色々／担当：和歌



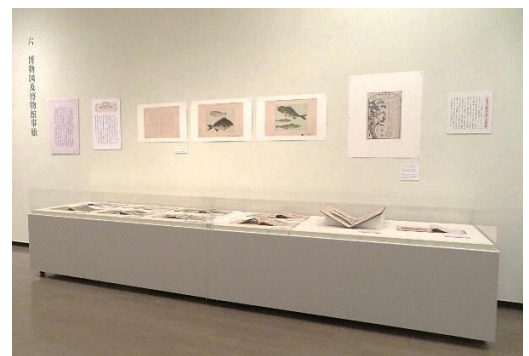
第六章 博物図及博物館事始

石版画の迫真的な陰影表現と細密描写が資料の再現と記録に適したため、日本の博物館界の幕開けと文化財保護の歴史にも石版画が度々登場する。初期の石版画集の傑作の多くが博物図であり、これらの制作者は文化財行政や博覧会の開催に関係していた。第六章では画集や標本、教科書を紹介し、日本の博覧会開催の歴史を石版画から紐解き、博物館界の草創期を振り返った。

- 1: 博物図 及 標本画帖

博物図の教育への活用／担当：高木 地質学と石版画／担当：和歌

- 2: 博覧会 及 博物館 「物産局」から「博物局」そして「博物館」へ／万国博覧会への出品／内国勸業博覧会の開催／江戸時代の博覧会／担当：西尾



終章 半原版画館と糸魚川淳二氏

半原版画館と糸魚川淳二氏を紹介する終章を設けた。地質学・古生物学者という自身の専門性から、版に使われる石版石に興味を持ち、明治時代の砂目石版画の蒐集を始めた思い出、小コレクター運動に共鳴し半原版画館を創立した回想文と、自身のコレクションの文化財としての行く末を考えた糸魚川氏の生前の文章と共に、版画館のパンフレットや機関誌、博物館学の著書を展示し、最後に版画館の玄関に飾られていた石版石と地質学雑誌に掲載された石版による貝の図版を展示した。



関連企画では、説明では理解するのが難しい版画の仕組みを安価な素材で体験できる実技系講座を計画、水と油の反作用を利用して刷る石版画の平版の特徴を、アルミ箔やチョコレートやコーラなどの身近な素材で体験できる「キッチンリトグラフ」を開催した。また、長年にわたり石版画の研究を続けてきた増野恵子氏による講演会を開催した。石版画とは何かを伝えながら、石版画制作に関わった洋画家たちの動きとともに美術史の面から見た明治時代の石版画の位置づけや、日本各地にある石版画コレクションと比較した糸魚川コレクションの特徴についてもお話いただいた。（和歌由花）

【アンケート結果】（全 86 枚・複数回答あり）

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさに（配置、明るさ、空間など）
にご満足いただけましたか？（人）

・満足	59
・ほぼ満足	21
・ふつう	2
・やや不満	3
・不満	0
計	85

② 展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）
にご満足いただけましたか？（人）

・満足	50
・ほぼ満足	28
・ふつう	3
・やや不満	2
・不満	1
計	84

③ 資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られ
ましたか？（人）

・満足	62
・ほぼ満足	18
・ふつう	4
・やや不満	2
・不満	0
計	86

自由記述から

・説明文の文字を大きく。
・多くの展示品に驚きました
・ありがとうございました。トークも良かったです。
・陳列品圖の石版画が良かった。文字でふさふさとした胸の羽しぶきを上げた繊細な筆致と書かれていて想像がふくらんだ。みのかものことや蜂屋柿のことは身近なので、昔の人がどう見ていたのか気になる。量が多いので椅子がほしい。休みながら見たい。
・石版画に架かれた子供について。その表情が「怖い」「奇妙」という声があるが、その理由を考えてみた。
・当時の日本人にとって「子供＝かわいい」という価値観は、現代のように持たれていなかったのではないかな。写実的に子供を描こうとすると、案外おじさんようになってしまったりしてしまう。子供の描く子供の絵はほうれい線などの細部を書き込んだりして、迫力あるものの「かわいい子供」にならない。それは子供自身が自分をかわいい子供と捉えていないからではないかな。
・明治天皇の襟足問題。すっきり、さわやか vs ワイルド 同じ肖像画（写真）からたくさんの天皇の石版画がつくられている。衣類や背景の差異よりも、襟足の有無がその肖像の印象を決めていると感じる。時代の要請なのか、画者の好みなのかは分からない。学芸員の見解を伺ってみたい。

・魅力的な作品の素晴らしい展示 おめでとう！An amazing display of fascinating work. Congratulations!!

・精巧でほとんど写真。すばらしい。

・明治期の石版は初めてできょうみがわきました。チラシが良い。展示品が多く IH くらいわかりました。よく集めたものです。無料は？

・毎回すばらしい展示をしていただき、ありがとうございます。拝見することができてとても満ち足りた時間をすごせました。糸魚川先生のコレクションが美濃加茂に寄贈されていたとは知りませんでした。ぜひまた定期的に展示していただけたら幸いです。

・はんがは学校でやったことはあるけど、うまい人を見て、すごいなと思った。

・石版画は朝ドラ「らんまん」でみた。彫り、石版、印刷のしかたなども展示してほしい。木版、リトグラフ、その他とどちらがうかなど。

・多くの展示があり見ごたえがありました。

・多数の展示をゆっくり鑑賞するために椅子席を増やして下さい。

・大混乱の世界情勢ですが、オリンピックという国際規模のイベントが開催されております。モロッコ領事館のある美濃加茂市においても様々なイベントが開催中です。来館させていただき、様々な勉強になったと思います。ありがとうございました。

・残りのコレクションもぜひ見てみたいです。

・未知の石版を見られて大いに満足しています。説明でより石版がわかりやすくてよかったです。

・何度見ても見ごたえがあります。技術は今一つ理解しきれませんがすごいなあと感動ものです。見ていて楽しい、説明があつてさらに楽しい。もう一度見に来ます。

・資料が多く素晴らしいかったです。

・大変かんげきです。

・初めて来ました。わかりやすい展示でした。

・人にすすめたくないのは人に教えるのがもったいない。

・初めて石版画を見ましたが、とても興味深いものでした。どこか懐かしさもあり来て良かったです。

・見ごたえがありました。

・この展示をもっと多くの人に知ってもらいたい。

・思いかけず良い物を見させていただいて感激でした。

・写真と思う様な石版画に感動しました。

・人・風景・人々の暮らしや思考の歴史を知る良い版画の素晴らしさに目が離すことなくとても勉強させて頂き、感謝の心が深くつきさりました。ありがとうございました。再度来たいと思いました。友人達にもお声を掛けますね。

・「婦女勉業之図」の石版画を拝見していたら、ブラウスに蝶ネクタイが似合うドレス姿の女性が見つかりました。

・実際に彫り刷る様子を映像でも良いので見てみたかったです。

・想像以上の展示数と美しさにおどろきました。期間中にまた来たいなと思っています。

・質感、細やかさなど、すばらしいと思いました。風、波の音がきこえてくるようです。

・各章の最初にある説明(?)のパネルがわかりやすくありがたかった。わがままを言わせてもらおうと、展示リストにもパネルと同じ説明があるとうれしかったかなーなんて思った。すばらしいコレクションを見せていただけてありがとうございました。

・県美のクロストークで登壇された館長さんのお話がとてもおもしろく、美濃加茂市民ミュージアム独自の展示達が面白そう

だったので来館しました。とても見ごたえがありました。

・この膨大な圧倒的。石版画一枚一枚をゆっくりと見たいがなかなか一日でした。終わりそうもない、びっしりと並んだ絵をみるともう少し余白も欲しいとなってしまう。作品数が多いから全部を見せてはしないだろうが。版画一つ一つの感動、余韻にひたる間もなく、次々と絵が追いかけてくるような錯覚を覚える。座る場所があってゆっくりとみてみたいものだ。楽しいというより驚いた展示であった。筆圧にも文字にもよみにくさがありましよう。

・素晴らしい展覧会でした。1) 石版画とは何かでいねいに展示。2) 風景画などガラス越しではなく観ることができる。3) 当時の使われ方などに配慮。4) 博覧会や博物館での展示もあり参考になりました。5) 関連書籍もうれしいです。要望: 1) 全体を表すカタログがないのが残念。2) 写真も撮れないので丁ねいな案内表示も残せないのももったいないですね。

・内容は”絵を伝える”というのしか感じられなかった。「絵」のメインの展示だと、良く分からないので展示リストも作ってくれたのは、初めてのこころみだと思ったけど、絵と題名は、セットで、わかりやすく一緒に展示しないと内容が分からないと思った。題名の文字が細かいので、もっと、すぐ見てわかるようにしてほしい。いつも思うけど、関連本は置かなくてよいと思う。置くのであれば、読者スペースとか作ってほしい。いつも展示を見て、絵画を見てきたが、この、”明治之花展”を観て、額縁はなるべくコンパクトなもので良いと思った。年表について、今後、スペースを広げてほしい※本を置くのであれば、読書スペースを展示スペース内に作ってほしい。ガラスケースの展示は、書や分野本のものより、形のある、まき物とかこした方が良いと思う。CCnet フォレストチャンネルで毎月、文化の森の展示について特集してほしい。文化の森のホームページにもリンクしてほしい。

・ものすごい作品の数に圧倒されました。無料で見られるなんて申し訳ないくらいです。石版の石の展示はありましたが、実際に絵柄がのって刷る過程がわかる写真家ビデオ(映像)があると良かったです。日本の技術ってすばらしい! 浮世絵の時代から数年でこれほどになるなんて……。浮世絵時代からの職人さんたちのパワーがうけつがれているんでしょう。

・半原版画館には何度もお邪魔致しました。広くコレクションを見ていただけることは良いことだと思います。

・興味深く拝見した。

・こんな企画を今後も続けて下さい。元気なうちはまた参ります。

・主人に誘われて「ちょっとみてようかなー」くらいの気持ちで来館しましたが、素晴らしいコレクションの展示でした。解説も分かり易くてこれほど時間かけてじっくり読んで、そしてみたのははじめてかもしれません。本当に来てよかった。貴重なものたちを見せてもらいありがとうございました。石版の印刷物の中のすごく細かい所にとっても興味深いモノや名前があっておもしろいなあとと思いました。コレクションした糸魚川さんの気持ちがわかるというか、興味はつきなかつただろうなあと……。友人にもぜひすすめようと思います。

・美人画の版画も良かったです。戦争や震災の詳細な画は歴史の足跡として大変貴重であると思います。初めて知った事実もたくさんあります。

・糸魚川淳二さんのコレクションの多さに驚きました。版画と糸魚川さんとの繋がりについては聞いたことが無く、改めて知れて良かったです。この貴重なコレクションが未永く保管されると思うと良かったと思います。版画の分類が分析をされた増野

恵子氏の解説のおかげで分かりやすく、大変な作業であっただろうと思いました。

・ちらしを見てこれはおもしろそうと思い初の来館です。盛沢山でみごたえありました。美術面と歴史面からみてとても興味深かったです。「日曜美術館」で放送してもらおうと世間の人々に認知してもらえるのに、立地もあり(不便)残念! しかし私は太田駅から歩いて来て大満足! 今日の美術館、博物館巡りを60年つづけていますが、今日の展示はベスト20には入ります。

・案内順路が不明確。説明文の文字が小さくて読めない。写真を撮ってはいけない理由を明示すべき。多すぎて見切れない。無料継続を願う。

・非常によかった。面白かった。詳しい図録が手に入るといいと思います(多少値ははっても)。

・これだけ大々的に詳細に分類されていて感銘しました。石版画が、日常を映していたのだと改めて知りました。世相、気象までも。有難うございました。

・リトグラフは言葉としては知っていました。方法は知りません。石版画ははじめてみました。さざ波や木の枝は、立体感が伝わります。草もかんじられ、おもしろいです。色彩は、内職でもやってみえる(方法を修得すれば)人の技はみがく事で、可能になると思った。

・とてもおもしろい展示でした。いちいち当時のことがリアルに解ります。

収蔵品展とそのほか

【美術工芸展示室】

□特集展示 まちの音風景展

会 期：2025 年 6 月 21 日（土）～8 月 24 日（日）〈56 日間〉

展示点数：23 点

観 覧 料：無料

「音」や「音楽」を通して地域の魅力や暮らしを読み解く「サウンドスケープ」の視点から、美濃加茂市の「音の風景」を取り上げました。

まちの発展とともに響いてきたさまざまな「音」や、人々の暮らしを彩ってきた「音楽」を通じて、美濃加茂の歴史や文化を紹介しました。



○展示品リスト

No	資料名	年代	所蔵等
1	美濃加茂市の歌 レコード	1963	館蔵
2	美濃加茂市の歌 C D	2014	館蔵
3	美濃加茂市立西中学校校歌 楽譜	1968	館蔵
4	美濃加茂市立東中学校校歌 楽譜	年代不明	館蔵
5	第 1 回市民音楽祭プログラム・チケット	1988	館蔵
6	第 1 回市民音楽祭開催要項	1987	館蔵
7	みのかも文化団体連盟会報第 11 号	2002	館蔵
8	平成 2 年度美濃加茂市小中学校音楽会プログラム	1990	館蔵
9	新聞記事「カリヨンのタベ」	2001	館蔵
10	美濃加茂少年少女合唱団定期演奏会資料一式	1979・1980	個人蔵
11	美濃加茂少年少女合唱団創立 30 周年記念誌	2006	個人蔵
12	広報みのかも 平成 7 年 10 月 1 日号	1995	館蔵
13	新聞記事「ドリームコンサート始まる」	1999	館蔵
14	美濃加茂市文化会館年間イベントガイド	2006・2010	館蔵
15	広報みのかも 平成 19 年 10 月 15 日号	2007	館蔵
16	フライヤー「青島広志とオペラに挑戦」	2007	館蔵
17	丸圭書店外観／内観	年代不明	個人蔵
18	丸圭書店包装紙（横尾忠則デザイン）	年代不明	個人蔵
19	書籍『ワンダーランド・ライフ』（旭出通信社）	2017	個人蔵
20	C D 「WONDERLAND FOREVER」	2018	個人蔵
21	C D 「You are the One」	2017	個人蔵
22	Martin / アコースティックギター	1970 代	個人蔵
23	横尾忠則ポスター	1981	個人蔵

【民具展示館・生活体験館】

□ていねいな暮らしと道具展 伝えたい地域の食と豊かさ

会 期：2025 年 4 月 19 日(土)～9 月 7 日(日)〈122 日間〉

会 場：民具展示館

展示点数：15 点

観覧料：無料

□蚕とまゆ展 美濃加茂 養蚕の舞台裏

会 期：2025 年 9 月 27 日(土)～2026 年 3 月 15 日(日)〈141 日間〉

会 場：民具展示館、生活体験館

展示点数：25 点

観覧料：無料

【エントランスホール】

□特別展「秀吉に会える日」

会 期：2025 年 10 月 30 日(木)～11 月 5 日(水)

会 場：エントランスホール

観覧料：無料

美濃加茂市民ミュージアムが所蔵する戦国期を中心とした史料の中から、羽柴（豊臣）秀吉（1537-1598）の朱印状を期間限定で紹介した。戦などにおいて船を繋いで川を渡る際、船を固定または安定させるために用いられたと思われる「船鎖」にまつわる興味深い内容で、地域の貴重な文化財について親しみを持つきっかけとなったのではないかと考える。

【その他の展示活動】

□第 70 回美濃加茂市美術展

会 期：2025 年 11 月 20 日(木)～11 月 30 日(日)〈10 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室、エントランスホール

観覧料：無料

美術との身近なふれあいの場として市内外から日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の 5 部門にわたって作品を公募しました。第 70 回は 224 点の出品があり、入賞入選作品 224 点を展覧しました。

○作品の内訳

日本画	洋画	彫刻・彫塑・工芸	書	写真	合計
13 点	75 点	30 点	29 点	77 点	224 点

各種講座・ミュージアムイベント

□年中行事

会場 生活体験館

No.	名称	期間	内容
1	鯉のぼり立て	4月27日～5月5日	鯉のぼりを立て、ショウブとヨモギを屋根にふきました。
2	七夕かざり	6月15日～7月6日	短冊に願い事を書き七夕をかざりました。
3	蚊帳つり	7月19日～8月17日	蚊帳をつり、夏じたくをしました。
4	二百十日	8月23日～9月7日	鎌を竹に結びつけて、風よけの風習を再現しました。
5	門松立て	12月7日～2026年1月7日	かつてこのあたりでみられた簡素な門松を立てました。
6	ひなかざり	2月8日～3月31日	土びなのほか、平成、昭和のひな人形を飾りました。

□各種講座

定期講座 はたおり

会場 生活体験館

講師 生活体験ボランティア

No.	名称	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	はたおり講座（初級）①	5月10日	9:30～12:00	生活体験ボランティア	生活体験館	4人
2	はたおり講座（初級）②	5月17日				
3	はたおり講座（初級）③	5月24日				

ていねいな暮らし講座

会場 生活体験館

講師 生活体験ボランティア

No.	名称	期間	時間	内容	参加者
1	夏を染める	8月2日	9:30～12:00	藍の生葉で絹のストールを染めました。	12人
2	真綿づくり	10月11日	9:30～12:00	カイコのまゆから真綿を作りました。真綿の用途についても解説しました。	11人
3	秋を染める	10月25日	9:30～12:00	どんぐりで綿のTシャツを染めました。	11人
4	ミニ門松作り	12月13日	13:30～15:30	ミニサイズの門松を作りました。	9人
5	春を染める	3月12日	9:30～12:00	紅花でストールを染めました。	11人
合計					54人

アートな1日講座

No.	名称	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	陶芸でつくる器	5月25日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	吉野浩志氏	陶芸室	24人
2	ちぎり絵	6月29日	13:00～16:00	当館学芸員	工芸室	14人
3	陶芸でつくる器	7月20日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	吉野浩志氏	陶芸室	23人
4	はじめての日本画	8月10日	10:00～16:00	田口由花氏	工芸室	11人
5	馬の絵付け	12月14日	13:00～16:00	当館学芸員	工芸室	14人
6	陶芸でつくる器	1月18日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	吉野浩志氏	陶芸室	23人
7	石こうプリント	3月15日	13:00～16:00	当館学芸員	工芸室	6人
合計						115人

四季を食べる講座

会場 調理室／生活体験館

講師 伝承料理の会

No.	名称	開催日	内容	参加者
1	手作り豆腐	4月10日	地元産大豆を使い豆腐を作りました。	10人
2	ある日の伊深のお膳	4月24日	佐野一彦が綴った日記から、伊深の山里のある日の食事を再現しました。	12人
3	朴葉寿司	5月24日	文化の森内の朴の木の葉を使い、寿司を作りました。	15人
4	梅干し	6月28日	梅と塩としその葉のみで本来の梅干しをつくりました。	16人
5	ミョウガを入れないミョウガ寿司	7月10日	初夏に家庭や祭りのお供えとして作られていた「ミョウガ寿司」を作りました。	14人

6	このあたりのお斎	9月20日	自宅で葬儀を行っていたところに食べられていた「お斎」の料理を作りました。	7人
7	かぼちゃのイトコとあっちのかぼちゃ	10月9日	小豆と煮るかぼちゃのイトコ煮と酢を入れたかぼちゃのあちやら煮を作りました。	6人
8	タレが命のごへいもち	11月6日	ごま、くるみ、ピーナツをふんだんに入れたごへいもち用のタレを作りました。	15人
9	このあたりの大晦日	12月4日	文化庁100年フードにも認定された、このあたりの年越しのごちそう“大歳のごつつお”を作りました。	12人
10	これが日本の発酵食品	1月17日	発酵食品の代表であるみそを大豆から仕込み、その他の発酵食品についても学びました。	12人
11	スーパーで何だかたくさん売っているこれ	1月31日	地元で開業して100年になるスーパーで売られている、地域ならではの食材を調査し、押し寿司を作りました。	9人
12	がんどうち 知ってる？	2月28日	昔のひな祭りの食事を作り、体験館に飾られた雛人形の前でがんどうちも体験しました。	7人
合計				135人

夏休み子ども講座

No.	名称	期間	時間	講師・出演者	会場	参加者
1	チョウのはねのしおりをつくろう	7月19日	9:30～12:30	当館学芸員	工芸室	8人
2	はたおり	7月27日	①9:30～11:30 ②13:30～15:30	生活体験ボランティア	工芸室	4人
合計						12人

おとなのための植物観察会

No.	内容	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	お出かけ講座 みたけの森の湿地を歩く	5月10日	9:30～12:00	美濃加茂 自然史研究会	みたけの森	16人
2	新緑の里山	6月28日	9:30～12:00		ぎふ清流里山公園	16人
3	蜂屋の広橋から山之上を歩く	10月11日	9:30～12:00		広橋公民館付近	16人
4	加茂川を歩く	3月14日	9:30～12:00		みのかも文化の森	15人
合計						63人

自然探検発見わくわくクラブ

No.	内容	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	森の音・春の様子	5月18日	9:30～12:00	美濃加茂 自然史研究会	みのかも文化の森	17人
2	石の不思議	6月22日				16人
3	秋の自然	10月19日				15人
4	植物の戦略を知ろう	11月23日				13人
合計						61人

フォレストくらぶ

No.	名称	開催日	時間	内容	会場	参加者
1	秘密基地をつくろう	6月14日	9:00～12:00	秘密基地づくり及び七夕飾り作り、短冊に願い事書きました。	工芸室ほか	17人
2	文化の森は25サイ①	7月12日	9:00～12:00	施設内見学およびジオラマ制作を行いました。	工芸室ほか	20人
3	文化の森は25サイ②	9月6日	9:00～12:00	前回の続きで細かな作業、プラバンづくりを行いました。	工芸室ほか	15人
4	文化の森は25サイ③	9月27日	9:00～12:00	チェキで施設内の写真撮影、完成したジオラマを展示しました。	工芸室ほか	17人
5	私のカニサイ	12月6日	9:00～12:00	常設展示室の中でも人気が高い「カニサイ」の壁飾りづくりを行いました。	工芸室ほか	16人
6	ぬくもりの火	1月31日	9:00～12:00	どんど焼き・焼き芋などを行った活動の中で知り合ったなかまと1年の振り返りをしながら交流する場となりました。	生活体験館ほか	20人
合計						105人

ふらっとみゅーじあむ

会場 エントランスホール

No.	名称	開催日	時間	内容	参加者
1	カリンバをつくろう！	8月6日 8月7日	13:30～15:30	夏の企画展『まちの音風景』展に関連して、カリンバを作りました。	115人
2	レイNSTICKをつくろう！	8月20日 8月21日		夏の企画展『まちの音風景』展に関連して、レイNSTICKを作りました。	84人
合計					199人

文化の森で夏遊び

No.	名称	開催日	時間	内容	会場	参加者
1	文化の森で夏遊びを楽しもう！	7月30日	9:30～11:30 13:30～15:30	工芸室および工芸室横芝生広場で昔遊びや、陶芸室で夏の制作を行いました。	工芸室ほか	70人
合計						70人

特別講座

No.	内容	開催日	時間	講師	会場	参加者
1	サイエンスカフェ 「人と自然のかかわり」	5月24日	14:00～15:30	村瀬正成氏 (NPO 法人犬山里山学研究所理事長、美濃加茂自然史研究会会長)	café ツナグ	15人
2	夏の星座を観てみよう	7月26日	18:00～20:30	西谷徹氏（岐阜聖徳学園大学講師、元岐阜県博物館学芸員）	伊深小学校	5人
3	サイエンスカフェ 「私と魚のはく製づくり」	8月2日	18:00～19:30	前城光琉氏	工芸室	27人
4	サイエンスカフェ 「樹木とキノコの関係について」	1月10日	15:00～17:00	川尻秀樹氏（岐阜県立森林文化アカデミー特任教授）	生活体験館	22人
合計						69人

＜講座受講者の皆様の声をご紹介します＞

各講座について、アンケートを集計しております。ここでは、受講者の皆様の声を一部抜粋し、ご紹介します。

＜定期講座＞

【5/10・5/17・5/24 はたおり講座】

- ・皆さんのおかげで楽しく過ごすことができました。良い体験ができました。ありがとうございました。

＜ていねいな暮らし講座＞

【8/2 夏を染める】

- ・とても楽しかったです。お家でもやってみたいです☆他の講座も気になります…！
- ・春にひきつづき、楽しかったです。予想以上に濃い色で驚きでした！
- ・染め物はとても楽しいのでまた申し込みたいです。人気講座なので、当らない人も多いと聞きました。「夏を染める」も何回か開催してもらえると嬉しいです。(他の染めもの講座も)
- ・普段体験できないことをスタッフさんに分かりやすく説明してもらいながらできたのでとても楽しかったです。

【10/11 真綿作り】

- ・木綿と真綿のちがいを知りたいと思っていましたのでよくわかりましたし、ますます興味がもてました。
- ・人生で初の真綿づくり、とても良い経験になりました。感触や香りなど経験しないとわからないですね。ありがとうございました。
- ・こつがあつてむずかしかったです。

【10/25 秋を染める】

- ・そめるのに時間がかかるのでたいへんでした。
- ・ありがとうございました。また当たりますように。

【12/13 ミニ門松作り】

- ・森の中をさんさくして花材をさがせたのがよかった。同じ材料でもそれぞれの作品できるのを見るのが楽しい。
- ・四季の料理は抽選に受からず参加できない。市が催すものは基本的に市民対象と考えるが市民優先されないのに疑問。
- ・門松作り楽しかったので、また参加したいです。竹が切つてあったのでありがたかったです。

【3/12 春を染める講座】

- ・とても奥深い草木染の世界を体験できて良かったです。家でも目線が変わりました。
- ・出来たら講座の人数を少し増やしてほしい。
- ・いろいろと作業し訳す準備していただき、進行もスムーズでとても楽しかったです。ありがとうございました！
- ・豆知識も沢山かかせてもらいました。どんな風な出来上がりかわからずワクワクしました。応募時にショールを染めると一言つけ加えてもらいたかった。

＜アートな1日講座＞

【5/25・7/20・1/18 陶芸でつくる器】

- ・自分のつくりたいものやおちゃわんなどが、楽しくきれいにつくれてよかったです。
- ・今回始めて参加させて頂きました。力の加減などが難しくて、思い通りのものが出来ませんでしたが、丁寧に教えて頂きとても楽しい時間でした。
- ・機械と手の良さを両方楽しめたので良かったです。
- ・定期的に陶芸を学んでみたい。落ち着いた場所でゆっくり楽しく学べて良かったです。
- ・ろくろは初めてだったけど、てつだってもらえてそれなりにできたのでうれしかった。

【6/29 ちぎり絵】

- ・創作活動で脳も活性化して良かったです。
- ・工作が好きな娘がとても楽しく参加できてとても喜んでいました！また企画して欲しいです。

【8/10 はじめての日本画】

- ・本日初めて日本画を体験・勉強して良かったと思います。 また参加して今回より上達出来たらよいと思います。 田口先生の説明はわかりやすくて良かったと思います。
- ・初の日画というものに触れました。絵の具の特徴などや、ていねいな作品づくりということが知れました。 墨絵（龍や干支）など学んでみたいです。ありがとうございました。
- ・一日体験アートで、版画・彫刻・油絵などもやってみたいです。

【12/14 馬の絵付け】

- ・季節の作品作りは楽しいので、これからも企画して下さい。
- ・集中力が必要だったので、もっと静かな環境でやりたかった。
- ・絵の具の透明、不透明など見本があるとわかりやすい。

【3/15 石こうプリント】

- ・選んだモチーフのユニークなところが上手くできるか想像しながら、ただただ、ニードルを動かしながらやりました。石膏におきかわったものを見るまでの30分も楽しみな時となりました。どうもありがとうございました。
- ・美術の技法で知らないものや、見たことがあるだけのものがあり、それを体験できるのが楽しかったです。またお願いします。

□森の朗読会 各回 時間 14:00～15:00 会場 緑のホール 出演 みのかも「声のドラマ」の会

No.	回	演目	期間	参加者
1	第 249 回	『おひとりさま日和』より「サードライフ」	4 月 19 日	52 人
2	第 250 回	『じいさまから聞いた話』より「茂平さんとタヌキ」 「ぐひん様の鼻」「ピンチュージャカジャカ」「矢竹」	5 月 24 日	56 人
3	第 251 回	「あなたはあなたの色で」 「晴れた空の下で」「ある帰郷」	6 月 21 日	55 人
4	第 252 回	「がんじっこ」	7 月 19 日	44 人
5	第 253 回	「戦場」「火の中の声」「やけあとのうた」 「大人になれなかった弟たちに・・・」「シイの木はよみがえった」	8 月 16 日	55 人
6	第 254 回	『終電の神様』より「ホームドア」	9 月 20 日	51 人
7	第 255 回	「庭」「ちいさな幸福」「鮎」	10 月 18 日	53 人
8	第 256 回	「雪の夜話」 「クリスマスの犬」	12 月 13 日	37 人
9	第 257 回	「空中ブランコ」	1 月 17 日	60 人
10	第 258 回	「うちの父娘」「親は金蔓」	2 月 21 日	69 人
11	第 259 回	『うつくしが丘の不幸の家』より「第 2 章おわりの家」	3 月 21 日	74 人
合計				606 人

□博学連携フォーラム

名称	期日	内容	会場	参加者
第 19 回 博学連携 ミニフォーラム	2 月 17 日 15:15～ 16:30	今年度の博学連携フォーラムでは、文化の森活用委員会委員と文化の森学習担当スタッフが、文化の森の学校活用をテーマにワークショップ形式で意見交換を行いました。 「小学 2 年生 生活科『みんなでつかう まちのしせつ』」「小学 5 年生 理科『流れる水のはたらき』」「中学校における学校活用」の 3 つのテーマに分かれ、学習プログラムの充実に向けた意見を出し合いました。児童・生徒の実態に応じたワークシートの改善、悪天候時の現地学習における代替案の検討、出前授業の可能性など、多様な視点から活発な意見交換が行われました。	研修室	13 人

みのかも文化の森 学校活用の考え方と目指すこと

みのかも文化の森は、開館前から学校が博物館を活用しながら学習活動を行うことができるよう、学校活用のプランを検討してきました。開館の2000年は「総合的な学習の時間」の全面実施の時期と重なったこともあり、すべての学年での多教科の活用を目指し活発な検討を学校とともにを行い、そこでの議論が今の活用の基盤となっています。

□文化の森だから実現できる学校活用の特徴

- ・子どもの実態や学習指導要領をもとに、活用プログラムを検討の上、作成しています。教科の授業としてカリキュラムに位置づけることで、単なる見学だけで終わらない継続的な学習の機会となることを考えています。年に一度はどの学年も来館できることを目指し計画をします。
- ・文化の森の「人・もの・こと・場」を活用することで、「本物」との出会いを活かした「ここでしかできない活動」を通して得られる気付きや感動を大切に、深い学びを目指しています。四季おりおり姿を変える自然や太古の人々が住んでいた証である遺跡や遺物、周囲の風景に溶け込んだ彫刻など、この文化の森という場が持つ空気感も含め、すべてが「本物」から学ぶ素材です。
- ・文化の森では様々な人との出会いがあり、人の言葉からと人の姿から学ぶことができます。学校の先生や保護者以外の大人であるボランティア、隣にいる友達や博物館のスタッフである学芸員と話しをしたこと、かけられた言葉、思わず口からでた言葉など他の人の関わりを大切にし、この積み重ねが豊かな学びにつながります。

文化の森という「教室」で、新しい気づきや知ることの喜び、楽しさのきっかけがどの子どもにも手に入れられる、そのような学習のあり方を築いていきたいと考えます。文化の森の学校活用は、子どもたち全員が等しく得ることができる「博物館の原体験」です。

□学習の効果を高めるために

- ・学校との日程調整や活動準備など、学校活用に関わる業務を担当する学習担当を配置しています。
- ・各活用の前に学習担当と担任の教員が必ず顔を合わせて打ち合わせを行います。活動内容だけでなく、活動のねらいや事前事後の学習とのつながりなど、各学校や児童生徒の実態に合わせた活動内容とすることを大切にしています。
- ・子どもたちの学びに寄り添い声を掛ける、時には講師となる学習支援ボランティアがいます。担任の教員や保護者以外の大人の姿から多くの刺激を得られます。
- ・学校活用で来館する際の交通手段としての「バス」を市の予算で手配しています。
- ・市内の小中学校では、校務分掌として「文化の森活用委員」を1名配置しています。その教員と文化の森の職員が「文化の森活用委員会」を設け、学習活動の工夫や運営について話し合います。
- ・文化の森活用委員会での結果や一年間のプログラム、活用の教員による振り替えりをまとめたものを『文化の森活用の手引き・活用実践集』として毎年刊行しています。
- ・文化の森での学びが子どもたちの中でどのように捉えられているのか、長期にわたる関わりによる変化を知る手がかりとして、6年生アンケートや成人式アンケートを実施しています。ここでの学びの経験やあり方を検証し、改善に努めています。

以上のような文化の森の学校活用は、次の3点につながると考えます。一つ目に博物館という場での出会いの経験を通して、生涯にわたり博物館と関わり学ぶ楽しさを知ること、二つ目に、その枠にとらわれず心豊かで文化的な市民となる素地を育むこと、三つ目に、未来を創りだしその担い手となることのできる「市民」を育むことです。

I 学校利用状況

□活動実施日 計 113 日（活動可能日 計 140 日※1） 利用率 80.71 %（令和 6 年度活動実施日 計 105 日（活動可能日 計 144 日※1） 利用率 73.61%）

※1 式のある日および休館等で活動の受け入れが
できなかった日をのぞく。

□活動日及び利用者数

項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R6 年度
利用団体数	4	16	12	7	2	12	19	15	13	12	10	3	125	119
市内	4	16	12	7	2	9	18	14	13	12	10	3	120	115
市外	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	5	4
小学校	4	16	10	3	0	7	16	13	12	10	10	3	104	96
中学校	0	0	1	4	0	3	3	2	0	2	0	0	15	15
幼・保・他	0	0	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	6	8

項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R6 年度
利用者数	157	717	626	224	41	444	999	659	743	455	538	208	5,811	5,550
市内	157	717	626	224	41	375	987	631	743	455	538	208	5,702	5,493
市外	0	0	0	0	0	69	12	28	0	0	0	0	109	57
小学校	157	717	513	120	0	305	879	655	703	357	538	208	5,152	4,777
中学校	0	0	113	104	0	56	120	4	0	98	0	0	495	468
幼・保・他	0	0	0	0	41	83	0	0	43	0	0	0	167	305

項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R6 年度
学級数	6	28	25	25	2	32	34	24	27	44	18	6	271	240
学年数	4	26	23	12	2	27	18	15	14	34	10	3	188	186
支援した学習ボランティア数	2	6	3	0	0	0	4	2	0	2	3	1	23	31
支援したその他ボランティア数	2	5	2	1	0	0	0	1	2	2	2	1	18	39

□学年別活動教科数

学年 \ 教科	国語科	社会科	理科	生活科	図工	総合	生活 単元※	施設見 学昼食	卒園 制作	親子	職業 体験	その他	合計
1 学年	11	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	28
2 学年	5	0	0	19	2	0	0	0	0	0	0	0	26
3 学年	0	16	6	0	2	1	0	0	0	0	0	0	25
4 学年	0	11	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	13
5 学年	0	1	11	0	0	2	0	0	0	0	0	0	14
6 学年	6	10	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	21
特別支援他	0	0	0	1	0	0	10	0	0	0	0	0	11
中学校	0	0	0	0	0	2	5	0	0	0	8	0	15
保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
合計	16	38	21	37	4	6	15	0	4	0	8	0	157

※「生活単元」は特別支援学級等の児童、生徒が行った学習の総称。

※団体数の合計より教科の合計が多いのは、1つの団体がいくつかの教科を行うことがあるため。

□開館以来の利用者数（表の数値はすべてのべ

年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
利用者数	8,174	8,080	8,442	7,705	6,248	7,552	8,311	8,538	8,543	7,416
年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
利用者数	8,713	9,309	9,724	9,614	10,033	10,631	10,483	10,003	9,401	7,883
年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	累計 205,205 名			
利用者数	4,775	3,757	5,191	5,318	5,550	5,811				

Ⅱ 全学習内容 ※3 学級以上の学年は 2 日間に分けて来館していただきました。

月	日	曜	学校・学年	学習内容
4	23	水	太田小 2 年 (2 組)	国語科「たんぼぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（たんぼぼ、ミミズのふしぎ） 生活科「春だ今日から 2 年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	24	木	太田小 2 年 (1 組・3 組)	国語科「たんぼぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（たんぼぼ、ミミズのふしぎ） 生活科「春だ今日から 2 年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	25	金	山之上小 6 年	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、土器片の観察、土器作り
	30	水	古井小 6 年 (1 組・4 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
5	1	木	古井小 6 年 (2 組・3 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
	2	金	古井小 6 年 (5 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、住居跡の見学・遺物探し
	9	金	加茂野小 あおぞら・たいよう	生活単元「ごはんを炊こう」：かまどでごはんを炊いておにぎりをつくる、森の中ビンゴ
	13	火	蜂屋小 3 年 (1 組)	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方向の見学、理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	14	水	下米田小 3 年	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方向の見学、理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	15	木	山手小 2 年生	生活科「春だきょうから 2 年生」：読み聞かせ、森の散策、常設展示室ビンゴ 図画工作：「ならべてならべて」：森の材料をならべる造形活動
	16	金	蜂屋小 3 年 (2 組、3 組)	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方向の見学、理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	20	火	太田小 3 年 (1 組)	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方向の見学、理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	21	水	太田小 3 年 (2 組・3 組)	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方向の見学、理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認
	22	木	古井小 2 年 (1 組、4 組)	国語科「たんぼぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（「ハートのはっぱ カタバミ」、 「すみれとあり」） 生活科「春だきょうから 2 年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	23	金	古井小 2 年 (2 組、3 組)	国語科「たんぼぼのちえ」：森の植物や生き物に関わる読み聞かせ（「ハートのはっぱ カタバミ」、 「すみれとあり」） 生活科「春だきょうから 2 年生」：森の散策、常設展示室ビンゴ
	27	火	伊深小 えがお	自立活動「文化の森に行こう」：かまどでごはん（おにぎりづくり）、縄文土器や葉っぱのお皿
	28	水	蜂屋小 6 年	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室で土器の観察、土器片の観察、住居跡の見学・遺物探し
	29	木	山之上小 5 年	総合的な学習の時間「米づくりの一年」：昔の米作りの道具の学習と体験、民具展示館の見学、古代米の学習
	30	金	伊深小 3 年生 三和小 3・4 年生	社会科「わたしのまち みんなのまち」：立体地図から見る市の様子、タワーから各方向の見学、理科「チョウを育てよう」：モンシロチョウのタマゴ・幼虫の観察、体のつくりの確認 国語「春風をたどって」：森の散策と読み聞かせ
6	3	火	伊深小 1 年 三和小 1 年	生活科「なつがやってきた」：季節の生き物に関わる読み聞かせ、森ビンゴ、常設展示室・森のタワーの見学
	6	金	双葉中 1 年	総合的な学習の時間「地域を知ろう」：文化の森ウォークラリー、時代と共にうつりかわる様子（この地域歴史）、この地域の自然（美術、自然史）、まちの良さ（この地域の生業、まちの良さを伝える）
	11	水	のぞみ教室	生活単元「植物染めをしよう」：植物で染め物をしよう、まゆの家で昔遊び
	12	木	山手小 1 年	生活科「たのしいなついっぱい」：常設展示室たんけん、森の中たんけん、森のタワー見学
	17	火	山之上小 3 年	総合的な学習の時間「白隠さんについて」：白隠について知る、墨で絵を描こう
	18	水	太田小 6 年 (3 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室の見学（土器の観察）、住居跡の見学・衣装の見学
	19	木	太田小 6 年 (1 組・2 組)	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室の見学（土器の観察）、住居跡の見学・衣装の見学
	24	火	古井小 おおぞら・さくら	生活単元「文化の森探検（ビンゴ）」：森のビンゴ、みゅーじあむビンゴ

6	25	水	加茂野小 6 年 (1 組・2 組)	総合的な学習の時間「日本文化を知ろう」：茶の湯体験 社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室の見学、住居跡の見学・遺物探し、縄文土器づくり
	26	木	加茂野小 6 年 (3 組・4 組)	総合的な学習の時間「日本文化を知ろう」：茶の湯体験 社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室の見学、住居跡の見学・遺物探し、縄文土器づくり
	27	金	蜂屋小 2 年	生活科「夏の図鑑」：森の植物や季節に関わる本の読み聞かせ、森の中の散策、常設展示室たんけんビンゴ
7	1	火	三和小 5・6 年	社会科「米作りのさかんな地域」：米作りの道具の学習と道具体験、民具展示館の見学、お米の変身（かまどでごはん）
	3	木	下米田小 6 年	社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」：常設展示室の見学、住居跡の見学・遺物探し、縄文土器づくり
	4	金	西中 けやき	生活単元「かまどでごはんを炊こう」「カレー＆白玉だんごをつくらう」：かまどでごはんを炊く、カレー作り、白玉だんごづくり
	8	火	山手小 ひまわり	生活単元「文化の森で仲良く活動しよう」：文化の森ビンゴ、葉っぱのお皿づくり、おたのしみタイム
	11	金	東中わかば・にじ	生活単元・自立活動「ハンカチを染めよう」：植物でハンカチを染めよう
8	27	水	太田第二保育園 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり、昔遊び、森のタワー見学
	29	金	加茂学園 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり、昔遊び、森のタワー見学
9	4	木	蜂友学舎保育園 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり、昔遊び、常設展示室見学
	11	木	山之上小 2 年	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：施設のやさしさ見つけ、文化の森で働く人インタビュー、施設見学（タワー、展示室）
	12	金	東中わかば・にじ	生活単元「マグカップを作ろう」：粘土でマグカップづくり
	17	水	太田小 2 年 (2 組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森で働く人インタビュー、施設のやさしさ・工夫見つけ
	18	木	太田小 2 年 (1・3 組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森で働く人インタビュー、施設のやさしさ・工夫見つけ
	19	金	伊深小 4 年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	19	金	牛牧小 けやき学級	生活科「秋みつけ・葉っぱのお皿づくり」：秋みつけ・葉っぱのお皿づくり、館内見学
	24	水	古井小 4 年 (2・3 組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	25	水	古井小 4 年 (1・4 組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
10	30	火	のぞみ教室	生活単元「墨絵・茶の湯体験」：墨絵体験、茶の湯体験
	1	水	加茂野小 4 年 (1・2 組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	2	木	加茂野小 4 年 (3・4 組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	7	火	古井小 2 年 (2・3 組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森で働く人インタビュー、施設のやさしさ・工夫見つけ
	8	水	古井小 2 年 (1・4 組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森で働く人インタビュー、施設のやさしさ・工夫見つけ
	9	木	下米田小 5 年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	10	金	東白川小 1 年	生活科「たのしいあきいっぱい」：読み聞かせ（もりのかくれんぼう）、秋みつけ、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり、ネイチャーゲーム（カモフラージュ）
	15	水	太田小 5 年 (1 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	16	木	太田小 5 年 (2・3 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
10	21	火	山手小小 5 年 (1 組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）

10	22	水	山手小小5年 (2・3組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	23	木	蜂屋小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	24	金	伊深小2年 三和小2年	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、どんぐりごま・どんぐりヘリコプターづくり 生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森の職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ
	28	火	加茂野小1年	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ
	29	水	加茂野小5年 (2・3組)	理科「流れる水のはたらき」川浦川見学（猿飛橋、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	30	木	加茂野小5年 (1組)	理科「流れる水のはたらき」川浦川見学（猿飛橋、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	31	金	双葉中1年	総合的な学習の時間「地域を知る」：逍遙の画讃を表現しよう（美術）、まゆの家の秘密と真綿づくり（民俗）、葉脈標本を作ろう（自然史）、地域のお寺と仏像を知ろう（歴史）、地元の遺跡と拓本カード（歴史）
11	5	水	山之上小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	11	火	南姫小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、炭火アイロン体験、昔の道具調べ
	11	火	太田小4年 (2組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	12	水	太田小4年 (1組・3組)	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	13	木	伊深小5年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	14	金	蜂屋小1年	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、壁飾り作り
	18	水	古井小5年 (1・3組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	19	水	下米田小2年	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森で働く人・職員にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、秋を楽しもう（森の散策とあきの森ビンゴ）
	20	木	古井小5年 (2・4組)	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	21	金	下米田小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	26	水	三和小2年	国語科「スーホの白い馬」：「みのかも声のドラマの会」の方の朗読と朗読のアドバイス 生活科「むかしからつたわる あそびをたのしもう」：おいも焼き、文化の森たんけん
	27	木	山手小4年	社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」：福田太郎八について（PP）、資料の読み解き、太郎洞池見学、堤防造りの道具体験
	28	金	下米田小1年	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、壁飾り作り、どんぐりごまとどんぐりヘリコプターづくり
12	2	火	加茂野小2年 (1・2組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森探検・文化の森で働く人にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、展示室ビンゴと森のタワー見学
	3	水	加茂野小2年 (3・4組)	生活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森探検・文化の森で働く人にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、展示室ビンゴと森のタワー見学
	4	木	太田小1年 (3組)	国語科「たぬきの糸車」：糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	5	金	太田小1年 (1組・2組)	国語科「たぬきの糸車」：糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	9	火	古井小1年 (3・4組)	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり
	10	水	古井小1年 (1・2組)	生活科「たのしいあきいっぱい」：秋みつけ、どんぐりゴマづくり、どんぐりヘリコプターづくり
	11	木	山手小6年	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポータパークの地層見学
	16	火	下米田小6年	理科「大地のつくりと変化」：華山のはたらきでできた地層見学（蜂屋町広橋の地層見学）、常設展示室の見学、岩石標本の観察

12	17	水	あじさい保育園 年長	卒園制作「葉っぱのお皿づくり」：森で材料集め、葉っぱのお皿づくり、昔遊び、森のタワー見学
	18	木	蜂屋小2年	活科「みんなでつかうまちのしせつ」：文化の森で働く人にインタビュー、施設のやさしさ見つけ、
	19	金	蜂屋小5年	理科「流れる水のはたらき」：川浦川見学（猿飛橋で実験、天王橋の観察）、木曽川見学（中濃大橋下から観察、船着場から観察）
	23	火	三和小5・6年	総合的な学習の時間「文化の森を楽しもう」：かまどでごはん、お味噌汁づくり、文化の森バックヤードツアー
	24	水	蜂屋小6年	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
1	9	金	下米田小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんごまづくり、昔遊び
	14	水	西中 けやき	生活単元・自立活動「どんど焼きをしよう」「墨絵を体験しよう」：どんど焼き、ぜんざいづくり、墨絵体験をしよう
	15	木	伊深小6年	理科「大地のつくりと変化」：蜂屋町広橋の地層見学、常設展示室の見学、岩石標本の観察、リバーポートパークの地層見学
	16	金	東中 わかば・にじ	生活単元「手作りマグカップで温まろう」：いもきんとん作り、マグカップ鑑賞、手作りマグカップで試飲
	20	火	太田小 なかよし	生活単元「五平餅をつくろう」：七輪の準備、五平餅づくりの手順の確認、形作り、焼いて試食
	21	水	下米田小 やまび こ・あおば	生活単元・自立活動「文化の森へ行こう」：焼き芋、文化の森たんけんビンゴ、昔遊び
	22	木	のぞみ教室	生活単元「羽子板を作ろう」：羽子板で遊ぶ、羽子板の飾りつけ、昔遊び
	23	金	山之上小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	27	火	古井小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	28	水	古井小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	29	木	蜂屋小 ひまわ り・たんぼぼ	生活単元・自立活動「かまどでごはん」：かまどの準備、おひるご飯を作ろう、お正月遊びと昔遊び
	30	金	伊深小1年・ 三和小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
2	3	火	安桜小3年	社会科「古い道具と昔の暮らし」：洗濯板で洗濯体験、炭火アイロン体験、七厘で焼きおにぎり、まゆの家道具探検
	4	水	加茂野小1年 (1・3組)	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	5	木	加茂野小1年 (2・4組)	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	6	金	下米田小3年	社会科「市のうつりかわり」：七厘で火おこし、昔の道具調べ
	10	火	伊深小3年・ 三和小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具の移り変わり
	12	木	山手小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具の移り変わり
	17	火	山之上小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具の移り変わり
	20	金	蜂屋小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び
	25	水	古井小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具の移り変わり
	26	木		
3	3	火	加茂野小3年	社会科「市のうつりかわり」：洗濯板で洗濯体験、七厘で火おこし、昔の道具の移り変わり
	4	水		図画工作科「これでかきたい」：小刀を使ってえんぴつづくり
	6	金	山手小1年	国語科「たぬきの糸車」：読み聞かせ、糸車体験、まゆの家たんけん 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」：ぶんぶんゴマづくり、昔遊び

収集・保存・整理・調査・その他

□資料収集

みのかも文化の森／市民ミュージアムは、開館以前から現在に至るまで、地域に根差したミュージアムという基本的な考え方のもと、自然史、考古、歴史、民俗、美術工芸、文化などの広範囲な分野の資料や標本、作品、そしてそれに関する情報を収集し保存しています。地域とは、美濃加茂市及び市域の資料や事柄をあらわすのに必要な周辺圏域を指します。

収集の基本方針

- ①地域的な特徴・特性をあらわし、価値があると認められるもの
- ②学術的に価値があると認められるもの
- ③現代の社会に発信・提起するミュージアムとして収集する必要があると認められるもの

各分野における収集品の特徴と収集にあたっての留意点

- 自然史部門
 - ・蜂屋層群中村累層に関する標本類
 - ・加茂地域の生態を特徴づける動植物標本類
 - ・文化の森敷地内などにある里山に関する動植物標本類
- 考古部門
 - ・牧野小山遺跡に代表される縄文期考古資料
 - ・為岡遺跡に代表される弥生期考古資料
 - ・文化の森が立地している尾崎遺跡考古資料
 - ・石器石材としての下呂石
- 歴史部門
 - ・「坪内逍遙」「津田左右吉」をはじめとする人物資料
 - ・織田信長をはじめとする戦国期の古文書
 - ・林亮三、小栗憲八らの記録したものを含めた現代資料
 - ・美濃加茂市合併前の旧役場文書
- 民俗部門
 - ・佐野一彦が残した昭和 30 年代を中心とした写真・記録類
 - ・旧岐阜県蚕業試験場資料を含めた養蚕関係資料
 - ・蜂屋柿など生業に関する資料
- 美術工芸部門
 - ・地域ゆかりの作家の作品
 - ・「芸術と自然」を主題とする作品
 - ・地域ゆかりの作家作品の特徴の一つである版画作品
 - ・1997 年まで開催された彫刻シンポジウムに関連する資料と作品

① 購入

No.	分類	名称	点数	作者・制作者など	制作・発行年
1	図書	歴史学研究 第 1045 号	1	歴史学研究会 編 歴史学研究会	2025
2	図書	豊臣秀吉文書集 4 天正 17 年～天正 18 年	1	名古屋市博物館 編 吉川弘文館	2018
3	図書	豊臣秀吉文書集 5 天正 19 年～文禄元年	1	名古屋市博物館 編 吉川弘文館	2019
4	図書	豊臣秀吉文書集 6 文禄 2 年～文禄 3 年	1	名古屋市博物館 編 吉川弘文館	2020
5	図書	豊臣秀吉文書集 7 文禄 4 年～慶長 3 年	1	名古屋市博物館 編 吉川弘文館	2021
6	図書	豊臣秀吉文書集 8 補遺・年不詳	1	名古屋市博物館 編 吉川弘文館	2022
7	図書	名古屋奇人伝 伊藤萬蔵 石造物寄進王の足跡を追って	1	伊藤善朗 風媒社	2023
8	図書	社会科を中心に学びの「本質」を問う	1	澤井陽介 ほか 東洋館出版社	2022
9	図書	コミュニティ・オブ・クリエイティビティ ひらめきの生まれるところ	1	佐宗邦威 英治出版	2022
10	図書	鑑賞のファシリテーション～深い対話を引き 出すアート・コミュニケーションに向けて～	1	上野行一 編著 淡交社	2023
11	図書	現代アートをたのしむ 人生を豊かに変える 5 つの扉 (ドア)	1	筧菜奈子 平凡社	2022
12	図書	芸術批評誌 リア No.14	1	リア編集委員会 編 リア制作室	1998
13	図書	芸術批評誌 リア No.23	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2002
14	図書	芸術批評誌 リア No.28	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2005
15	図書	芸術批評誌 リア No.42	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2012
16	図書	芸術批評誌 リア No.43	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2012
17	図書	芸術批評誌 リア No.44	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2013
18	図書	芸術批評誌 リア No.45	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2013
19	図書	芸術批評誌 リア No.50	1	リア編集委員会 編 リア制作室	2016
20	図書	めくるめく現代アート イラストで楽しむ世界の作家とキーワード	1	筧菜奈子 著 フィルムアート社	2023
21	図書	美人画づくし	1	芸艸堂 編 芸艸堂	2015
22	図書	美人画づくし 弐	1	芸艸堂 編 芸艸堂	2015
23	図書	佐光亜紀子洋画展 画業 50 年のときめき	1	佐光亜紀子 古川美術館	2022
24	図書	佐光亜紀子洋画展 花と月と世界遺産	1	佐光亜紀子 古川美術館	2025
25	図書	民具のミカタ博覧会 見つけて・みつめて・知 恵の素 デザインから読み解く、日本と世界 のくらしの造形	1	国立民族学博物館 編 国立民族学博物館	2021
26	図書	小学校学習指導要綱解説 国語編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
27	図書	小学校学習指導要綱解説 算数編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008

28	図書	小学校学習指導要領解説 理科編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 大日本図書	2008
29	図書	小学校学習指導要領解説 社会編	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
30	図書	小学校学習指導要領解説 音楽編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 教育芸術社	2008
31	図書	小学校学習指導要領解説 外国語活動編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
32	図書	小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
33	図書	小学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
34	図書	小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 日本文教出版	2008
35	図書	小学校学習指導要領解説 生活編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
36	図書	小学校学習指導要領解説 道德編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
37	図書	小学校学習指導要領解説 家庭編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 開隆堂出版	2008
38	図書	小学校学習指導要領解説 総則編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 東洋館出版社	2008
39	図書	中学校学習指導要領解説 理科編 平成 20 年 9 月	1	文部科学省 大日本図書	2008
40	図書	中学校学習指導要領解説 社会編 平成 20 年 9 月	1	文部科学省 日本文教出版	2008
41	図書	中学校学習指導要領解説 美術編 平成 20 年 9 月	1	文部科学省 日本文教出版	2008
42	図書	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成 20 年 9 月	1	文部科学省 教育出版	2008
43	図書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 20 年 9 月	1	文部科学省 ぎょうせい	2008
44	図書	中学校学習指導要領解説 総則編 平成 20 年 8 月	1	文部科学省 ぎょうせい	2008
45	図書	博物館教育論 第 2 版 学芸員の現場で役立つ基礎と実践	2	水嶋英治・西浦久充 編著 ミネルヴァ書房	2023
46	図書	博物館展示論 第 2 版 学芸員の現場で役立つ基礎と実績	2	水嶋英治・西浦久充 編著 ミネルヴァ書房	2023
47	図書	博物館とコレクション管理 ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用	2	西浦久充・水嶋英治 編著 ミネルヴァ書房	2024
48	図書	ミュージアムと生きていく	1	大澤夏美 文学通信	2024
49	図書	森靖展 -Gigantization Manifesto- (巨大化宣言)	1	森靖 礫山美術館	2024
50	図書	明治文学の彩り 口絵・挿絵の世界	1	日本近代文学館 編 日本近代文学館	2023
51	図書	L R G ライブラリー・リソース・ガイド 第 51 号 2025 年春号	2	ライブラリー・リソース・ガイド編集部 編 アカデミック・リソース・ガイド株式会社	2025
52	図書	樹脂封入標本のつくり方	1	野村周平 東海大学出版部	2021
53	図書	集まる民具、集めるひと―民具収集の 文化人類学的考察と「緩やかな保存」	1	日高真吾 臨川書店	2024
54	図書	円空仏・紀行 1 編年・資料	1	岩田勝 桂書房	2021
55	図書	天皇の美術史 6 近代皇室イメージの創出 明治・大正時代	1	山口昌男・塚原史 監修／木下直之 編 吉川弘文館	2017
56	図書	王家の肖像 明治皇室アルバムの始まり	1	岩尾光代 吉川弘文館	2023

57	図書	近世日本邪正論 江戸時代の秩序維持と キリシタン・隠れ／隠し念仏	1	大橋幸泰 吉川弘文館	2024
58	図書	近世日本のキリシタンと異文化交流	1	岡美穂子 勉誠出版	2013
59	図書	近世潜伏宗教論—キリシタンと隠し念仏—	1	大橋幸泰 吉川弘文館	2018
60	図書	47 都道府県・美術館百科	3	暮沢剛巳 丸善出版	2024
61	図書	庶民の暮らしと職人史 信濃にみる生活道具と権威主義	1	市川健夫 川辺書林	1998
62	図書	絹と布の考古学（考古学選書 28）	1	谷一尚 編雄山閣	2022
63	図書	春夏秋冬の年中行事 日本の暮らしと伝統	1	「日本の暮らしと伝統」編集委員会 編 汐文社	2022
64	図書	資料が語る信長の時代	1	柴裕之 吉川弘文館	2022
65	図書	キリシタンの生きた〈まち〉宣教と弾圧の軌跡	1	岡美穂子 岩波書店	2024
66	図書	潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆	1	大橋幸泰 講談社	2024
67	図書	「お静かに！」の誕生 近代美術の鑑賞と批評	1	佐藤道信 吉川弘文館	2024
68	美術	《氷洞》	1	柄澤健介	2025

② 寄贈

No.	分類	名称	点数	制作者・時期など	寄贈者
1	歴史資料	十一面観音像	1	鑄造	中島和子氏
2	歴史資料	観音形像	1	木造	中島和子氏
3	歴史資料	如来形像	1	木造	中島和子氏
4	歴史資料	聖徳太子孝養像	1	紙本彩色・軸装	中島和子氏
5	歴史資料	善光寺式阿弥陀如来像	1	多色刷・小掛軸	中島和子氏
6	歴史資料	弘法大師像	1	多色刷・小掛軸	中島和子氏
7	歴史資料	「加茂郡蜂屋村土地寶典」	1	昭和 18(1943)年 11 月 6 日発行	中島和子氏
8	歴史資料	「みのかも蜂屋土地宝典」	1	平成 4(1992)年 3 月発行	中島和子氏
9	歴史資料	地券類 一括	1 式	明治期	中島和子氏
10	歴史資料	「喝」法語	1	紙本墨書・軸装	中島和子氏
11	歴史資料	青面金剛立像	1	昭和 55(1980)年改装、紙本着色、軸装	座馬昭氏ほか 3 名
12	歴史資料	仏飯器(庚申関係資料)	3	明治 14(1881)年 8 月	座馬昭氏ほか 3 名
13	歴史資料	三宝(庚申関係資料)	1	明治 14(1881)年 8 月	座馬昭氏ほか 3 名
14	歴史資料	数珠(庚申関係資料)	1	明治 14(1881)年 8 月	座馬昭氏ほか 3 名
15	歴史資料	持蓮華(庚申関係資料)	1	明治 14(1881)年 8 月	座馬昭氏ほか 3 名
16	歴史資料	「庚申講供養覚帳」	1 式	明治 10(1877)～令和 6(2024)年	座馬昭氏ほか 3 名

17	歷史資料	青面金剛立像	1	紙本着色、軸装	信友自治会上組班
18	歷史資料	山之講閣連帳簿	1 式	明治 34(1901)～平成 26(2014) 年	信友自治会上組班
19	歷史資料	毘沙門天像(附:厨子)	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
20	歷史資料	富士祭典諸入費帳	1	明治 29(1896) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
21	歷史資料	富士祭礼諸記帳	1	明治 22(1889) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
22	歷史資料	青面金剛立像	1	明治 36(1903) 年、刷物力	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
23	歷史資料	山見積大調帳	1	明治 15(1882) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
24	歷史資料	「民有山林区域」	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
25	歷史資料	荒地免租年期願	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
26	歷史資料	不明(願)一括	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
27	歷史資料	実地整理協議費取調書	1	明治 19(1886) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
28	歷史資料	脱落地編入二付訂正御願	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
29	歷史資料	地価取調帳(見本)	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
30	歷史資料	地価調書関係	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
31	歷史資料	地価帳簿台帳(字上中根)	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
32	歷史資料	地口取調簿	1	明治 19(1896) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
33	歷史資料	諸入費割賦簿	1	明治 11(1878) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
34	歷史資料	村費割賦二付取調記	1	明治 12(1879) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
35	歷史資料	西金谷組歳内願届扣書	1	明治 21(1888) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
36	歷史資料	西金谷組歳内願届扣書	1	明治 20(1887) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
37	歷史資料	歳内組費賦課帳	1	昭和 6(1931) 年度	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
38	歷史資料	地券	1 式	明治 11(1878) 年、明治 19(1886) 年、明治 21(1888) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
39	歷史資料	字限総計取調帳	1	明治 11(1878) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
40	歷史資料	字限総計取調帳	1	明治 10(1888) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
41	歷史資料	切符寄附字限総計帳	1	明治 14(1881) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
42	歷史資料	烟草收穫乾上葉量御届書	1	明治 18(1885) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
43	歷史資料	烟草作付御届書	1	明治 19(1886) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
44	歷史資料	烟草作付反別并二干上葉量御届書	1	明治 22(1889) 年	金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏
45	歷史資料	改修道路作業時間表	1		金谷毘沙門天信徒代表 小森瑞生氏

46	歴史資料	道路費明細帳	1	大正 13(1924) 年度	金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
47	歴史資料	道徳講々帳	1		金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
48	歴史資料	はがき	1 式		金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
49	歴史資料	感謝状	1	大正 11(1922) 年	金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
50	歴史資料	大地震付家屋損害高調帳	1	明治 24(1891) 年	金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
51	歴史資料	賭博内紀盟約書	1	明治 14(1881) 年	金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
52	歴史資料	賭博内紀盟約書	1		金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
53	歴史資料	領収書など断簡	1		金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
54	歴史資料	毘沙門堂建築ヒ帳	1	昭和 4(1929) 年	金谷毘沙門天信徒 代表 小森瑞生氏
55	歴史資料	『岐阜県加茂郡三和村土地宝典』	1	昭和 17(1942) 年 9 月 20 日	朝日三代治氏
56	歴史資料	掛軸 画賛「夫婦像(仮題)」	1	坪内逍遙	森俊郎氏
57	歴史資料	地形図 美濃太田 英語版 縮尺五万分の一	1	GHQ 監修 昭和 26(1951) 年	森俊郎氏
58	歴史資料	書籍 岡本一平 漫画「坊ちゃん 草枕」	1	昭和 59(1984) 年復刻版	森俊郎氏
59	歴史資料	冊子「美の太田」	1	可児柊太郎・太田商工會 著 昭和 6(1931) 年	森俊郎氏
60	歴史資料	冊子 伊深温泉御案内 内湯旅館雅仙樓	1		森俊郎氏
61	歴史資料	新聞切抜「朝鮮漫畫行」岡一平(岡本一平)	1	東京朝日新聞廿五回連載(一、六欠) 昭和 2(1927) 年 8 月	森俊郎氏
62	歴史資料	リーフレット 岐阜縣加茂郡太田尋常高等小學校男女青年團聯合秋季大運動會番組	1		森俊郎氏
63	歴史資料	郵便葉書 大矢峻嶺筆 伊藤石華・三木助三郎宛	1		森俊郎氏
64	歴史資料	繪葉書 熱海雙柿舎逍遙書屋前の坪内博士夫妻	1		森俊郎氏
65	歴史資料	繪葉書 日本奥ライン古井町全景	1		森俊郎氏
66	歴史資料	繪葉書 (奥ライン) 牛ヶ鼻城跡より奥ライン一望	1		森俊郎氏
67	歴史資料	繪葉書 森山釣橋之近景	1		森俊郎氏
68	歴史資料	繪葉書 下米田青年會 水泳	1		森俊郎氏
69	歴史資料	繪葉書 加茂郡下米田村青年會旗奉戴式	1		森俊郎氏
70	歴史資料	日本八景木曾川(日本ライン) 古井青柳橋附近より下流を望む	1		森俊郎氏
71	歴史資料	繪葉書 (日本八景木曾川) 日本ライン上流 古井乗船場附近の勝景	1		森俊郎氏
72	歴史資料	繪葉書 日本奥ライン青柳橋景	1		森俊郎氏
73	歴史資料	繪葉書 飛彈川青柳橋	1		森俊郎氏
74	歴史資料	原稿 「トクガハ將軍の「政權奉還」」4の1 47 枚完	1	津田左右吉 昭和 32(1957) 年	森俊郎氏

75	歴史資料	原稿「追憶記」17 枚完	1	坪内逍遙 大正 10(1921) 年	森俊郎氏
76	歴史資料	書籍 鐵道省岐阜建設事務所「太多線建設概要」	1	昭和 3(1928)年	森俊郎氏
77	歴史資料	目録 名古屋美術倶楽部「岐阜縣東濃林福田兩家并ニ某舊家所藏品賣立」	1	年不詳 5 月	森俊郎氏
78	歴史資料	冊子「加茂郡山之上村と教化」	1	昭和 16(1941)年か	森俊郎氏
79	歴史資料	冊子「梶浦逸外「山之上村に於ける白隠禪師」	1	昭和 30(1955) 年	森俊郎氏
80	歴史資料	冊子「梶浦逸外「山之上村に於ける白隠禪師」	1	昭和 30(1955) 年	森俊郎氏
81	歴史資料	冊子 加茂郡伊深村役場「議事録原案綴」	1	昭和 16(1941)年	森俊郎氏
82	歴史資料	冊子 見学者のしおり 美濃太田機関区	1	昭和 59(1984)年 10 月	森俊郎氏
83	歴史資料	冊子 東海旅客鉄道株式会社 運転関係線路要図 高山本線 (岐阜＝猪谷線) 太多線	1	平成 2(1990)年 8 月	森俊郎氏
84	歴史資料	書籍 ゼンリン 美濃加茂市住宅地図	1	昭和 58(1983)年 9 月	森俊郎氏
85	歴史資料	綴り 岐阜日日新聞「岐阜震災新聞綴」	1	明治 24(1891)年 11～12 月(欠あり)	森俊郎氏
86	歴史資料	木曾遊園祐泉寺稻荷ノ景	1		森俊郎氏
87	歴史資料	絵葉書 (木曾川・日本ライン) ライン探勝起點太田乗船場附近	2		森俊郎氏
88	歴史資料	絵葉書 日本ライン起點 太田乗船場	1	昭和 28(1953)年	森俊郎氏
89	歴史資料	絵葉書 日本ライン下りの起點、観光客によって賑う美濃太田の乗船場	1	昭和 30 年代前半	森俊郎氏
90	歴史資料	絵葉書 日本ライン下り 太田ライン温泉ホテル乗船場 (中山道会館附)	1		森俊郎氏
91	歴史資料	坪内逍遙筆 小野誠悟(成城小学校国語教諭)あて	1	二月廿二日付	森俊郎氏
92	歴史資料	書籍「高山線建設要覧」 鐵道省岐阜建設事務所	1	昭和 9(1934)年	森俊郎氏
93	歴史資料	書籍「岐阜縣之部 電話番号簿」 名古屋郵便局	1	大正 3(1914) 年	森俊郎氏
94	歴史資料	冊子「一平画伯カルピス漫画集」	1	岡本一平	森俊郎氏
95	歴史資料	冊子 日本八景 大阪毎日新聞	1	昭和 2(1927)年	森俊郎氏
96	歴史資料	富籤 竹式千式百四番 一口掛金壹分	1	太田萬尺寺	森俊郎氏
97	歴史資料	リーフレット 空襲に對する家庭の心得	1	岐阜県	森俊郎氏
98	歴史資料	繪葉書 郡是製絲美濃工場繪はかき	4		森俊郎氏
99	歴史資料	繪葉書 郡是製絲美濃工場繪葉書	8		森俊郎氏
100	歴史資料	繪葉書 渡邊製絲場	3		森俊郎氏
101	歴史資料	新田次郎 大杉陽三氏宛て葉書	1	昭和 52(1977)年 10 月 13 日	大杉陽三氏
102	歴史資料	新田次郎 大杉陽三氏宛て葉書	1	昭和 53(1978)年 7 月 8 日	大杉陽三氏
103	歴史資料	石版石	1		糸魚川登美子氏

104	歴史資料	半原版画館 資料	1 式		糸魚川登美子氏
105	歴史資料	延喜式 九 十 神名帳上下	1		早川万年氏
106	民俗資料	ハンゴウ	1		座馬史彦氏
107	民俗資料	マツチ	1		座馬史彦氏
108	民俗資料	薬箱	1		座馬史彦氏
109	民俗資料	一斗升	1		座馬史彦氏
110	民俗資料	電気あんか	1		座馬史彦氏
111	民俗資料	石臼	1		匿名
112	民俗資料	重箱	1		渡邊峻哉氏
113	民俗資料	時計	1		渡邊峻哉氏
114	民俗資料	ケバトリキ	1		渡辺敏弘氏
115	民俗資料	カゴ	1		渡辺敏弘氏
116	民俗資料	カゴ	1		渡辺敏弘氏
117	民俗資料	カゴ	1		渡辺敏弘氏
118	民俗資料	カゴ	1		渡辺敏弘氏
119	民俗資料	カゴ	1		渡辺敏弘氏
120	民俗資料	乾湿計	1		渡辺敏弘氏
121	民俗資料	茶托	1		中島和子氏
122	民俗資料	サオバカリ	1		中島和子氏
123	民俗資料	懐中時計	1		中島和子氏
124	民俗資料	ケーボナール	1		中島和子氏
125	民俗資料	御尊影御掛軸	1	大正 3(1914)年 11 月 3 日	中島和子氏
126	民俗資料	宣戦大詔	1	明治 37(1904)年 2 月 10 日	中島和子氏
127	民俗資料	ピーステンピ	1		市立伊深小学校
128	民俗資料	門松の用紙	1		日下部達也氏
129	民俗資料	マツチ	1		梶田志郎氏
130	民俗資料	軍隊手牒	1		渡辺博人氏
131	民俗資料	軍人傷痕記章	4		渡辺博人氏
132	美術品	油彩画《初秋》	1	船坂正芳 昭和 15(1940) 年	船坂芳助氏

133	美術品	油彩画《晩秋》	1	船坂正芳 昭和 16(1941)年	船坂芳助氏
134	美術品	水彩画《早春牧場》	1	船坂正芳 昭和 28(1953)年	船坂芳助氏
135	美術品	水彩画《昼さりの工場》	1	船坂正芳 昭和 46(1971)年	船坂芳助氏
136	美術品	水彩画《雪の朝(郡上八幡)》	1	船坂正芳 昭和 60(1985)年	船坂芳助氏
137	美術品	水彩画《牧場初夏》	1	船坂正芳 昭和 58(1983)年頃	船坂芳助氏
138	美術品	水彩画《落葉に埋もれた枯木》	1	船坂正芳 平成元(1989)年	船坂芳助氏
139	美術品	水彩画 作品名不詳	1	船坂正芳 平成 3～4(1991～92)年頃	船坂芳助氏
140	美術品	掛軸《校長さんの釣》	1	岡本一平	森俊郎氏
141	美術品	掛軸《嵐山秋景》	1	大矢峻嶺	森俊郎氏
142	美術品	掛軸《羽子板美人》	1	岡本一平	森俊郎氏
143	美術品	掛軸「岡本一平印譜」	1		森俊郎氏
144	美術品	「冬暖」紙本絹装 淡彩	1	岡本一平	森俊郎氏
145	美術品	色紙「瓢箪に蜂」	1	大矢峻嶺	大杉陽三氏
146	美術品	如意輪観音像	1	円空、江戸時代、木造	中島和子氏
147	美術品	山水図	1	河合米田、明治 45(1912)年、 紙本墨画淡彩、軸装	中島和子氏
148	美術品	円空作観音像	1	円空、江戸時代、木造	福田好博氏
149	美術品	薬師如来像	1	一心、江戸時代、木造	福田好博氏
150	自然史資料	褐鉄鉾(高師小僧)	49	昭和 52(1977)年 8 月 28 日	東山熙氏
151	自然史資料	メノウ	1	令和元(2019)年 12 月 12 日	東山熙氏
152	自然史資料	メノウ	2	平成 25(2013)年 8 月 11 日	東山熙氏

□資料燻蒸

○燻蒸作業

寄贈等のあった資料は専門業者に委託して被覆燻蒸作業をおこなった。2025 年度は下記の日程で 1 回、実施した。

2026 年 3 月 3 日～3 月 5 日 目的：殺虫・殺卵 使用薬剤：ヴァイケーン

○害虫モニタリング調査と対応

(1) 2025 年 7 月 24 日～8 月 6 日

収蔵庫や展示室等をはじめとする館内 46 か所に粘着トラップを設置。別棟収蔵庫地下 1 階の民具収蔵庫で資料を加害するキクイムシと思われる害虫の捕獲を確認。

(2) 2025 年 8 月 20 日～9 月 5 日

前回のモニタリング調査でキクイムシの捕獲が確認された別棟収蔵庫地下 1 階の民具収蔵庫内 29 か所に粘着トラップを設置。キクイムシは発見されなかった。

(3) 2026 年 3 月 7 日～3 月 21 日

収蔵庫や展示室等をはじめとする館内 46 か所に粘着トラップを設置。

□整理調査及び研究

○下記のとおり、収藏品等の整理作業と美濃加茂事典の作成作業を実施し、関係資料や博物館に關係する研究活動をおこないました。

項目	内容	点数等	担当
植物標本登録整理作業	市内外で採集され所蔵している植物標本について、岐阜大学(教育学部)に委託し、登録整理作業を行った。	1,053 点	高木
吉田英敏コレクション整理作業	旧石器類について、整理及び台帳作成を行った。日本考古学協会会員・川合剛氏に依頼し、成果が報告された。「美濃加茂市北野遺跡の後期旧石器時代の石器－美濃加茂市民ミュージアム所蔵吉田英敏氏収集資料から－」『美濃加茂市民ミュージアム紀要』25 集(2026.3)	133 点	西尾
吉田英敏コレクション調査	美濃須衛窯跡群の陶製蓮華座及び須恵器碗・灰釉陶器碗については、美濃加茂市文化財保護審議委員・渡邊博人氏により調査が行われ、成果が報告された。「美濃須衛窯跡群の平安時代陶製蓮華座及び須恵器碗・灰釉陶器碗－美濃加茂市民ミュージアム所蔵吉田英敏氏収集資料より－」『美濃加茂市民ミュージアム紀要』25 集(2026.3)	5 点	西尾
尾崎遺跡出土資料調査	未報告分に関する追加調査として、山茶碗小皿に関して調査した。日本考古学協会会員・磯谷祐子氏に依頼し、成果が報告された。「尾崎遺跡出土の山茶碗小皿」『美濃加茂市民ミュージアム紀要』25 集(2026.3)	41 点	西尾
古文書及び歴史資料整理作業	館蔵の太田宿本陣資料について愛知大学・神谷智氏に依頼し、調査及び仮整理作業を行った。	1 点	可児 藤島

□外部でおこなった発表・報告など

【著作等】

氏名	年月日	原稿・テーマ	掲載雑誌・刊行物など	出版社など
可児光生	2025.5.14	「地域のデータベースとデジタル地域資源」	『ライブラリー・リソース・ガイド』(LRG) 第 51 号	ライブラリー・リソース・ガイド
可児光生	2025.12.21	「展示の奥の「人」に心寄せて」	『中日新聞(朝刊) 地域と歩む博物館 上』	中日新聞社
可児光生	2025.12.25	本文+「はじめに」「博物館で行われていること」	『47 都道府県美術館百科』	丸善出版
可児光生	2025.12.28	「人のよりどころ 保存と発信」	『中日新聞(朝刊) 地域と歩む博物館 下』	中日新聞社
可児光生	2026.2.22	「気づきを積み重ねること ～館蔵資料そのものを活かしながら～」	「博物館でおこなわれるワークショップの実践知の共有をめざして」報告書	ワークショップ評価研究会(大阪自然史博物館)
可児光生	2026.3.25	「第 3 章 現代日本の博物館」	『博物館概論』	講談社
可児光生	2026.3.31	「可児市戦国山城ミュージアム～兼山のまち・金山城跡めぐり～」	『岐阜の博物館 NEWS LETTER』No.198	岐阜県博物館協会
可児光生	2026.3.31	「博物館法改正と地域博物館のこれから～美濃加茂市民ミュージアムの活動から～」	『地域志向学研究』2026 VOL.10	岐阜大学 地域連携推進本部 地域協学センター

和歌由花	2026.3.28	「企画展「津田左右吉と藝術―心を寄せた美術・音楽・演劇の世界」調査報告(後編)」	『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第25集	美濃加茂市民ミュージアム
和歌由花	2026.3.31	「中濃ブロック部会 交流会・座談会「資料保存について情報交換してみませんか？」	『岐阜の博物館 NEWS LETTER』No.198	岐阜県博物館協会
岩屋孝志	2026.3.28	「美濃加茂市の戦争記念碑―その概要と変遷―	『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第25集	美濃加茂市民ミュージアム
岩屋孝志	2026.3.31	「岐阜県博物館協会共催イベント 特別講演「濃尾崩れから考える江戸時代のキリシタン禁制」	『岐阜の博物館 NEWS LETTER』No.198	岐阜県博物館協会
西尾円	2026.3.28	「資料紹介 近代の博覧会と加茂郡の動向(前編)」	『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第25集	美濃加茂市民ミュージアム

【発表】

氏名	年月日	発表テーマ	催事名など	会場など
可児光生	2025.7.13	「歴史遺産の「発見」・保存・活用―歴史をめぐる対話・結いの場を目指して―	近現代史研究会 コメント	名古屋大学
可児光生	2025.12.6	「博物館法改正と地域博物館のこれから～美濃加茂市民ミュージアムの活動から～」	岐阜大学公開講座「大学と博物館の協働による地域づくりの可能性」	岐阜大学
可児光生	2026.2.13	「博物館新登録制度に関して 岐阜県の事例」	日本博物館協会 博物館新登録制度推進フォーラム	zoom オンライン
可児光生	2026.2.15	「美術館・博物館ってナンヤローネ？」	岐阜県美術館 コレクションダイアログ×クロストーク	岐阜県美術館
可児光生	2026.2.20	「地域博物館のこれから～美濃加茂市民ミュージアムの活動から～」	長野県博物館協議会 研修会	長野県立歴史館
和歌由花	2025.12.9	中濃ブロック部会 交流会・座談会「資料保存について情報交換してみませんか？」	中濃ブロック部会 交流会・座談会	美濃加茂市民ミュージアム
岩屋孝志	2026.1.24	「濃尾の潜伏キリシタンとその祈り」	ふるさと学サロン扶桑・扶桑の福祉を考える会・扶桑町教育委員会生涯学習課 主催イベント	川田家住宅(愛知県扶桑町)
岩屋孝志	2026.2.8	「播隆上人の名号が刻まれた播隆名号碑をたずねて」	下米田まちづくり協議会主催「ぶらよねだ」	下米田町内
岩屋孝志	2026.3.8	「白隠禅師が修行した岩滝山に登ろう！」	山之上町中之番自治会 山歩きイベント	岩滝山(山之上町)
藤島夢花	2025.6.14	「太田宿に泊まった和宮 ―太田宿本陣資料を中心に―	令和7年度 皇女和宮史跡保存会講演会	大垣市スイトピアセンター 学習館
藤島夢花	2025.6.21	「子どもの時のおもひで～津田左右吉博士ゆかりの地巡り～」	下米田まちづくり協議会主催「ぶらよねだ」	下米田町内
藤島夢花	2025.8.24	「美濃加茂地域文化資源のある暮らし」	Z世代がみつけた戦争	加茂野交流センター 集会室
藤島夢花	2025.10.17	「町たんけん 津田左右吉博士記念館」	下米田小学校2年生 授業	津田左右吉博士記念館

【委員等】

氏名	期間	役職名など	所属団体名など
可児光生	2021～	犬山市史編さん委員専門部会委員	犬山市教育委員会
可児光生	2023～	博物館新登録制度申請に伴うアドバイザーボード委員	公益財団法人日本博物館協会
可児光生	2023～	愛知県陶磁美術館運営会議委員	愛知県陶磁美術館
可児光生	2023～	一宮市博物館運営委員会委員	一宮市博物館
可児光生	2024～	岐阜県博物館協会 会長	岐阜県博物館協会
可児光生	2024～	恵那市歴史資料館整備検討委員会委員	恵那市教育委員会
和歌由花	2017～	岐阜県博物館協会 ひと部会副部長	岐阜県博物館協会
岩屋孝志	2023～	岐阜県博物館協会 こと部会委員	岐阜県博物館協会
藤島夢花	2023～	岐阜県博物館協会 ひと部会委員	岐阜県博物館協会
西尾円	2025～	岐阜県博物館協会 こと部会副部長	岐阜県博物館協会
西尾円	2025～	日本博物館協会 100 周年記念誌企画編集委員会編集委員	公益財団法人日本博物館協会

□連携

○各地区まちづくり協議会

行政と地域との協働を目的に、地域の特性を活かして市内各地区で設立されている「まちづくり協議会」と連携し、同協議会が行う展示のサポートや現地ツアー等の講師を学芸員が行いました。

期日	内容（企画名）	関係団体	開催場所
2025 年 4 月 下旬～5.25	佐野一彦がみつめた伊深―昭和 30～40 年代―	伊深まちづくり協議会	伊深交流センター
2025.6.21	「子どもの時のおもひで～津田左右吉博士ゆかりの地巡り～」	下米田まちづくり協議会	下米田町内
2026.2.8	「播隆上人の名号が刻まれた播隆名号碑をたずねて」	下米田まちづくり協議会	下米田町内
2026.3.8	「白隠禅師が修行した岩滝山に登ろう！」	山之上まちづくり協議会	山之上町

伊深まちづくり協議会＋みのかも文化の森

「みのかも地域文化資源のある暮らしー「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まるー」の会期中、伊深交流センター内の「ギャラリー伊深」では、伊深まちづくり協議会と文化の森との協働事業として「佐野一彦がみつめた伊深―昭和 30～40 年代―」展を開催しました。

写真に記録された当時の暮らしや風景を通して地域の記憶を共有し、身近な暮らしの中に息づく地域文化資源の価値を見つめ直す機会となりました。



「ギャラリー伊深」での展示

関連資料(配布物など)



パンフレット「子どもの時のおもひで～津田左右吉博士ゆかりの地めぐり～」



パンフレット「播隆上人の名号が刻まれた播隆名号碑を訪ねて」

□ミュージアムレファレンスの結果

研究、調査などを目的として利用者が求める情報及びそれに関する調査方法などを回答、提供するもの。2025年度の主なものは次のとおり。

区分	自然	考古	歴史・民俗	美術	その他	計
件数	7	0	12	0	1	20

□夏休み中学生ボランティア

博物館事業におけるボランティア活動を通して、中学生が社会奉仕や勤労への関心を深める機会としてボランティアを募集した。2025年度実績は次のとおり。

日程	7月30日	8月6日	8月7日	8月20日	8月21日	実人数
人数(人)	9	16	17	9	11	25

□博物館実習

博物館学芸員資格取得科目としての博物館実習を令和7年7月29日（火）～8月2日（土）に実施しました。実習生は、愛知学院大学（1名）、愛知県立大学（1名）、岐阜女子大学（2名）、静岡県文化芸術大学（1名）、信州大学（1名）、中京大学（1名）、中部大学（3名）、名城大学（1名）、八洲学園大学（1名）の12名。

日程	時 限	内 容	場 所	形態	備考	担当
7/29 （火）	1	オリエンテーション 館内見学	館内・外			可児 高木
	2	博物館の理念と事業	研修室	講義	文化の森の理念と事業	可児
	3	展覧会の企画と運営	研修室、企 画展示室	講義・実習	企画展の準備～開催（調査研究 含む）	岩屋
	4	子どもたちと博物館①	研修室	講義	博物館を活用しての学習活動	高木
7/30 （水）	1	子どもたちと博物館②	館内	講義・実習	休日の子ども向け講座、「文化 の森で夏遊び」のスタッフ参加	高木 学習
	2					
	3	行政としての博物館	研修室 市内	講義・見学	公立博物館としての理念とビジ ョン（文化財活用計画）につい て、顕彰会、声のドラマの会の 活動、市内の文化財巡り	日下部
	4	市民活動と博物館 市内の文化財ツアー				
7/31 （木）	1	博物館資料の取り扱い①	研修室 収蔵庫1	実習	歴史資料の取扱	岩屋
	2					
	3	博物館資料の取り扱い②	別棟収蔵庫 1F	講義・実習	歴史資料の管理・整理作業（古 文書等）	岩屋 藤島
	4					
8/1 （金）	1	博物館資料の取り扱い③	まゆの家	講義・実習	民俗分野 「夏を染める」講座準備	藤島
	2					
	3	博物館資料の取り扱い④	研修室	講義・実習	自然史分野の標本を用いた実習	高木
	4					
8/2 （土）	1	博物館資料の取り扱い⑤	収蔵庫1	講義・実習	収蔵庫の管理・整理作業	和歌
	2					
	3	博物館資料の取り扱い⑥	研修室	講義・実習	収蔵資料の保存、IPM、利用者の 安全とリスク	和歌
	4	まとめ	研修室	講義	実習期間を通しての振り返り	高木

□刊行物等

名 称	価 格	発行年月	判型	頁数
みのかも地域文化資源のある暮らし	¥1,000	2025 年 6 月	A4	44
美濃のキリシタン ―秘められた祈りの証し―	¥600	2025 年 7 月	A4	24
みのかも文化の森 年報 Vol. 25	—	2025 年 9 月	A4	84
柄澤健介<橋を渡す>	¥400	2026 年 2 月	A4	16
美濃加茂市民ミュージアム紀要第 25 集	¥500	2026 年 3 月	A4	80
活用の手引き・活用実践集 2025 年度版	—	2026 年 3 月	A4	148

□収蔵資料の公開と活用

① 文化の森収蔵資料のホームページにおける公開状況

(単位: 件)

	歴史	民俗	図書	美術	歴史写真	広報写真	植物	動物	考古	合計
2025 年度	21,460	7,457	32,140	2,314	1,568	516	5,237	4,893	3,677	79,262
2024 年度	21,215	7,457	31,400	2,283	1,568	516	5,237	4,884	3,677	78,237
比 較	245	0	740	31	0	0	0	9	0	1,025

② 収蔵資料の貸し出し、閲覧状況

	自然史	考古	歴史	民俗	美術	写真	図書	その他	合計
件数	0	7	10	1	2	4	2	1	27
点数	0	28	193	88	9	18	2	3	341

(領域をまたがるものについてはそれぞれ件数をカウントしています)

<利用件数の内訳>

利用形態	閲覧	複写・撮影	貸出 ※	データ使用	合計
	3	12	1	8	24

利用目的	調査研究	展示	掲載・放映	その他	合計
	15	2	4	3	24

※貸し出し資料(展示)

- ・円空作木造馬頭観音菩薩立蔵 (個人蔵 美濃加茂市民ミュージアム寄託)
- ・円空作木造薬師三尊像〔薬師如来・月光菩薩・日光菩薩〕(美濃加茂市民ミュージアム蔵)

展覧会名: 「円空展－330 年の祈り」

会 場: ①美術館「えき」KYOTO(京都府京都市下京区東塩小路 JR 京都伊勢丹 7 階隣接)

会 期: 令和 7 年 8 月 30 日(土)～10 月 6 日(月)

②奥田元宋・小由女美術館(広島県三次市東酒屋松 10453 番地 6)

会 期: 令和 7 年 11 月 13 日(木)～令和 8 年 1 月 13 日(火)

利用者区分	市内	県内	県外	合計
	6	7	10	23

□報道関係に掲載・紹介された状況

(単位: 件)

	新 聞	雑誌等	テレビ	ラジオ	その他	合計
展覧会	24	61	1	1	13	100
講座	3	13	1	0	8	25
イベント	9	9	2	0	5	25
その他	11	24	1	0	2	38
合計	47	107	5	1	28	188

施設の利用状況

文化の森施設の利用状況

□文化の森利用者数

(単位：人)

	常設展	企画展	学校活用	講座 イベント等	市民活動	貸館	教育 センター等	視察	その他	合計
4月	805	328	157	101	99	1,054	120	0	266	2,930
5月	1,229	1,030	717	197	197	1,437	175	2	498	5,482
6月	1,376	0	626	134	307	2,340	185	0	497	5,465
7月	1,138	1,115	220	221	145	2,287	169	0	530	5,825
8月	1,577	1,818	41	574	179	1,202	46	0	544	5,981
9月	1,901	502	444	128	97	3,881	141	0	709	7,803
10月	912	719	999	123	193	1,147	186	0	428	4,707
11月	1,364	1,822	659	477	415	1,613	92	0	644	7,086
12月	1,444	0	743	229	320	2,932	92	0	576	6,336
1月	618	559	455	151	92	689	124	0	269	2,957
2月	723	918	538	85	193	1,203	225	0	389	4,274
3月	937	890	208	154	114	708	95	0	311	3,417
合計	14,024	9,701	5,807	2,574	2,351	20,493	1,650	2	5,661	62,263
前年度	13,985	8,855	5,417	3,090	749	25,060	2,123	36	5,932	65,247

□市民の展示活動等

番号	名称	団体名	日付	会場	入場者
1	美濃加茂市美術連盟展	美濃加茂市美術連盟	6月7日～6月15日	市民ギャラリー	719
2	絵歩里サークル作品展	絵歩里サークル	6月18日～6月22日	市民ギャラリー	276
3	牧水会作品展	牧水会	6月26日～6月29日	市民ギャラリー	124
4	銅版画サークルブリッツ作品展	銅版画サークルブリッツ	6月26日～6月29日	市民ギャラリー	139
5	美濃加茂市健寿連合会作品展	美濃加茂市健寿連合会	2月17日～2月23日	展示ホール	不明

□津田左右吉博士記念館利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2025年度	6	16	31	8	6	7	22	21	30	37	8	38	230
2024年度	23	25	34	16	14	24	25	24	19	40	25	55	324
前年度比較	△17	△9	△3	△8	△8	△17	△3	△3	11	△3	△17	△17	△94

□旧太田脇本陣隠居家見学者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2025年度	512	655	333	308	367	332	585	699	285	260	433	721	5,490
2024年度	967	559	394	227	277	450	691	603	332	278	396	574	5,748
前年度比較	△455	96	△61	81	90	△118	△106	96	△47	△18	37	147	△258

組織・構成・その他

□ 職員

みのかも文化の森所長 1人（兼務：美濃加茂市市民協働部文化振興課長）
美濃加茂市民ミュージアム館長 1人
総務係 5人
学芸学習係 13人

計 20 人（正規職員 6 人、会計年度任用職員 14 人） 内学芸員有資格者 7 人

□ 各種委員

- ・みのかも文化の森運営協議会 8人
- ・市民ミュージアム専門委員 5人
- ・文化の森活用委員会 14人

□ 令和 7 年度 第 1 回みのかも文化の森運営協議会

日時 2025 年 12 月 20 日(土)午前 10 時～11 時

会場 アトリエ棟 会議室

出席者 西尾会長外 5 委員

【内容】

令和 6 年度及び 7 年度の施設運営と企画展についての説明を行いました。

【意見等】

- ・企画展「美濃のキリシタン」は、この地域のキリスト教について、初めて光をあてたものであり、価値ある展示であった。
- ・寄贈のあった糸魚川コレクション（石版画）は、文化の森の特徴的なコレクションになるだろう。
- ・文化の森での学習活動は、学校ではできない勉強や活動ができることから素晴らしい経験となる。

□ ボランティア活動（複数登録しているボランティアは、代表分野に登録者数としてカウント）

分 野	登録者数	主 な 活 動 内 容
展示・資料ボランティア	25 人	地域の調査・ミニ展示、収蔵資料の整理などを行う
アートボランティア	21 人	展示会関連企画や講座のサポートなどを行う
生活体験ボランティア	35 人	生活体験館で昔の遊びや暮らし体験などを行う
学習支援ボランティア	13 人	学校活用での子どもたちの指導や支援などを行う
伝承料理ボランティア	31 人	四季を食べる講座の開催や伝統的な食べ物の記録などを行う
イベント・森ボランティア	33 人	イベントのサポート、森の整備などの環境活動を行う
合 計	158 人	

□ かるちすくらぶ

みのかも「かるちすくらぶ」は、みのかも文化の森（美濃加茂市民ミュージアム）と美濃加茂市文化会館「かも〜る」の共通の友の会。

会費 1,200 円

会員 2026 年 3 月時点 25 名

特典

- ・美濃加茂市民ミュージアム全ての企画展観覧料が無料
- ・美濃加茂市民ミュージアム企画展の事前内覧会にご招待
- ・みのかも文化の森喫茶室のドリンク券をプレゼント
- ・スタンプカードのスタンプが6個たまったら、ドリンク券をもう1枚サービス
- ・文化会館の自主事業入場料の割引（1割程度）、指定席券先行予約
- ・「ミュージアムニュース」、「かも〜る通信」の送付（年4回）

□ 市民団体の活動

【坪内逍遙博士顕彰会】

美濃加茂市出身で、明治・大正・昭和の文壇を代表する劇作家・評論家・教育者である坪内逍遙の功績を顕彰するとともに、郷土文化の発展に寄与することを目的として、昭和31年（1956年）に発足しました。

主な活動として、逍遙の生誕日や命日にあわせた「生誕祭」や「しのぶ会」の開催をはじめ、逍遙顕彰碑が建つ逍遙公園の清掃活動、坪内逍遙にゆかりのある演劇や文化事業への協力などを行っています。

これらの活動を通じて、坪内逍遙の功績や精神を次世代へ伝え、地域文化の振興に努めています。

【津田左右吉博士顕彰会】

左右吉が生まれた下米田地区の有志によって、昭和59年（1984年）2月に発足した会です。津田左右吉生家脇に「津田左右吉博士生誕之地」記念碑の建立をはじめ、市立中央図書館前に「知の積層」記念碑建立、下米田小学校への「津田博士胸像」建立など、津田左右吉博士の顕彰活動を行っています。

また、毎年子どもたちの「ゆめ」をテーマとした「津田左右吉賞作文コンクール」を小中学生に対して行っています。

【美濃加茂自然史研究会】

この地域の鉱物・岩石、植物、哺乳類・鳥類・昆虫などの動物等、自然界にかかわる事柄について調査研究するために集まったメンバーで構成されています。美濃加茂市から委託を受け、自然史資料の調査、収集をしています。

また、美濃加茂市と周辺加茂郡の自然環境や動植物の生態に関し、継続的な調査を行っています。

【みのかも「声のドラマ」の会】

美濃加茂は「朗読」を一つの芸術として位置付けた坪内逍遙の生誕地です。「正しい日本語」「美しい日本語」を学び、朗読を通し地域の文化の発展につながっていくことを目指して、平成11年（1999年）に発足した会です。例年、みのかも文化の森を会場に朗読講座を開催し、その受講生の発表の場として「朗読フェスティバル」を行っています。

そのほか毎月第3土曜日の午後、「森の朗読会」を開催しています。また、展覧会の関連事業で朗読を実施したり、授業で来館する小学生に朗読指導や読み聞かせを行ったりしています。

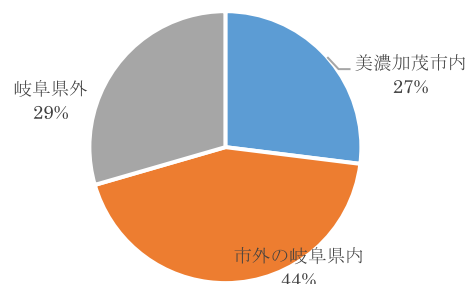
平成29年度（2017年度）から、地域のコミュニティFM局「FMらら」にて朗読番組を担当しており、地域ゆかりの作家の作品や広報紙の連載などを会員が分担して朗読しています。なお、過去の放送回や森の朗読会の発表作品は、ホームページで紹介しています。

森のアンケート 集計

この集計は「みのかも地域文化資源のある暮らし 展」、「美濃のキリシタン―秘められた祈りの証し― 展」、「明治之花 石版画百景―半原版画館コレクションから―」、「ていねいな暮らしと道具展―伝えたい地域の食と豊かさ―」、「収蔵品展 蚕とまゆ展―美濃加茂 養蚕の舞台裏―」の来場者によるアンケート結果をまとめたものです。

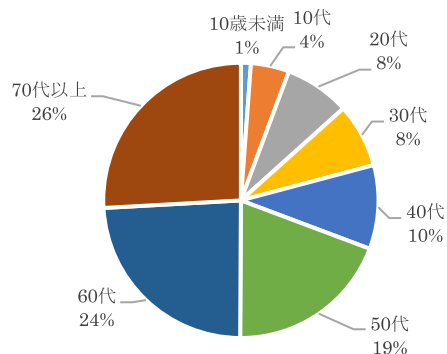
どちらからお越しですか？（人）

美濃加茂市内	161
市外の岐阜県内	260
岐阜県外	176
計	597



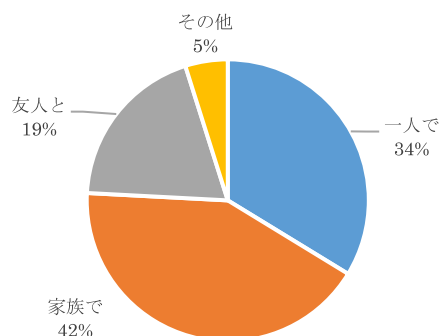
あなたの年齢は？（人）

10歳未満	7
10代	27
20代	46
30代	45
40代	59
50代	116
60代	144
70代以上	155
計	599



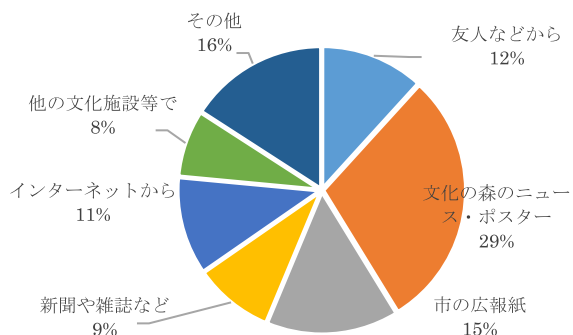
どなたとご来館されましたか？（人）

一人で	201
家族で	251
友人と	115
その他	29
計	596



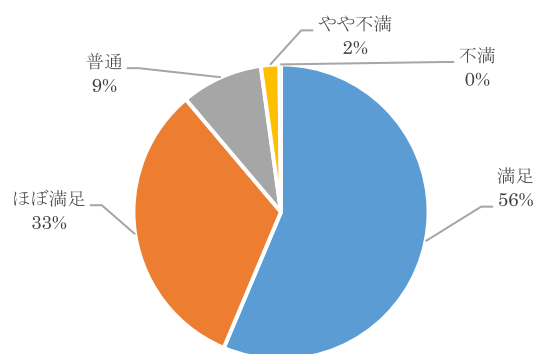
企画展を何でお知りになりましたか？（人）

友人などから	172
文化の森のニュース、ポスター	112
市の広報紙	55
新聞や雑誌など	35
インターネットから	101
他の文化施設等で	39
その他	133
（複数回答あり）	計 647



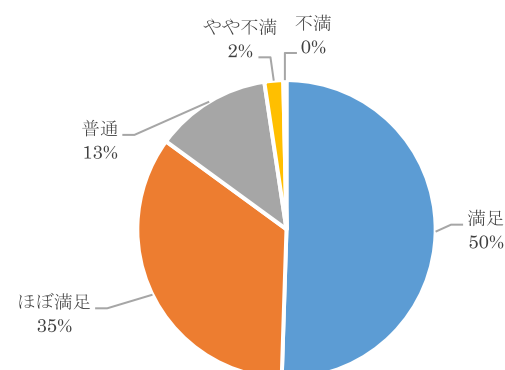
展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足いただけましたか？（人）

満足	333
ほぼ満足	192
普通	53
やや不満	12
不満	1
計	591



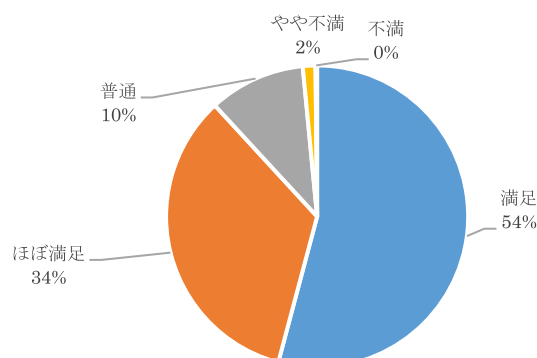
展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足いただけましたか？（人）

満足	297
ほぼ満足	203
普通	74
やや不満	12
不満	2
計	588



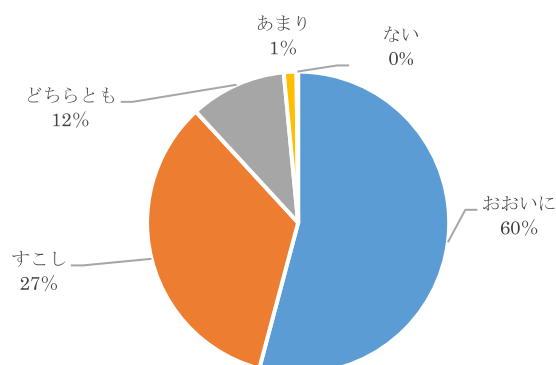
資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？（人）

満足	320
ほぼ満足	201
普通	61
やや不満	8
不満	1
計	591



この展示を他の人に伝え、来館を勧めますか？（人）

おおいに	348
すこし	159
どちらとも	71
あまり	6
ない	2
計	586



※円グラフについて、1%以上の数値のみ掲載しています。

施設概要・利用案内

□施設概要

名 称：みのかも文化の森

所 在 地：美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 番地 1

森の面積：約 9 ヘクタール

建築概要：本体施設 「ミュージアム」と「教育センター」との複合施設

R C 造、一部鉄骨・木造、地上 3 階、地下 1 階建

常設展示室(451.71 m²)、美術工芸展示室(150.08 m²)

市民ギャラリー(204.00 m²)

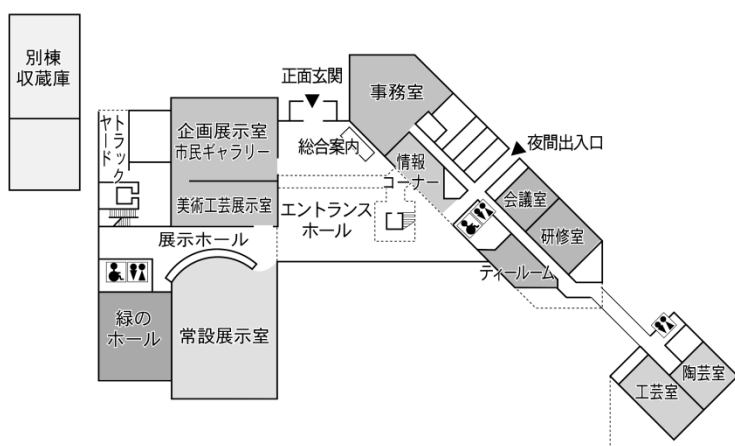
延床面積 5,879.21 m²

付帯施設 生活体験館 (211 m²)、民具展示館 (201 m²)、アトリエ棟 (158 m²)

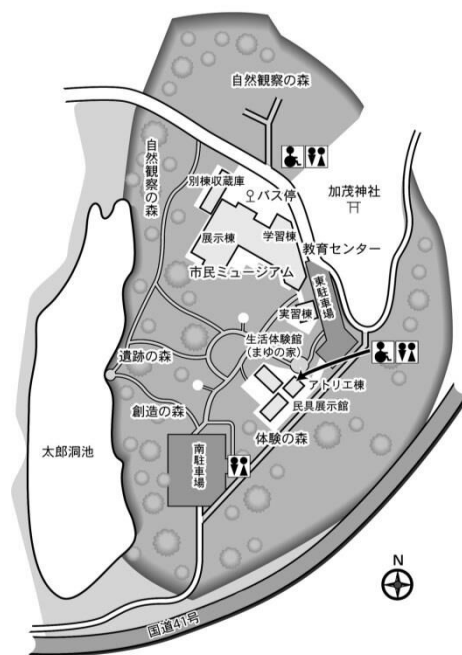
屋外トイレ…2 カ所 休憩小屋…2 カ所

駐 車 場 169 台 (南駐車場 110 台、東駐車場 54 台、北駐車場 5 台)

■本館平面図



■フィールドマップ



開館時間 市民ミュージアムの開館時間 午前 9 時～午後 5 時

休 館 日 月曜日 (ただし、祝日の場合は開館し直後の平日が休館日となります)
年末年始 (12 月 29 日から翌年 1 月 3 日)

交 通 あい愛バス JR 美濃太田駅北口から約 10 分
時刻表など詳しくは、あい愛バスのホームページ参照
<https://aiai-bus.com/>
鉄 道 JR 名古屋駅から美濃太田駅まで特急で約 40 分
美濃太田駅北口から徒歩約 17 分
自 動 車 東海環状自動車道美濃加茂 I C から約 5 分
名神高速小牧 I C から約 35 分

□施設の使用時間及び使用申請の受付

- ・使用時間は、午前8時30分から午後10時までです。（一部施設を除きます）
- ・使用申請の受付は、使用される3ヶ月前にかかる月の初日から3日前までにお申し込みください。ただし、市民ギャラリー、エントランスホール、展示ホールについては、使用される6ヶ月前にかかる月の初日から15日前までに、緑のホールについては、使用される6ヶ月前にかかる月の初日から3日前までにお申し込みください。
- ・受付時間は、午前8時30分から午後5時までです。ただし、休館日は受付いたしません。

□施設使用料

(1) 研修室等

施設 \ 使用時間	8:30 ～12:30	13:00 ～17:00	17:30 ～22:00	8:30 ～22:00	延長 1時間につき
研 修 室	2,400 円	2,400 円	2,600 円	7,400 円	800 円
会 議 室	1,200 円	1,200 円	1,400 円	3,800 円	400 円
工 芸 室	2,000 円	2,000 円	2,200 円	6,200 円	600 円
陶 芸 室	1,200 円	1,200 円	1,400 円	3,800 円	400 円
緑 の ホール	5,400 円	5,400 円	6,200 円	17,000 円	1,600 円

※令和3年11月26日から「地域・防災情報室」に模様替えしたため、施設使用（貸館）を廃止。

(2) 市民ギャラリー等

施設	使用単位	基本使用 1日（8:30～17:00）	基本使用以外 1時間につき
市 民 ギ ャ ラ リー	全面～100 m ² 超	12,000 円	1,600 円
	100 m ² 以下～50 m ² 超	5,800 円	800 円
	50 m ² 以下	2,800 円	400 円
エントランスホール	全面～200 m ² 超	17,000 円	2,200 円
	200 m ² 以下～100 m ² 超	11,000 円	1,600 円
	100 m ² 以下	5,800 円	800 円
展 示 ホール	全面～80 m ² 超	9,000 円	1,200 円
	80 m ² 以下	4,600 円	600 円

(3) 宿泊アトリエ棟等

施設 \ 使用時間	8:30 ～12:30	13:00 ～17:00	17:30 ～22:00	8:30 ～22:00	延 長 1時間につき
アトリエ棟2階（アトリエ）	1,000 円	1,000 円	1,200 円	3,200 円	400 円
アトリエ棟2階（全室）※	2,200 円	2,200 円	2,600 円	7,000 円	600 円
アトリエ棟調理室	800 円	800 円	1,000 円	2,600 円	400 円
生活体験館（全面）	2,200 円	2,200 円	2,600 円	7,000 円	600 円
生活体験館（部分使用）	1,200 円	1,200 円	1,400 円	3,800 円	400 円

※ アトリエ棟2階を午後10時から午前8時30分まで使用する場合は、3,600円が加算されます。

※ 使用者が使用するに当たり、参加者から入場料等を1人につき、500円を超える金額を徴収する場合は、本表に定める額の100%に相当する額を加算してお支払いいただきます。また、自らの営利につながる内容で施設を使用する場合においても、本表に定める額の100%に相当する額を加算してお支払いいただきます。

※付属設備、及び、備品の使用料は、別途お支払いいただきます。

みのかも文化の森のこれまで

1983 年 3 月	美濃加茂市郷土資料館建設基金条例の制定。	1998 年 10 月	「ミュージアム自由自在」講座開催。(3 回、～11 月)
1986 年 8 月	美濃加茂市史料調査協力員(10 名)を設置。	1999 年 1 月	ホームページ上に、「今週の文化の森」として、工事の進捗状況、準備状況を報告、公開。
1988 年 8 月	(仮称)美濃加茂市郷土資料館建設調査委員会(17 名)を設置。	1999 年 1 月	市職員による「文化の森運営検討ワーキング」開催。(2 回)
1989 年 3 月	第 3 次総合計画において「文化の森」「郷土資料館」の建設が位置づけられる。	1999 年 1 月	美濃加茂市自然史研究会が発足。自然調査活動をすすめる。
1989 年 3 月	美濃加茂市美術品等収集基金条例の制定。	1999 年 3 月	(仮)文化の森付帯施設工事実施設計。
1989 年 8 月	(仮)美濃加茂市郷土資料館基本構想の提言(調査委員会を合計 8 回開催理念、目的、性格のほか立地場所、名称などについて提言を受ける。以後専門委員会において具体的検討を進める。)	1999 年 3 月	リーフレット「文化の森もうすぐうまれます」発行。
1989 年 8 月	(仮)文化の森予定地域の植生調査。(1 次)	1999 年 3 月	『みのかも文化の森活用の手引き』第 1 集発行。
1990 年 3 月	(仮)文化の森整備基本構想を策定。(セントラルコンサルタント(株))	1999 年 8 月	(仮)文化の森付帯施設工事着工。
1990 年 4 月	社会教育課に博物館建設係を設置。	2000 年 3 月	設置管理条例(名称を「みのかも文化の森」「美濃加茂市民ミュージアム」「美濃加茂市教育センター」とする。)制定。
1990 年 5 月	(仮)文化の森構想の地元説明会開催。	2000 年 3 月	工事完了。(本体建築、電気、管空調、展示、付帯施設)
1991 年 3 月	郷土博物館展示基本計画を策定(専門委員会を合計 15 回開催。ほか随時専門委員の指導を得る。(株)日展)	2000 年 3 月	『みのかも文化の森活用の手引き』第 2 集発行
1991 年 7 月	空中写真測量実施。	2000 年 5 月	文化の森ボランティアを募集。
1992 年 3 月	(仮)文化の森基本計画策定。	2000 年 9 月	コンピュータ機器の設置。
1992 年 4 月	中央公民館内に美濃加茂市教育センターを開設。	2000 年 10 月	竣工式およびオープニングイベント。
1992 年 9 月	地権者との間で「土地賃貸借契約」「物件移転補償契約」を締結。		美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅰ「芸術と自然ー若林奮・大久保英治・山口啓介 美濃加茂自然環境会議 2000」を開催。
1992 年 10 月	(仮)文化の森予定地の埋蔵文化財試掘調査。(～11 月(北部を除き、ほぼ全域で遺物包含層を確認))		野外劇「真夏の夜の夢」(シェイクスピア作、坪内逍遙訳)を上演。
1992 年 10 月	(仮)文化の森予定地の樹木調査。(樹種と分布状況を調査)	2000 年 11 月	市民参加の演劇を以降毎年開催。
1993 年 3 月	(仮)文化の森(全体)基本設計。		第 1 回「まゆの家まつり」を、文化の森のボランティアが実行委員会を結成して開催。以降毎年開催。
1993 年 12 月	(仮)文化の森予定地域の植生調査。(2 次)	2000 年 11 月	第 45 回美濃加茂市美術展を開催。
1994 年 3 月	(仮)文化の森(全体)実施設計。	2001 年 2 月	美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅳ「親子の対話 岡本一平・岡本太郎展」を開催。
1994 年 4 月	埋蔵文化財(尾崎遺跡)発掘調査開始。	2001 年 4 月	第 1 回「春・朗読の一日」が市民による実行委員会により開催される。以降毎年開催。
1994 年 11 月	博物館・教育センターの複合施設計画の立案。	2001 年 5 月	第 1 回森のコンサート「ホルン五重奏」を開催。以降毎年数回、森のコンサートを開催。
1995 年 4 月	「文化課」が新設され、文化の森準備が充実する。	2001 年 9 月	「文字の登場、そして広まりー古代中世の人と文字をめぐるー展」を開催。
1995 年 6 月	(仮)文化の森自然環境影響評価調査(平成 6 年 7 月～)(植生、動物、景観、文化財、水質他)	2001 年 11 月	第 46 回美濃加茂市美術展を開催。
1995 年 8 月	第 8 回彫刻シンポジウムを文化の森内で開催。現地制作を行い、1 基を仮設置する。以後、3 基設置する。	2001 年 12 月	第 1 回アートボランティアビデオ上映会「議事堂を梱包する」が開催される。以降ゴールデンアート劇場として毎年開催。
1996 年 3 月	博物館・教育センター複合施設((仮)「文化の森プラザ」)設計の予算化。	2001 年 12 月	生活体験館東に体験工房(染色)が完成する。
1996 年 4 月	博物館部門別展示検討委員会開催、以後 7 回開催。(自然史、考古、歴史民俗、美術工芸)	2002 年 1 月	「暮ラシカル道具展」02 を開催。以降毎年開催。
1996 年 6 月	文化の森構想教育センター部会開催。(以後 8 回開催)	2002 年 2 月	「川崎小虎展～暖かみあふれる自然の詩情～」を開催。
1996 年 7 月	(仮)文化の森整備検討委員会(13 名)開催。(以後 3 回開催)。(市として「施設の位置づけ」「森の学校」などを提示し、それを受け具体的検討をすすめる。)	2002 年 3 月	『美濃加茂市民ミュージアム紀要』第 1 集を発行。以降、毎年発行。
1996 年 11 月	(仮)文化の森市民懇話会の開催。(以後、市長と語る会を含め 4 回開催)	2002 年 4 月	従来まで文化の森所管であった美濃加茂市教育センターが学校教育課所管となる。
1996 年 12 月	(仮)文化の森プラザ地質調査。	2002 年 6 月	「気持ちの宝物 椎名誠写真展」を開催。
1997 年 3 月	(仮)文化の森プラザ建築基本設計。	2002 年 6 月	「蚕とまゆ展」02 が開催される。以降毎年開催。
1997 年 3 月	(仮)文化の森プラザ展示基本設計。(株式会社日展名古屋支店)	2002 年 7 月	「発掘された尾崎遺跡ーこの地に人が残したものの一展」を開催。
1997 年 7 月	(仮)文化の森ニュース第 1 号発行。(10 号まで、平成 11 年 11 月)	2002 年 9 月	「ミノ」「カモ」の古代ー御野国戸籍から 1300 年ー展」を開催。
1997 年 10 月	「市民のための博物館」講座開催。(4 回、～11 月)	2002 年 9 月	「太田三郎展」を開催。
1998 年 3 月	(仮)文化の森プラザ実施設計。	2002 年 10 月	常設展示室の入場者が 10 万人を超える。
1998 年 5 月	(仮)文化の森ボランティアが発足、会員 11 名で、主に歴史民俗の資料調査に活動をはじめる。	2002 年 11 月	伝承料理の会により『おばあちゃんちのおかって』(第 1 集)を発刊。
1998 年 6 月	(仮)文化の森プラザ新築工事契約。	2002 年 11 月	第 47 回美濃加茂市美術展を開催。
1998 年 7 月	(仮)文化の森プラザ起工式。(7 月 15 日)	2003 年 12 月	好評につき『おばあちゃんちのおかって』第 2 集を発刊。
1998 年 9 月	(仮)文化の森プラザ展示工事契約。	2003 年 2 月	「色と形と冒険ー坂井範一とゆかりの作家展」を開催。

2003 年 4 月	「土に残る記憶Ⅰ-旧石器と縄文- 展」を開催。	2010 年 4 月	「水辺の時間 内山りゅう写真展」を開催。
2003 年 7 月	「美濃加茂にサイヤゾウがいた頃展」を開催。	2010 年 7 月	「川のほとりで-木曾川流域の考古と歴史から-展」を開催。
2003 年 11 月	第 48 回美濃加茂市美術展を開催。	2010 年 9 月	「みえないように 川井昭夫展」を開催。
2004 年 2 月	「津田左右吉 -その人と時代- 展」を開催。	2010 年 11 月	第 55 回美濃加茂市美術展を開催。
2004 年 6 月	博物館法に基づく「登録博物館」に認定される。	2010 年 12 月	「美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 共催展
2004 年 7 月	「まちの観察日記展」を開催		「美濃の白隠』展」を開催。
2004 年 10 月	「博学連携フォーラム」(市制 50 周年記念事業)を開催。以降、「博学連携フォーラム」として毎年開催。	2011 年 2 月	「My Space and My Dimension・1960-2010 船坂芳助 版画展」を開催。
2004 年 11 月	「写真で見る美濃加茂市 50 年」(市制 50 周年記念事業)が刊行される。	2011 年 4 月	「ある日の情景、緑と子どもたち 名古屋画廊コレクションから」を開催。
2004 年 11 月	第 49 回美濃加茂市美術展を開催。	2011 年 7 月	「おどろき はっけん みのかもの自然展」を開催。
2005 年 2 月	「情熱の人・坪内逍遙展」(市制 50 周年記念事業)開催。	2011 年 9 月	「景観の彫刻 -庭- 笹谷生展」を開催。
2005 年 7 月	「のこってほしいもの・のこしたいもの 今森光彦 里山物語展」を開催。	2011 年 11 月	第 56 回美濃加茂市美術展を開催。
2005 年 9 月	「素材への思い力と可能性-展」を開催。	2011 年 12 月	「美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業 共催
2005 年 10 月	サークル等による「フリーマーケット」の開催。以降、毎年開催。		「没後 50 年 津田左右吉展」を開催。
2005 年 11 月	第 50 回美濃加茂市美術展を開催。	2011 年 12 月	「中山尚子展 2002-2011」を開催。あわせて中山尚子デザインのクリスマス菓子をショップで販売。以後継続。
2005 年 12 月	「栗田宏一 足もとの土展」を開催。	2012 年 2 月	「自然線人工線 眞板雅文展」を開催。
2006 年 2 月	「廻国・円空-加茂をとおりて-展」を開催。	2012 年 4 月	「高橋余一『生活絵巻』展-暮らしのありかを探し出す-」を開催。
2006 年 7 月	「生きる・くらす 鳥と人展」を開催。	2012 年 7 月	「あそぶ展-夢中になってあそぶ子どもの姿-」を開催。
2006 年 7 月	子どもわくわくプログラム(「文化の森たんけんたい」「ふらっとみゅーじあむ」「フォレストくらぶ」など)を開催。以降、毎年開催。	2012 年 9 月	「みづえ 押江千衣子展」を開催。
2006 年 9 月	「篠原猛史 Biotope Shelter ビオトープの場展」を開催。	2012 年 11 月	第 57 回美濃加茂市美術展を開催。
2006 年 10 月	展示ガイドボランティア企画展示 ちいさな展覧会「円空」を開催。以降、毎年展示ボランティア企画の展示を開催。	2012 年 12 月	「みのかも定住自立圏 加茂の古代風景展-美濃加茂・坂祝・富加-展」を開催。
2006 年 11 月	第 51 回美濃加茂市美術展を開催。	2012 年 12 月	「大嶽有一展」を開催。
2006 年 12 月	「いつもそばにカメラがあった展」を開催。	2013 年 2 月	美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業「岡本一平展-世態人情を描く-」を開催。
2007 年 2 月	「花をみる 鳥を描く 大矢峻嶺展」を開催。	2013 年 4 月	「堀江良一展 版画・油彩」を開催。
2007 年 7 月	「美・粒子展 酒向絵美+渡邊太一郎」を開催。	2013 年 6 月	「渡辺泰幸展」を開催。太田宿界隈で行われる「きそがわ日和」のアートイベント「森の音・川の音」と連携。
2007 年 9 月	「Critical Point 50=0 小島久弥展」を開催。	2013 年 7 月	「鉱物と化石 などと美しさ展」を開催。連携企画として「bee cafe」が 3 種のジオ菓子を販売。以後展覧会にあわせたメニューを考案。
2007 年 11 月	第 52 回美濃加茂市美術展を開催。	2013 年 8 月	『おばあちゃんちのおかって 番外編 漬物特集』を発刊。
2007 年 12 月	「逍遙とシェイクスピア〜世界はすべて劇場である〜展」を開催。	2013 年 9 月	「眠りにつくまで 平川祐樹展」を開催。
2008 年 2 月	「岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎」を開催。	2013 年 10 月	第 10 回目の博学連携フォーラムを開催。テーマ「博物館と子ども、ふたつをつなぐ「人」。
2008 年 4 月	「土に残る記憶Ⅵ-中世びとの世界-展」を開催。	2013 年 11 月	第 58 回美濃加茂市美術展を開催。
2008 年 6 月	「穂苅三寿雄・貞雄写真展」を開催。	2013 年 12 月	「けふ 野辺をあるきて 佐野一彦の「伊深日記」展」を開催。
2008 年 7 月	「暮らしを彩る明治の「刷り物」展 〜半原版画館コレクションから〜」を開催。	2014 年 1 月	地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞。
2008 年 8 月	「子どもわくわく文化の森展」を開催。		美濃加茂市新成人を対象に「二十歳へのアンケート」として、文化の森の思い出や現況について調査を実施。以後継続。
2008 年 9 月	「図鑑庭園 The Garden of the Name 渡辺英司展」を開催。	2014 年 2 月	「みのかも定住自立圏 加茂の遺跡探訪展」を開催。美濃加茂市と加茂郡が締結している定住自立圏事業の一環として位置づける。関連事業としてミュージアムフォーラム「文化遺産と市民その関わり合いを考える」を開催。
2008 年 11 月	第 53 回美濃加茂市美術展を開催。	2014 年 4 月	「里山のオカイコサマ 美濃加茂の養蚕展」を開催。
2008 年 12 月	「峰屋柿 その歴史と人々展」を開催。	2014 年 6 月	「特集 安藤真司展」を開催。
2009 年 2 月	「逍遙と『早稲田文学』展」(美濃加茂市・早稲田大学文化交流事業)を開催。	2014 年 7 月	「逍遙 思いを伝えた手紙と人 展」および「ひかるもののフシギ展」を開催。
2009 年 2 月	「星野道夫展「星のような物語」-学校向け写真展-」を開催。	2014 年 7 月	「ふらっとみゅーじあむ」支援のための中学生ボランティアを募集。以後継続。
2009 年 4 月	「坪内逍遙生誕 150 年記念『山椿花いとなつかしも』展」を開催。	2014 年 9 月	「世界のつくりかた 大巻伸嗣展」を開催。
2009 年 7 月	「なつやすみ歴史探検-考古学にふれる一展」を開催。	2014 年 9 月	美濃加茂市児童生徒科学作品展・社会科作品展に出展された作品を対象とした「文化の森賞」を創設。以後継続。
2009 年 9 月	「Calling 木藤純子展」を開催。	2014 年 11 月	第 59 回美濃加茂市美術展を開催。
2009 年 11 月	第 54 回美濃加茂市美術展を開催。		
2009 年 12 月	「ていねいな暮らしのあったころ-佐野一彦の撮った伊深の里山-展」を開催。		
2010 年 1 月	「すきなものをすきなように 坂井範一展」を開催。		
2010 年 4 月	組織改革によって教育委員会教育部文化振興課が市長部局市民協働部の所管となる。博物館業務、文化財保護業務等は教育委員会の補助執行業務としておこなう。		

2014 年 11 月	みのかも文化の森学習支援ボランティアが「岐阜県地域子ども支援賞」を受賞。	2020 年 4 月	25 日から予定していた企画展「楽しくなる古文書」展を中止し、開催時期の変更をする。
2014 年 12 月	「みのかも定住自立圏 加茂の遺跡展」および「美濃加茂市制 60 周年記念展「1954 年の物語」」を開催。	2020 年 5 月	みのかも文化の森公式 Instagram を始める。
2015 年 2 月	「「地方」文化のつくりびと 詩人・長尾和男と若葉文藝」を開催。	2020 年 6 月	2 日から開館。この間「休館中ですが、「やってみよう」シリーズ」を 9 回にわたり HP 上で紹介する。
2015 年 4 月	「ラインの風景展 めぐる人々とその歴史」を開催。	2020 年 6 月	開館 20 周年にあたり、「おめでとう！ひとことメッセージ」を募集する。
2015 年 7 月	「里山 暮らしとともにある自然展」を開催。	2020 年 7 月	中止していた学校活用を再開する。
2015 年 9 月	「皮膚感覚 阿部大介展」を開催。	2020 年 7 月	「子どもたちの手紙から見る、戦争と暮らし」展を開催。
2015 年 10 月	みのかも文化の森 15 周年を迎え、新たなロゴマークを作成、新しいミュージアムグッズを制作し販売開始。	2020 年 8 月	1 日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため再び臨時休館する(～8 月 17 日)。
2015 年 10 月	15 周年を記念し、ミュージアムフォーラム「地域博物館がこれからめざすところ」、エントランスにおいての展示「ミュージアムニュースにみる文化の森 15 年」、まゆの家の特別行事を開催。みのかも広報 10 月 1 日号に文化の森特集記事掲載。	2020 年 9 月	「みのかも文化の森 20 年 そして、これから」展を開催。歩みを振り返るポスターやここで学習した小学生からの当時の手紙などを展示。おさんぽツアーなど 10 月にかけて様々な企画を実施する。
2015 年 11 月	第 60 回美濃加茂市美術展を開催。	2020 年 9 月	「林武史 石の記憶、泥の声」展を開催。
2015 年 12 月	「旧石器 遺跡と発見展」を開催。	2020 年 10 月	20 周年セレモニーを開催。「未来へ」の独唱、フォレストくらぶメンバーが作ったくす玉でお祝いする。市民や関係者のメッセージ、今までのあゆみをまとめた記念誌を作成、配布する。
2016 年 2 月	「のりつきとしお展」を開催。	2020 年 10 月	常設展示室を「もよう替え」。最近の調査を踏まえて内容を一部更新し、「トッテミデ」など新たなコミュニケーションツールを用意する。関係部分の HP も更新する。
2016 年 4 月	「おどろきとこだわりのミュージアムグッズ展」を開催。各地のミュージアムや個人から多くの出品。また、ショップにて全国各地のグッズを販売し好評。	2020 年 11 月	第 65 回美濃加茂市美術展を開催。
2016 年 7 月	「起点 飛騨街道展」「わくわくを伝えたい 博物館の裏側と『展示』ができるまで展」「ダボ市・美濃加茂市姉妹都市 文化交流企画展 The River 展」を開催。	2020 年 12 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「墨伝う思い 書を通して知る文人 坪内逍遙」展を開催。後半は早稲田大学歴史館へも巡回して展示。
2016 年 9 月	「第 41 回岐阜県移動美術館 ひとをかくひと」開催。	2020 年 12 月	「楽しくなる古文書～明智光秀史料を中心に～」展を開催。当初 4 月からの予定であったものを変更。
2016 年 11 月	第 61 回美濃加茂市美術展を開催。	2020 年 12 月	16 日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示以外の催事や貸館など利用を制限する。2 度延長し翌年 3 月 7 日まで。
2016 年 12 月	「モノを蒐(あつ)めるまなざし 早稲田大学津八一記念博物館蔵のコレクションとともに 展」を開催。	2021 年 1 月	ミュージアムニュースが No.100 となる。デザインを部分的に刷新する。
2017 年 2 月	「静かなる森の要請 篠原芳子展」を開催。	2021 年 1 月	新成人が、かつて文化の森で学習していた様子の写真をエントランスホールにおいて展示。
2017 年 3 月	公式ホームページ、芝生の更新。Wi-Fi 運用開始。	2021 年 2 月	新収蔵品展「座馬井邨の書と歌」を開催。
2017 年 4 月	みのかも定住自立圏第 2 次共生ビジョン関連事業「織田信長の東美濃攻略 加茂に生きた武将たち展」「文化の森コレクション展」を開催。	2021 年 4 月	企画展「沙羅双樹の木の下で」を開催。
2017 年 7 月	夏の展覧会「このあたりの自然」を開催。	2021 年 7 月	企画展「だいすき、虫！」展を開催。
2017 年 9 月	「河村るみ When I am laid in earth ー私が大地に横たわるときー」を開催。	2021 年 8 月	21 日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館する(～9 月 30 日)。開催していた「だいすき、虫！」展や催事をすべて中止する。
2017 年 11 月	第 62 回美濃加茂市美術展を開催。	2021 年 10 月	臨時休館から開館。
2017 年 12 月	「まちのいいもの よいところー山之上ー展」を開催。	2021 年 10 月	企画展「阿曾藍人 Inner Land 内なる大地へ展」を開催。
2018 年 2 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 10 周年記念共催展「絵を通して見る坪内逍遙」開催。	2021 年 11 月	第 66 回美濃加茂市美術展を開催。
2018 年 4 月	「使い込むほどに 暮らしの今むかし展」を開催。	2021 年 11 月	地域・防災情報室がオープンする。
2018 年 7 月	「ダム-木曾川・飛騨川-展」を開催。	2021 年 12 月	企画展「鉄道のまち」展を開催。
2018 年 9 月	「中村裕太 日本ラインの石、岐阜チョウの道」を開催。	2022 年 1 月	新成人が、かつて文化の森で学習していた様子の写真をエントランスホールにおいて展示。
2018 年 11 月	第 63 回美濃加茂市美術展を開催。	2022 年 1 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 21 日～3 月は学校活用の受け入れを中止。
2018 年 12 月	「版画史と「私」 船坂芳助・堀江良一・安藤真司を中心に」を開催。	2022 年 1 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 坪内逍遙大賞受賞記念展「白石加代子と「百物語」の世界」を開催。
2019 年 4 月	「瑞林寺 500 年のはるかな旅路展」を開催。	2022 年 3 月	小学 3 年生の社会科の学習に対応した『みのかものうつりかわり』を作成。
2019 年 7 月	「日本の博物館は岐阜から展」を開催。	2022 年 3 月	「バス停からの小さな旅展」を開催。2019 年から 3 年間にわたり広報みのかもで連載してきた記事を中心に展示する。
2019 年 9 月	「竹田尚史 質量の泉と重力の霧」開催。	2022 年 3 月	文化の森敷地内屋外彫刻の案内看板を新たに設置。
2019 年 11 月	第 64 回美濃加茂市美術展を開催。		
2019 年 12 月	「岐阜大学コレクション展ー岐阜県を知るためにー」を開催。		
2019 年 12 月	「特集展示 後藤秀樹 床の間を離れて。」開催。		
2020 年 3 月	3 日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館する(～6 月 1 日)。予定していた展覧会や催事をすべて中止する。		
2020 年 3 月	市民参加で作成した開館 20 周年記念シンボルマ		

2022 年 3 月	大規模災害により市役所本庁舎が被災した際の防災機能を代替する施設の一つに文化の森が位置付けられ、非常用自家発電機が文化の森敷地内に設置される。	2024 年 6 月	望む山」を開催。
2022 年 4 月	企画展「好奇心の向かうところ、林魁一展」開催	2024 年 7 月	特集展示「美濃加茂の美術指導者たち」を開催。
2022 年 5 月	企画展「みのかも annual 2022」を開催。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため 2020 年度以降GW期間での開催を中止していたが、今回から再開した。	2024 年 9 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業共催展新収蔵記念「本陣の品々」を開催。
2022 年 7 月	企画展「ハコ展～箱膳から「ハコモノ」まで」を開催。	2024 年 10 月	ていねいな暮らしと道具展「言い伝えのお話と道具」を開催。
2022 年 8 月	「ハコ」展にともない「青空図書館」をエントランスホールで開館する。	2024 年 10 月	市制施行 70 周年記念「みのかもで収蔵している資料たち展」を開催。
2022 年 9 月	企画展「舩坂芳助 ドローイング・コラージュ展」を開催。	2024 年 11 月	第 18 回「博学連携ミニフォーラム」を開催。
2022 年 10 月	新しいカフェ「ツナグ」がオープンする。	2024 年 12 月	第 69 回美濃加茂市美術展を開催。
2022 年 11 月	美濃加茂伝承料理の会が調査してまとめた郷土料理のレシピ本「おばあちゃんちのおかって」とそのレシピ本のイラストを使って BEAMS JAPAN が監修、デザインしたバンダナをセットにしたふるさと納税返礼品の取り扱いがスタート。バンダナは、ミュージアムグッズとして単品でも販売。		市制 70 周年記念展「未来に繋ぐ みのかもの 70 年」を開催。HP 上に「美濃加茂市 70 年のあゆみ（年表）」をはじめとする新コンテンツ「美濃加茂のあゆみ」を構築。
2022 年 11 月	第 67 回美濃加茂市美術展を開催	2025 年 2 月	「芸術と自然 美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る」を開催。
2023 年 1 月	早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業「墨痕に咲うー美濃の禅画の世界 白隠と仙厓と」を開催。2022 年 11 月には早稲田大学歴史館においても開催。	2025 年 3 月	資料保管庫を新たに設置。
2023 年 1 月	岐阜県内で初めて“博物館浴”をテーマにした『博物館浴』その効果とこれからを考える研修会」を開催。	2025 年 4 月	企画展「みのかも地域文化資源のある暮らしー「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まるー」を開催。
2023 年 1 月	企画展「風景を愛でる 日下部一司展」を開催。	2025 年 4 月	ていねいな暮らしと道具展「伝えたい地域の食と豊かさ」を開催。
2023 年 3 月	みのかも文化の森内に「逍遙こみち」が整備され、案内板などが設置される。また日本クアオルト研究所から「逍遙こみちコース」が「クアの道」に認定される。	2025 年 6 月	特集展示「まちの音風景展」を開催
2023 年 3 月	美濃加茂伝承料理の会がこれまで取り上げてきた活動の中で「大歳のごっつお（大歳のごちそう）」が「100 年フード」として文化庁により認定、併せて、美濃加茂市民ミュージアムが「食文化ミュージアム」に認定される。	2025 年 7 月	企画展「美濃のキリシタンー秘められた祈りの証しー」を開催。
2023 年 4 月	企画展「「子どもの時のおもひで」を読みとく展・津田左右吉生誕 150 年」を開催。	2025 年 9 月	企画展「橋を渡す 柄澤健介」を開催。
2023 年 5 月	「みのかも annual 2023・みちくさのもり」を開催。	2025 年 9 月	蚕とまゆ展「美濃加茂 養蚕の舞台裏」を開催。
2023 年 5 月	展示「書かれた「この地」を読む みのかもブックマーク パネル展」を開催。	2025 年 11 月	第 70 回美濃加茂市美術展を開催。
2023 年 6 月	文化の森HPデータベース「美濃加茂事典」登録件数 1000 件達成。	2026 年 1 月	企画展「明治之花 石版画百景ー半原版画館コレクションからー」を開催。ミュージアムコレクションのデータベースに「糸魚川コレクション」を構築。
2023 年 7 月	企画展「いつも近くに石・石・石 みのかもの大地と足元の石たち 展」を開催	2026 年 3 月	新博物館法による登録博物館として承認される。
2023 年 9 月	早稲田大学・美濃加茂市共催展「生誕 150 年 津田左右吉と藝術ー心を寄せた美術・音楽・演劇の世界ー」を開催。2023 年 11 月には早稲田大学歴史館においても開催。		
2023 年 11 月	第 68 回美濃加茂市美術展を開催。		
2024 年 1 月	新成人が、かつて文化の森で学習していた様子の写真をエントランスホールにおいて展示。		
2024 年 1 月	企画展「瀬田哲司展 メダルのはなしー銀の植物と銀色の記憶ー」を開催。		
2024 年 3 月	企画展「石に刻む 展ーとどめる記録、まじわる思いー」を開催。		
2024 年 4 月	収蔵品展「蚕とまゆ展」を開催。		
2024 年 4 月	「みのかも annual2024ーでもそこに自分はいるー」を開催		
2024 年 5 月	広報みのかも連載コラム紹介展「みのかもの山、		

みのかも文化の森 年報 Vol.26 2025 年度

2026(令和8)年9月1日

編集・発行 美濃加茂市市民協働部 文化振興課（みのかも文化の森）

〒505-0004

岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1

電話 0574-28-1110

FAX 0574-28-1104

<https://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

印刷 有限会社 永田印刷

